HP OpenView Performance Insight

インストールガイド

ソフトウェアパージョン:5.1.1

HP-UX、Linux、Solaris、Windows オペレーティングシステム用



Manufacturing Part Number: J5223-99039

2005年6月

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

- 1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
- 2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかね ます。
- 3.当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作 者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止され ています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company

United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

Copyright Notices

© Copyright 1992 -2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Trademark Notices

Java[™]は Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における米国の商標です。 MS-DOS[®]、Windows[®]、Windows NT[®]は、Microsoft[®] Corp. の米国の登録商標です。 OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。Oracle[®] は Oracle Corporation, Redwood City, California の米国の登録商標です。Netscape Navigator は、 Netscape Communications Corporation の米国の商標です。UNIX® は The Open Group の登 録商標です。

その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承 認されています。

原典

本書は『HP OpenView Performance Insight Installation Guide Software Version: 5.1』 Manufacturing Part No. J5223-90039 (February 2005) を翻訳したものです。

リビジョン

このドキュメントのタイトルページにあるバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示しています。このタイトルページにある印刷日付は、このドキュメントが更新されるたびに変更されます。

該当する製品サポートサービスをご契約になれば、更新版または新しい版を受け取ることができ ます。詳細については、HPにお問い合わせください。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

http://openview.hp.com/(英語) http://www.hp.com/jp/openview/(日本語)

これらのサイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

直接、以下のサポートサイトにアクセスすることもできます。

http://support.openview.hp.com/

HP OpenView のオンラインソフトウェアサポートでは、お客さまが自己解決できるための方法 をご提供しています。サポートサイトでは、お客さまのビジネスの運用に役立つ対話形式の技術 サポートツールに手早く効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースを登録/トラッキングする

- サポート契約を管理する
- **HP** サポートの問合わせ先を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のお客様とのディスカッションに参加する
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport ID のご登録は、次の URL で行ってください。

https://passport.hp.com/hpp2/newuser.do(英語)

目次

第1章

OVPI のコンポーネント 12 OVPI データベース 13 パフォーマンスマネージャ 13 Web アクセスサーバー 14 OVPI クライアント 14 OVPI シライアント 14 管理サーバー 16 リモートポーラー 16 ワVPI システムの役割とタスク 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー 17 サテライトサーバー 18 中央サーバー 18 Web アクセスサーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第 2 章 インストールの準備 21 OVPI の構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27	第1章	OVPIの概要11
OVPI データベース 13 パフォーマンスマネージャ. 13 Web アクセスサーバー 14 OVPI クライアント 14 管理サーバー 14 管理サーバー 16 リモートポーラー 16 ワモートポーラー 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー 17 リモートポーラー 18 中央サーバー 18 Web アクセスサーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第 2 章 インストールの準備 21 OVPI の構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		OVPI のコンポーネント 12
パフォーマンスマネージャ		OVPI データベース 13
Web アクセスサーバー 14 OVPI クライアント 14 管理サーバー 16 リモートポーラー 16 OVPI システムの役割とタスク 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー 17 リモートポーラー 17 リモートポーラー 18 中央サーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第 2 章 インストールの準備 21 OVPI の構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		パフォーマンスマネージャ13
OVPI クライアント 14 管理サーバー 16 リモートポーラー. 16 OVPI システムの役割とタスク 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー. 17 リモートポーラー. 17 サテライトサーバー 18 中央サーバー 18 Web アクセスサーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて. 19 第 2 章 インストールの準備 21 OVPI の構成方法. 22 分散型構成を採用する理由. 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題. 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		Web アクセスサーバー14
 管理サーバー 16 リモートポーラー. 16 OVPIシステムの役割とタスク. 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー. 17 サテライトサーバー. 18 中央サーバー. 18 Web アクセスサーバー. 18 システムの役割とコンポーネントについて. 19 第2章 インストールの準備. 21 OVPIの構成方法. 22 分散型構成を採用する理由. 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題. 26 専用システム. 27 レポートパックの更新 27 		OVPI クライアント 14
リモートポーラー		管理サーバー
OVPIシステムの役割とタスク 16 スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー 17 サテライトサーバー 18 中央サーバー 18 Web アクセスサーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第2章 インストールの準備 21 OVPIの構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		リモートポーラー16
スタンドアロンシステム 17 リモートポーラー 17 サテライトサーバー 18 中央サーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第2章 インストールの準備 OVPIの構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		OVPI システムの役割とタスク16
リモートポーラー		スタンドアロンシステム 17
サテライトサーバー 18 中央サーバー 18 Web アクセスサーバー 18 システムの役割とコンポーネントについて 19 第2章 インストールの準備 OVPI の構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		リモートポーラー
中央サーバー18Web アクセスサーバー18システムの役割とコンポーネントについて19第2章インストールの準備21OVPIの構成方法22分散型構成を採用する理由22一般的な分散型構成24インストール前に考慮すべき問題26専用システム27レポートパックの更新27		サテライトサーバー 18
Web アクセスサーバー		中央サーバー
システムの役割とコンポーネントについて		Web アクセスサーバー18
第2章 インストールの準備 21 OVPIの構成方法 22 分散型構成を採用する理由 22 一般的な分散型構成 24 インストール前に考慮すべき問題 26 専用システム 27 レポートパックの更新 27		システムの役割とコンポーネントについて
OVPI の構成方法	第2章	インストールの準備
 分散型構成を採用する理由		OVPI の構成方法
ー般的な分散型構成		- 分散型構成を採用する理由
インストール前に考慮すべき問題		一般的な分散型構成
専用システム		インストール前に考慮すべき問題 26
レポートパックの更新 27		専用システム
		レポートパックの更新
ポーリングおよび SNMP の接続性		ポーリングおよび SNMP の接続性 27

レポートを利用するクライアントの接続性	27
一般的なネットワーク接続性	27
SNMP Security Pack	28
国際化とローカライズ	28
ネットワークノードマネージャ統合	28
インストールの前提条件のチェックリスト	29
システムの要件	30
サポート対象のオペレーティングシステムおよび	
データベース管理システム	31
UNIX のサポートされているデスクトップ	32
デフォルトのポート番号	32
Java の実行で必要なパッチ	34
インストールされているパッチの表示	34
必要な Java パッチ	35
HP-UX システムの OVPI コンポーネントに必要なその他のパッチ	35
データベースのハードウェア要件	36
デフォルトのメモリーおよび記憶領域の要件	38
最小記憶領域要件	39
データベースメモリー構成	39
OVPI データベースの最小記憶領域要件	40
OVPI 記憶領域要件	41
デバイスサイズの制限	41
アドレス指定可能なメモリーの制限	42
UNIX 固有の要件	43
raw パーティションと UNIX ファイルシステムの使用	43
raw パーティションと UNIX ファイルシステムとの比較	44
raw パーティションの使用	44
UNIX ファイルシステムの使用	45
raw パーティションの設定	46
Solaris の raw パーティションの設定	46
HP-UX の raw パーティションの設定	49
セットアッププログラムの起動	60

第3章	データベースのインストール
	Oracle 9.2.0.5 のインストール
	表領域の作成 68
	ストライプサイズの決定71
	データベースブロックサイズの決定
	キャッシュサイズの決定71
	表領域のサイズ設定のガイドライン
	既存のリモート Oracle データベースの使用 74
第4章	Oracle での OVPI のインストール
	OVPIのインストール - スタンドアロン 80
	コンポーネントのインストールの準備80
	OVPI のインストール
	文書のインストール107
	UNIX でのインストール 107
	Windows でのインストール 109
	サービスパックの適用 109
	インストール後の設定作業 109
第5章	分散型構成での OVPI のインストール
	インストールの前提条件111
	OVPI のインストール
	例 : 分散型構成での OVPI のインストール
	OVPI のコンポーネントの個別インストール
	データベーススキーマおよびパフォーマンスマネージャコンポーネントの
	Oracle へのインストール
	Web アクセスサーバーのインストール132
	クライアントコンポーネントのインストール
	リモートポーラーコンポーネントのインストール
	文書のインストール152
	UNIX でのインストール
	Windows でのインストール 154
	サービスパックの適用154
	インストール後の設定作業 154

第6章	OVPI のアンインストール アンインストールウィザードの起動	$\begin{array}{c} 155\\ 155 \end{array}$
第7章	OVPI のアップグレード システムの要件 サポートされている OVPI のバージョン アップグレード用メディア オペレーティングシステム要件	161 161 162 162 162
	オペレーティングシステム別 Java パッチ要件	163
	テーダペースのハーション要件 事前に必要な作業のチェックリスト	163 163
	OVPI Timer と OVPI HTTP Server の停止	165
	OpenView Operations Agent の停止	165
	データベースの実行	166
	データベースが稼動していることの確認 (Windows)	166
	データベースが稼動していることの確認 (UNIX)	167
	コンポーネントのアップグレード順序	168
		169
	OVPIのアップグレード手順	169
	レホートハックとナーダハイブのアップクレード	176
	ノッノクレートに関りる基本情報	177
	OVPI と RNS との互換性の問題	177
		178
	共有ハックーン	178
	レホートハック	101
	ハッケーンのアッフクレート 手順	101
	OVPI 11mer を停止させる	182
		182
	f = f = f = f = f = f = f = f = f = f =	184
	ハッケーシティレクトリの作成	185
	RNS CD からのバッケーシの抽出	186
	レボートバックのインストール	186
	レボートおよびフォームの配布	188
	アップグレード後の作業	189

	リモートポーラーのアップグレード 18 最新の OVPI サービスパックの適用 19	$\frac{9}{2}$
付録 A	トラブルシューティング 19 UNIX に関連する問題 19 OVPI の起動 (Solaris の場合) 19 Windows に関連する問題 19 インストールウィザードのウィンドウの表示の修正 19 手作業による OVPI のアンインストール 19	3 3 4 4 5
付録 B	Pre-Upgrade Checker エラーメッセージ 19	9
索引		1

1

OVPIの概要

HP OpenView Performance Insight (OVPI) は、ネットワークデータの収集と分析を自動化する総合的なパフォーマンス管理ソリューションであり、収集した情報を指定したレポートフォーマットで生成します。

OVPIを使用すると、ネットワーク管理者はサービスレベルの管理、既存のリ ソースの最適化、将来の拡張の正確な計画、ネットワークの障害の事前予測をす ることができます。

OVPI では、レポートインタフェースとして、レポートビルダ、レポートビュー ア、および Web アクセスサーバーの各クライアントアプリケーションを使用し ています。管理コンソールアプリケーションおよび Web アクセスサーバーアプ リケーションは、レポート機能と管理機能を提供します。

OVPI は、HP-UX、Solaris、Windows の各オペレーティングシステムをサポートしています。サポートされているバージョンおよび必要なパッチについての詳細情報は、30ページの「システムの要件」を参照してください。

OVPI のモジュール方式のクライアントサーバー アーキテクチャは拡張性を提供し、以下を実現します。

- シングルホストシステムにアプリケーションをインストールして1台のユー ザー管理ステーションを設定する。
- 複数のシステムにアプリケーションを配布し、複数のユーザー、組織、ロケーションを包括するネットワーク規模の管理環境を構築する。



図1に、OVPIのアーキテクチャを示します。

図1 OVPIのアーキテクチャ

大規模なエンタープライズネットワークで OVPI を使用している場合は、シン グルホストシステムでは、処理能力やディスクスペースが不足して、OVPI が ネットワークを最適に監視できない場合があります。

OVPI のコンポーネント

OVPI は以下のコンポーネントで構成されています。

- OVPI データベーススキーマ
- OVPI パフォーマンスマネージャ

- Web アクセスサーバー
- OVPI クライアント
- 管理サーバー
- リモートポーラー

OVPI データベース

OVPI データベースは、他の OVPI アプリケーションによって収集、処理および レポートに使用するデータの一次リポジトリです。このコンポーネントは OVPI のデータベースサーバーを構成し、OVPI スキーマを作成します。Oracle の場 合、OVPI データベースを使用して表領域を作成したり、OVPI 用に設定されて いる既存の表領域にインストールしたりできます。Sybase の場合、OVPI の データベースセグメントを作成します。管理サーバーは、このコンポーネントと 共にインストールされます。

パフォーマンスマネージャ

パフォーマンスマネージャは、ネットワーク全体のアプリケーションおよび ネットワークデバイスから収集されたデータの保存、処理、およびアクセスの ためのエンジンとして機能します。パフォーマンスマネージャは、自動的にデー タを集約、要約し、期限が切れたデータを除外します。

パフォーマンスマネージャはリレーショナルデータベースとサーバーソフト ウェアから構成されています。データベースには、OVPIサーバーが収集および 処理するデータを格納します。データベースのサイズは、保存対象のデータの量 やポーリング対象のネットワーク機器の数など、さまざまな要因によって決ま ります。サーバーには、データを収集、処理し、データからレポートを生成する プログラムが含まれます。

パフォーマンスマネージャは1台または複数の物理的なサーバーで使用可能で す。これらのサーバーの1台は*中央サーバーと*して使用され、OVPIシステムの 中心に位置し、大量のデータが保持されます。通常、このサーバーでデータを処 理し、レポートを生成するため、このシステムは、大量のディスクスペースと メモリー、および高い処理能力を有しています。一般的に、中央サーバーは1 台だけ設置します。 その他の物理サーバーはサテライトサーバーと呼ばれます。これらのマシンに は、データと OVPI システムが含まれます。一般的に、これらのサーバーでは 第一段階の処理のみが行われ、その後、データは中央サーバーに転送されます。 処理を行わずにデータを中央サーバーに転送できる場合もありますが、その場 合は転送されるデータが非常に大量です。これら以外の場合は、処理サイクルが 完了してから中央サーバーにデータを転送します。OVPI を大規模な環境に配布 する場合は、複数のサテライトサーバーから構成することもできます。

Web アクセスサーバー

Web アクセスサーバーは、サービスでもありアプリケーションでもあります。 このコンポーネントはサービスとしてインストールされ、それと共に以下の OVPI クライアントアプリケーションが自動的にインストールされます:レ ポートビルダ、レポートビューア、Web アクセスサーバー(アプリケーション サーバー)、管理コンソール。

Web アクセスサーバーは、サービスとして、OVPI クライアントの認証および 設定サービスを提供します。Web ベースのレポートユーティリティおよびユー ザー管理ユーティリティを提供します。詳細は『*Performance Insight 管理ガイ* ド』を参照してください。

OVPI クライアント

OVPI クライアントは OVPI へのインタフェースを提供します。任意のネット ワークシステムにクライアントをインストールできます。OVPI クライアントア プリケーションには以下のものがあります。

- レポートビルダ。OVPIデータベースのデータに基づき、複数の表とグラフを使用してレポートを作成、カスタマイズできます。詳細は、 『Performance Insight レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。
- レポートビューア。レポートを対話形式で表示、変更、保存、印刷できます。詳細は、『Performance Insight レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。
- Web アクセスサーバー。このコンポーネントには、Web アクセスサーバー と呼ばれる Web ベースのアプリケーションサーバーが含まれています。このアプリケーションを使用して、レポートの表示、スケジュール、生成、配

布ができます。また、OVPI クライアントのアプリケーションとサービスに 関連する管理タスクも実行できます。(サポートされている Web ブラウザの 詳細は、29 ページの「インストールの前提条件のチェックリスト」を参照 してください。)Web アクセスサーバーのアプリケーションとサービスに関 する詳細は、『Performance Insight レポートの作成および表示ガイド』およ び『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

- 管理コンソール。以下のアプリケーションを使用して管理タスクを実行できます。
 - データベースチューナー。全体的なデータスループットを向上させる、
 多くのデータベース構成パラメータを設定できます。
 - MIB ブラウザ。SMI (管理情報構造)に準拠した SNMP MIB を分析、
 照会、トラブルシューティングできます。
 - SNMP 検出。ネットワーク上のノードを検出し、ノードが SNMP 管理 対応であるかどうかを判定できます。
 - ― タイプ検出。ノードのデバイスタイプを判定できます。
 - パッケージマネージャ。パッケージのインストールとアンインストール、
 Web アクセスサーバーへの配布と Web アクセスサーバーからの配布解除を実行します。
 - オブジェクトマネージャ。システム上の管理対象オブジェクトを表示および変更できます。
 - システムマネージャ。データベースおよび Web アクセスサーバーシステムを追加、変更、削除できます。
 - グループマネージャ。管理対象オブジェクトからグループを作成できます。作成されたグループは、企業内に策定したポーリングポリシーの適用範囲として利用できます。
 - ポーリングポリシーマネージャ。ポーリングポリシーの管理、ノードの インポートおよび管理、ポーリンググループの管理を行います。

- テーブルマネージャ。データベースを監視し、データおよびプロパティ テーブルを表示し、テーブルのデフォルト値を設定できます。デフォル ト値については、個別のテーブルまたはすべてのテーブルに対して設定 できます。
- クライアントのみのインストールをした場合は、通常の OVPI 全体の インストールをしたあとに使用できる、[ツール]メニューの次の管 理コンソールアプリケーションが、使用できません:データベース チューナー、MIB ブラウザ、SNMP 検出、タイプ検出、およびパッ ケージマネージャ。さらに、新しいデータテーブルまたはプロパティ テーブルを登録することも、収集データをデータベースに自動的に追 加することもできません。

全機能を有効にするには、パフォーマンスマネージャをインストール する必要があります。

管理サーバー

管理サーバーの役割は、レポートパックのインストール時に配布される管理 サービスおよびフォームを、管理コンソールアプリケーションに提供すること です。

リモートポーラー

*リモートポーラー*は、ネットワーク上のノードからデータを収集し、OVPIデー タベースを実行しているサーバー(通常はサテライトサーバー)にそのデータを 保存するシステムです。各 OVPIデータベースサーバーは複数のリモートポー ラーをサポートできます。

OVPI システムの役割とタスク

データの収集、処理、レポート生成のプロセスは、以下のタスクに分解できま す。

- データ収集
- 未処理のデータから割合データへの変換処理

- 割合データから時間単位データへの要約
- 時間単位データからの日単位、月単位、予測データへの要約、またはこれら すべて
- レポート要求のサービス
- レポートの表示と作成

OVPI システム(スタンドアロンシステム、リモートポーラー、サテライトサー バー、中央サーバー、Web アクセスサーバー)の役割は、実行するべきタスク によって決まります。各タスクには特定の OVPI コンポーネントセットが必要 です。

スタンドアロンシステム

スタンドアロンシステムは、すべての OVPI コンポーネントがインストールさ れている単一のシステムです。スタンドアロンシステムでは、データの収集と 処理、Web サーバーからアクセス可能なレポートの生成、レポートビューアお よびレポートビルダアプリケーションの実行が可能です。スタンドアロンシス テムは、16 ページの「OVPI システムの役割とタスク」に記述されているすべ てのタスクを実行します。

リモートポーラー

*リモートポーラー*は、データを収集し、それを別の場所に保存するシステムで す。リモートポーラーにはデータベースがなく、データに対する処理を一切行 いません。リモートポーラーは 16 ページの「OVPI システムの役割とタスク」 に記述されているデータ収集タスクを実行します。

一般的にリモートポーラーはデータをサテライトサーバーに保存しますが、サ テライトサーバーはターゲットとなるデバイスまたはポーリングされたデバイ スの近くにあります(ネットワークパスという点で)。このため、信頼性が低く サイズが大きい SNMP パケットの移動距離が短縮されます。



OVPI 管理者は、リモートポーラーを設定する際に、重複ポーリングを回避す る必要があります。重複ポーリングは、同じデバイスが複数のポーリングを行う システムによってポーリングされる場合に発生します。

サテライトサーバー

サテライトサーバーは通常、Webアクセスサーバー以外のすべてのOVPIコン ポーネントがインストールされているシステムですが、通常は時間単位のレベ ルを超えて収集されたデータの処理を実行することはありません。一部集約さ れたデータは中央サーバーにコピーされ、そこで集約が完了します。複数のリ モートポーラーがサテライトシステムにレポートできます。

サテライトサーバーは通常、16ページの「OVPIシステムの役割とタスク」に 記載されている未処理のデータから割合データへの変換処理と、割合データか ら時間単位のデータへの要約タスクを実行します。

場合によっては、サテライトサーバーは完全なデータ集約およびレポート生成 を実行する完全なスタンドアロンシステムとして実行されますが、その場合で も、未処理のデータ、割合データ、または一部集約されたデータは中央サー バーにコピーされます。このため、各サテライトサーバーにおいて局所的なレ ポートを表示できると共に、中央サーバーでネットワーク全体のレポートも利 用することができます。

中央サーバー

*中央サーバー*システムには通常、Webアクセスサーバー以外のすべての OVPI コンポーネントがインストールされています。1 つまたは複数のサテライトサー バーから一部処理済のデータを受信し、通常は時間単位以上のデータ処理を担 当し、最終段階までデータを処理します。中央サーバーは、16ページの 「OVPIシステムの役割とタスク」に掲載されている日単位、月単位、および予 測データの要約を実行します。

Web アクセスサーバー

Web アクセスサーバーは OVPI Web サイトをホストするシステムです。また、 OVPI クライアントのユーザー認証にも使用します。

Web アクセスサーバーは、多くの場合大量のメモリーと CPU を必要とします。 そのため、Web アクセスサーバーをインストールするシステムには、その他の OVPI プロセスが実行されていないシステムを選択することを強くお勧めしま す。

システムの役割とコンポーネントについて

表1に、各システムの役割に対して一般的にインストールされる OVPI ソフト ウェアコンポーネントを示します。

システムの役割	Sybase または Oracle	OVPI データ ベース	OVPI パフォーマンス マネージャ	Web アクセス サーバー	クライ アント	リモート ポーラー
スタンドアロン	Х	Х	Х	Х	Х	
リモートポーラー						Х
サテライトサーバー	Х	Х	Х		Х	
中央サーバー	Х	Х	Х		Х	
Web アクセスサーバー				X		

表1 一般的なソフトウェアコンポーネントの構成

第1章

OVPI の概要

2

インストールの準備

本章では、HP OpenView Performance Insight (OVPI)のインストールに必要な 前提条件とガイドラインについて説明します。ここでは、以下の内容について説 明します。

- OVPI の構成方法
- サポート対象のオペレーティングシステム、UNIX デスクトップ、および データベース管理システム
- Java の実行で必要なパッチ
- OVPI で必要な HP-UX のパッチ
- すべての OVPI コンポーネントがインストールされた場合のデフォルトのメ モリーおよび記憶領域容量に関する要件
- UNIX システムのみ: Sybase をインストールする際のカーネルの再構成、 raw パーティションの設定コマンド、および Sybase のデバイスサイズの制 限

- セットアッププログラムを起動するための手順
- インストールを始める前に、インストールキットに含まれている『Performance Insight リリースノート』に目を通しておくことを強くお勧めします。このド キュメントは、OVPIバージョン 5.1.1 のリリースでの変更についての概要を説 明しています。

OVPIの構成方法

OVPIは、単一のサーバーのみを含むスタンドアロンシステムとしても、または 複数のサーバーを含む分散システムとしても動作します。

スタンドアロン構成では、OVPIのすべてのコンポーネントが1つのシステムに インストールされます。分散型構成では、OVPIの各コンポーネントを物理的に 離れた複数のシステムにインストールし、OVPI全体を1つの分散型システムと して動作させます。どちらの構成でも、ユーザーは、Webアクセスサーバーに アクセスできるすべてのイントラネットまたはインターネット上のワークス テーションでレポートを表示できます。

分散型構成を採用する理由

OVPI を分散型構成で導入する理由はさまざまです。特に、以下の条件のいずれ かに当てはまる場合は、分散型構成によってパフォーマンスの向上が期待でき ます。

- 地理的に分散している大規模なネットワークを使用していて、各地域についてそれぞれ独自のレポートが必要な場合
- 1つのサーバーで処理できる量(一般的にポーリングおよび要約対象の オブジェクト数 20.000)を超えるオブジェクトがある場合

処理負荷の分散というメリットもありますが、地理的、組織的、または機能的 な要因も検討の対象になりえます。監視対象のネットワークとユーザーの作業内 容を検証することによって初めて、全体のバランスが取れます。

全体のバランスを取るために役立つ検討事項を以下に示します。

管理対象の構成要素の数。

+分な処理能力が確保されているかを検証します。OVPI がレポートする必要のある構成要素の数は、必要なシステムの数に直接影響します。環境によって、最低1台ずつ各種システムを用意する必要がありますが、場合によって、分散アーキテクチャがまったく必要なくなります。この点については、HPの営業担当者にお問い合わせください。

管理対象デバイスの位置。

*ネットワーク管理インフラストラクチャの速度を検証します。*管理対象デバ イスが地理的に分散している場合、リモートポーラーが必要になります。一 般的なケースとしてデータ収集が SNMP を使用して行われる場合、デバイ スの近くにリモートポーラーシステムを導入すると、サイズが大きく信頼性 が低い SNMP パケットの移動距離を(ネットワークパスの点で)短くする ことができます。このため、ポーリング周期を短縮でき、データ収集のパ フォーマンスが改善されます。

サテライトサーバーでのレポートの必要性。

ユーザーの種類と各種ユーザーの作業内容を検証します。複数のサテライト サーバーを設置しなければならないほどネットワークの規模が大きい場合 は、他の要因を考慮する必要があります。たとえば、各サテライトサーバー に、ユーザーグループの作業対象であるデバイスグループを割り当てるかを 検討します。

たとえば、ネットワークが複数の地域に分散している場合は、各地域に1つ ずつサテライトサーバーを配置するとよいでしょう。この場合、各地のユー ザーはその地域に固有のレポートを表示できます。

中央サーバーにアクセスすれば同じレポートを参照できますが、一部のユー ザーにとっては、ローカルなシステムレポートにアクセスする方が都合が良 い場合もあります。このような場合には、サテライトサーバーは完全なデー タ処理サイクルを実行する必要があり、Webアクセスサーバーもインス トールする必要があります。その場合、サテライトサーバーにかかる処理負 荷は大きくなりますが、地域的に存在するユーザーと中央のWebアクセス サーバー間のネットワークトラフィックは軽減されます。

中央サーバーでの準リアルタイムレポートの必要性。

ユーザーの種類と各種ユーザーの作業内容を検証します。収集したデータを サテライトサーバーで時間単位まで処理してから、中央サーバーにコピーす る方法が、データの集約や転送に関して最も効率の良い構成です。 この構成の利点は、中央サーバーの処理負荷を減らすことができるだけでな く、サテライトサーバーと中央サーバーとの間のネットワークトラフィック も軽減できることです。ただし、中央サーバーは詳細なレポートが利用でき なくなります。準リアルタイムレポートなどの一部のレポートを表示するに は、最も精度の高い割合データが必要です。このようなデータが利用できな い場合、レポートは正常に動作せず、システムから削除する必要があるた め、機能が減少します。

これらのレポートを表示する必要のあるユーザーには、以下のオプションが 与えられています。

- 一時間単位のデータではなく割合データを中央サーバーに転送する。この 場合、サテライトサーバーの処理負荷は削減されますが、中央サーバー の処理負荷は大幅に増大します。また、大量のポーリングデータがサテ ライトサーバーと中央サーバー間を移動するため、レポートシステム全 体のネットワーク使用量も増大します。
- 割合データと時間単位のデータの両方を中央サーバーに転送する。この 場合、レポートシステム全体のネットワーク使用量が大幅に増大します。
- 一時間単位のデータのみを中央サーバーに転送するが、サテライトシステムでの地域的なレポート機能を有効にし、各サテライトシステムで準リアルタイムレポートを利用可能にする。この場合、サテライトサーバーはレポート要求に対応しながら日単位および月単位の集約も実行する必要があるため、サテライトサーバーの処理負荷が増大します。また、ネットワーク全体ですべてのレポートパックを1つのシステムから利用できないため、管理者は特定地域のトラフィックに関する詳細なレポートを利用するために各地のサーバーにアクセスする必要があります。

一般的な分散型構成

OVPI は極めて柔軟性が高く、さまざまな構成が可能です。ガイドラインとして、非常に大規模なネットワークの一般的なアーキテクチャでは、複数のポーラーシステムが管理対象デバイスの近くに配置されます(26ページの図1を参照)。各ポーラーは親のサテライトシステム(通常はその地域の拠点)と通信する必要があります。各デバイスは1つのポーラーによってポーリングされ、 OVPI 管理者は同じデバイスを重複してポーリングすることのないようにしなければなりません。 サテライトシステムは、ポーリングされてすぐの未処理のデータを時間単位ま で要約します。これには非常に大量のデータサンプルを処理するため、多くの CPU時間を使用します。一般的にサテライトシステムは、時間単位以上にデー タを集約することはありません。

サテライトシステムはネットワーク全体の時間単位の要約データを中央サー バーにコピーするように構成され、そのデータは中央サーバーで他のサテライ トサーバーからのデータとまとめられます。中央サーバーは最終的な処理を実行 し、レポートパッケージに基づいて時間単位から日単位、月単位、または予測 レベルにデータを集約します。

Web アクセスサーバーは別のシステムにインストールされ、中央サーバーの データベースを使用して、受信するレポート要求に対応します。

このアーキテクチャがレポート環境として適していない場合は、HPの営業担当 者にお問い合わせください。



図1 一般的な SNMP ポーリングシステム用分散型アーキテクチャ

インストール前に考慮すべき問題

以降の各項では、インストールを始める前に考慮すべき一般的な問題について 説明します。

専用システム

OVPI は CPU およびディスクを大量に使用するアプリケーションです。OVPI は、OVPI のみを実行する専用のシステムにインストールする必要があります。

レポートパックの更新

OVPIを新規にインストールする場合以外は、レポートパックを変更する必要が ある場合があります。どのように変更するかは、レポートパックごとに異なりま す。詳細は、176ページの「レポートパックとデータパイプのアップグレード」 およびレポートパックに付随するユーザーガイドを参照してください。

ポーリングおよび SNMP の接続性

ネットワークからデータを収集するシステムは、中間的なファイアウォールを 介してネットワークデバイスに接続する必要があります。サテライトサーバーが 複数のポーラーを管理する場合は、各ポーラーがポーリングするデバイスを分 割するための特殊なポーリングポリシーを作成する必要があります。ポーリング ポリシーの作成についての詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照 してください。

レポートを利用するクライアントの接続性

ユーザーがWebブラウザを使用してレポートを表示する必要がある場合は、すべてのユーザーにシステムとWebアクセスサーバー間のHTTP接続が必要です。ユーザーがレポートビューアまたはレポートビルダアプリケーションを使用する場合は、クライアントシステムとWebアクセスサーバーシステム、適切なポート上のデータベースサーバー間の接続性が必要です。

一般的なネットワーク接続性

使用可能なポートの範囲を特定して、すべての OVPI システム間の接続を可能 にする必要があります。詳細は、32ページの「デフォルトのポート番号」を参 照してください。

SNMP Security Pack

SNMPv3 ノードからデータを収集する場合、SNMP Research から入手できる SNMP Security Pack をインストールする必要があります。詳細については、次 の Web サイトを参照してください。

http://www.snmp.com

オペレーティングシステムに合わせて以下のバージョンをインストールしてください。

- バージョン 16.1.0.19 (UNIX の場合)
- バージョン 16.1.0.35 (Windows の場合)

SNMPv3 ノードも設定する必要があります。詳細については、『Performance Insight 管理ガイド』の第2章を参照してください。

国際化とローカライズ

OVPI には国際化をサポートしています。

OVPIは、サポートされているオペレーティングシステムのどの言語バージョン にもインストールできます。ただし、バージョン 5.1.1 では、OVPI は次の言語 用にしかローカライズされていません:日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字 中国語。

データベースサポートは Oracle 向けに国際化されています。Sybase データベー スシステムでは、英語ベースのシステムを使用する必要があり、ローカライズ されたデータはサポートされていません。

ネットワークノードマネージャ統合

OVPIとネットワークノードマネージャ (NNM) が同じマシンに共存する場合、 NNM 7.5 L10N 以降を使用する必要があります。

インストールの前提条件のチェックリスト

以下のチェックリストを使用して、OVPIのインストールの前提条件を満たして いることを確認してください。

- 1 OVPIをスタンドアロン構成と分散型構成のどちらでインストールするかを 決定してある。
- OVPIをインストールするシステムが、最小インストール要件に適合している。

詳細は、30ページの「システムの要件」を参照してください。

- **3** Compaq Insight Manager サービスを停止している (OVPI を Compaq シス テムにインストールする場合)。
- **4 OVPI** のインストールを開始する前に、データベースをすでにインストール していて、動作中である。

データベースのインストールの詳細は、第3章「データベースのインストー ル」を参照してください。

5 HP 独自のメモリー管理サービスを実行する Windows システムのみ:

OVPI をインストールする前に、以下のサービスを無効にする。

- HpComponent
- HPEventLog
- HPFpcSvc
- HpLerSvc
- HPSdnSvc
- 6 Web アクセスサーバーのみ:
 - a 以下のいずれかの Web ブラウザがインストールされている必要があり ます。
 - Microsoft Internet Explorer 5.5 以降
 - Netscape Navigator 6.0 以降

b Web ブラウザでは Java スクリプトが有効になっている必要があります。そうでないと、Web アクセスサーバーアプリケーションのナビゲーションフレームを参照できません。

Java スクリプトを有効にするには、Web ブラウザによって以下のいず れかを実行します。

Internet Explorer

ブラウザの[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選 択します。[インターネットオプション]ダイアログボックスが表示 されます。[セキュリティ]タブを選択します。Web コンテンツの ゾーンで[インターネット]をクリックし、[レベルのカスタマイズ]を クリックします。[セキュリティの設定]ダイアログボックスが表示 されます。設定の一覧を下へスクロールし、スクリプトの設定を探 します。[アクティブスクリプト]の下の[有効にする]を選択しま す。[セキュリティの設定]ダイアログボックスの[OK]をクリック します。[インターネットオプション]ダイアログボックスの[OK]

Netscape Navigator

ブラウザの[編集]メニューから[**設定**]を選択します。[設定]ダイ アログボックスが表示されます。[詳細]に移動し、[スクリプトとプ ラグイン]をクリックします。[JavaScript を有効にする]ボックスで [Navigator]を選択します。[設定]ダイアログボックスの[OK]をク リックします。

システムの要件

この項では、OVPIソフトウェアのインストールと実行に必要な以下のシステム 要件について説明します。

- サポート対象のオペレーティングシステムおよびデータベース管理システム
- 国際化とローカライズの問題
- デフォルトのポート番号
- Java の実行で必要なパッチ
- HP-UX システムで必要なパッチ

- ハードウェア要件
- すべての OVPI コンポーネントがインストールされた場合のメモリーおよび 記憶領域容量に関する要件

サポート対象のオペレーティングシステムおよびデータベース 管理システム

表1に、OVPI がサポートしているオペレーティングシステムおよびデータベー ス管理システム (Sybase Adaptive Server バージョン 11.9.2.5 ESD 1 または Oracle 9.2.0.5) と、各オペレーティングシステムでサポートされている OVPI コンポーネントを示します。

オペレーティングシステム	データベース 管理システム	OVPI コンポーネント
HP-UX 11.11	Sybase および Oracle	すべて
Red Hat Enterprise Linux 2.1 Red Hat Enterprise Linux 3 SuSE Linux Enterprise Server 8	なし	OVPI クライアント
Solaris 8	Sybase および Oracle	すべて
Solaris 9	Oracle	すべて
Windows 2000 Server および Advanced Server(Service Pack 4 以降)	Sybase および Oracle	すべて
Windows 2003 Standard および Enterprise	Oracle	すべて
Windows XP	なし	OVPI Client および Web アクセスサー バー

表1 サポートされるソフトウェア構成

*Solaris システムの場合のみ、*OVPI は Veritas Cluster Server (VCS) を使用し て可用性の高い環境で実行できます。詳細については、OVPI Solaris CD の **\$DPIPE_HOME/docs/WhitePapers** フォルダーにあるホワイトペーパー 『*OVPI High Availability with Veritas Cluster Server on Solaris*』を参照してく ださい。ホワイトペーパーに記述されているスクリプトは **\$DPIPE_HOME/ contrib/Veritas** フォルダーにあります。

クライアントのみのインストールをした場合は、通常の OVPI 全体のインス トールをしたあとに管理コンソールの[ツール]メニューから使用できる以下の アプリケーションが、いずれも使用できません:データベースチューナー、MIB ブラウザ、SNMP 検出、タイプ検出、およびパッケージマネージャ。さらに、 新しいデータテーブルまたはプロパティテーブルを登録することも、収集デー タをデータベースに自動的に追加することもできません。全機能を有効にするに は、パフォーマンスマネージャをインストールする必要があります。

UNIX のサポートされているデスクトップ

OVPIは、CDEのUNIXデスクトップをサポートしています。

▶ OVPI は OpenWindows をサポートしていません。

デフォルトのポート番号

OVPI では、各コンポーネントで以下のデフォルトポート番号が使用されます。

- **OVPI データベース。**OVPI データベースは、未処理データと要約データを 保存および処理します。
 - Sybase はポート 5000 (Windows) またはポート 2052 (UNIX) を使用します。
 - Oracle はポート 1521 (Windows および UNIX) を使用します。
- Web アクセスサーバー。Web アクセスサーバーはレポートビューアおよび レポートビルダに構成情報を提供し、Web ブラウザを介してレポートの表 示、スケジュール設定、および管理機能を提供します。

Web アクセスサーバーは、SSL を無効にするとポート 80 を、SSL を有効 にするとポート 443 を使用します。 このポートは、管理コンソールを使用したリモート OVPI 管理にも使用されます。

Web アクセスサーバーを使用している場合、管理サーバーも使用する必要 がありますが、この管理サーバーもデフォルトでポート 80 を使用します。 リモート OVPI プロセスは管理サーバーを使用して、システムの構成に必要 な現在のシステムに関する情報を収集します。管理サーバーは主に管理コン ソールによって使用されますが、他の OVPI アプリケーションにも使用され ます。

 ファイアウォールソフトウェアを使用している場合は、ファイアウォールで OVPI ポートを開く必要があります。ポートを開く方法については、ファイア ウォールのマニュアルを参照してください。

図2に、OVPIの構成の例とOVPIで使用されるデフォルトのポート番号を示します。



Java の実行で必要なパッチ

OVPI には Java 1.4.2 02 が搭載されています。Java はインストール時に自動的 にシステムにロードされますが、多くの場合、お使いのオペレーティングシス テムで必要なパッチをダウンロードしなければ正常に動作しません。

データベース (Sybase または Oracle) や OVPI をインストールする前に、すべ てのオペレーティングシステムパッチをインストールする必要があります。この マニュアルの印刷の時点でテストが完了している必要なパッチを掲載していま すが、必要なパッチの最新の一覧については HP の営業担当者にお問い合わせ ください。

インストールされているパッチの表示

以下のいずれかのコマンドを使用して、システムにインストールされている パッチを確認してください。

• HP-UX

次のコマンドを入力します。

/usr/sbin/swlist -1 product | fgrep PH

Solaris •

次のコマンドを入力します。

showrev -p

Windows

以下の手順に従います。

- a Windows エクスプローラの「ヘルプ」メニューから「バージョン情報」 を選択します。
- b バージョンの行に記載されているサービスパックの番号を見つけます。 次の例では、xxxx がビルド番号でありn がサービスパックの番号です。

Version 5.0 (Build *xxxx*: Service Pack *n*)

必要な Java パッチ

お使いのオペレーティングシステム用の最新の Java 関連パッチを検索するに は、以下の Web サイトアドレスにアクセスしてください。

• HP-UX

http://www.hp.com/products1/unix/java/patches/index.html (英語)

Solaris

http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/download.html

「Solaris OS Patches」のセクションを探してください。

• Windows

http://windowsupdate.microsoft.com



これらの URL は予告なく変更されることがあります。

HP-UX システムの OVPI コンポーネントに必要なその他のパッチ

データベーススキーマおよびパフォーマンスマネージャコンポーネントを HP-UX システムにインストールする場合は、表2に掲載されている HP-UX の パッチを事前にインストールする必要があります。



これらのパッチは以下のサイトにあります。

http://www1.itrc.hp.com/service/index.html

このURLは予告なく変更されることがあります。

パッチ番号	説明
PHSS_14577	s700_800 11.00 HP aC++ ランタイム ライブラリ コンポー ネント (A.03.10)
PHCO_29495	s700_800 11.11 libc 累積パッチ
PHKL_27315	s700_800 11.11 共有ミューテックスハング、共有同期の性 能改善
PHSS_30966	s700_800 11.11 ld(1) およびリンカーツール累積パッチ
PHCO_30544	s700_800 11.11 Pthread 拡張機能および修正

表 2 OVPI コンポーネントに必要な HP-UX のパッチ

データベースのハードウェア要件

表3に、データベースのサイズに基づいた、推奨する最小システム要件を示し ます。

表3では、OVPI がデータを収集し、レポートを生成する管理対象オブジェクト の数によってシステム負荷が決定されるものとします。*管理対象オブジェクト* は、実際にデータを収集する対象の1つです(たとえば、1つのフレームリレー のPVC や1つのルーターのインタフェースなど)。

中間サイズのスタンドアロンシステム(表3の推奨要件に基づき、データベース サイズが10または20GBのもの)で、15分ごとに最高20,000の管理対象オブ ジェクトをポーリングできます。

分散型構成は通常、別個のレポートサーバー(Web アクセスサーバー)、サテラ イトサーバー、および中央サーバーから構成されています。サテライトサーバー は毎時ロールアップを実行し、時間単位のデータを中央サーバーに送信します。 大規模なサテライトサーバーは、15分のポーリング周期で最大 30,000 個のイン タフェースをポーリングできます。また、中央サーバーは、特別な処置を施す ことなく、4 台のサテライトサーバーを使用できます。

 大規模なシステムの場合は、ディスクコントローラを追加することをお勧めし ます。
データベー スのサイズ ^a	CPU	Sybase 最低メモリー および推奨 メモリー ^b	Oracle 最低メモリー および 推奨メモリー	10 KB RPM 以上 のドライ ブの数 ^c	ドライブの使用
2 GB	1	1 GB/2 GB	2 GB/4 GB	4	OS およびスワップ用に1個 一時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に1個
5 GB	1	1 GB/2 GB	2 GB/4 GB	4	OS およびスワップ用に1個 一時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に1個
10 GB	2	1 GB/4 GB	2 GB/8 GB	6	OS およびスワップ用に1個 一時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に3個(RAID 0構成)
20 GB	2	1 GB/4 GB	2 GB/8 GB	6	OS およびスワップ用に1個 一時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に3個(RAID 0構成)

表3 データベースサイズ別のシステム推奨案

データベー スのサイズ ^a	CPU	Sybase 最低メモリー および推奨 メモリー ^b	Oracle 最低メモリー および 推奨メモリー	10 KB RPM 以上 のドライ ブの数 ^c	ドライブの使用
40 GB	4	1 GB/4 GB	4 GB/16 GB	8	OS およびスワップ用に1個 一時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に5個 (RAID 0構成)
80 GB	4	1 GB/4 GB	4 GB/16 GB	8	OS およびスワップ用に1個 ー時データベース用に1個 ログファイル用に1個 データベース用に5個 (RAID 0構成)

表3 データベースサイズ別のシステム推奨案(続き)

a. データベースには、保存するデータが使用する容量の2倍のディスク領域を確保する必要がありま す。記載されているドライブの数は、許容できるパフォーマンスを確保するための最小値であり、 各ドライブが36 GBであることを前提としています。大容量のドライブ(たとえば72 MB)を使用 しても、推奨されるドライブの数は減りません。4つ以上のレポートパックを同時に実行している 場合は、Webアクセスサーバーを別のシステムにインストールすることをお勧めします。

- b. Sybase と Oracle の最低メモリーの場合、OVPI をインストールして実行できますが、オブジェクトの数が制限されます。高負荷時のパフォーマンスは許容できないレベルになる可能性があります。
- c. この中には、使用されているミラードライブは含まれていません。

デフォルトのメモリーおよび記憶領域の要件

この項では、データベースおよび OVPI のインストールのための、デフォルトのメモリーおよび記憶領域の要件について説明します。

すべてのコンポーネントを、同一の UNIX ファイルシステムまたは Windows パーティションにインストールする必要はありません。ただし、特定のコンポー ネントをインストールする場合、そのデフォルトの領域は1つのシステムに由 来している必要があります。



OVPI をインストールした後に Oracle または Sybase データベースのサイズを 拡張する方法については、『*Performance Insight 管理ガイド*』を参照してくだ さい。

最小記憶領域要件

表4に、Sybaseの最小記憶領域要件の一覧を示します。(Oracleの要件については、Oracleのマニュアルを参照してください。)

表 4 Sybase の最小記憶領域要件

コンポーネント	HP-UX	Solaris	Windows
実行可能プログラム	367 MB	358 MB	99 MB
マスターデータベース	$50 \mathrm{MB}$	$50 \mathrm{MB}$	30 MB
ストアドプロシージャ データベース	60 MB	60 MB	60 MB
インストールの合計	477 MB	468 MB	189 MB

データベースメモリー構成

Sybase の実行に必要なメモリーの量を決定するには、システムメモリーの総量 に基づいた計算方法を使用します。表5に、Sybaseの実行に必要なメモリー容 量を、システムメモリーの総量に基づいて計算する方法を示します。(Oracleの 要件については、Oracleのマニュアルを参照してください。)

表 5 Sybase データベース	くの冫	メモリ	一構成
-------------------	-----	-----	-----

システムの物理メモリーのサイズ	Sybase で必要とする割合 ^a
256 MB 以下	物理メモリーの 50%
257 MB 以上	物理メモリーの 60%

a. HP-UX システムでは、オペレーティングシステムの制限により、データベース メモリーの合計は 1GB を超えることはありません。

OVPI データベースの最小記憶領域要件

データベースのサイズは、ポーリングされるデバイスの数、収集されるデータ オブジェクトの量、データの保存期間によって決定されます。

表 6 に、Sybase を使用する OVPI データベースの最小記憶領域要件の一覧を示 します。

コンポーネント	HP-UX	Solaris	Windows
メインデータベース	800 MB	800 MB	800 MB
一時データベース ^a	400 MB	400 MB	400 MB
ログデータベース ^b	400 MB	400 MB	400 MB
インストール合計 ^c	1600 MB	1600 MB	1600 MB

表 6 Sybase での OVPI データベース最小記憶領域要件

a. 一時データベースのデフォルトの大きさは、メインデータベースの 50% に設定 されています。この値はインストール時に変更できます。

b. ログデータベースのデフォルトの大きさは、メインデータベースの 50% に設定 されています。この値はインストール時に変更できます。

c. OVPI データベースのインストールの合計値は選択された指定した比率に基づく ため、変わる可能性があります。

Oracle での OVPI データベースの最小記憶領域要件は、すべてのプラット フォーム (HP-UX、Solaris、および Windows) でメインデータベースに対して 800MB です。

OVPI 記憶領域要件

表7に、OVPIの最小記憶領域要件の一覧を示します。

表 7 OVPI 最小記憶領域要件

コンポーネント	HP-UX	Solaris	Windows
OVPI データベーススキーマ ^a	600 MB	500 MB	400 MB
パフォーマンスマネージャ	$425 \mathrm{MB}$	330 MB	365 MB
Web アクセスサーバー	255 MB	190 MB	165 MB
クライアントアプリケーション	180 MB	105 MB	90 MB
リモートポーラー	$265 \mathrm{MB}$	200 MB	130 MB
完全(スタンドアロン)インス	900 MB	900 MB	1300 MB
Ь − л bc			

a. Oracle の場合さらに 800MB、Sybase の場合さらに 1600MB の追加を想定して ください。

- b. Oracle の場合さらに 800MB、Sybase の場合さらに 1600MB の追加を想定して ください。
- c. これらの値は、1つのシステムにすべてのコンポーネントをインストールした場合の記憶領域要件です。

デバイスサイズの制限

この項では、2 ギガバイト (GB) を超えるサイズのデバイスをサポートする場合の、Sybase Adaptive Server 11.9.2.5 のデバイスサイズの制限について説明します。

検索ユーティリティを使用して、Sybase はホストシステムで許可されている最 大デバイスサイズを特定し、サポートすることができます。 表8に、最大デバイスサイズおよびオペレーティングシステムによってどのように異なるかを示します。(Oracleの要件については、Oracleのマニュアルを参照してください。)

	Sybase のパージョン	
オペレーティングシステム	11.9.2.5 ファイル	11.9.2.5 Raw
HP-UX	$32~\mathrm{GB}$	32 GB
Solaris	2 GB	32 GB
Windows	4 GB	該当なし

表 8 Sybase でサポートされている最大デバイスサイズ

アドレス指定可能なメモリーの制限

表 9 に、Sybase Adaptive Server 11.9.2.5 および Oracle 9.2.0.5 でのアドレス指 定可能なメモリーの制限をオペレーティングシステム別に示します。

	データベース			
オペレーティング システム	Sybase	Oracle (32-bit)	Oracle (64-bit)	
HP-UX	1 GB	最大1GB (SHMMAX カーネルパラメータ用)		
		1.75 GB (すべての Oracle インスタンス用 SGA(Shared Global Area) の合計)	オペレーティングシ ステムが処理できる サイズに限定	
Solaris	4 GB	2 GB	オペレーティングシ ステムが処理できる サイズに限定	
Windows	2 GB	2 GB	該当なし	

表 9 Sybase および Oracle でのアドレス指定可能なメモリーの制限

UNIX 固有の要件

UNIX システムに OVPI をインストールする場合は、この項で指定されている すべての要件を満たしていることを確認してください。



30ページの「システムの要件」に記載されている要件もすべて満たしていることを確認してください。

UNIX システムで、以下を実行します。

• Sybase をインストールする前に、カーネルを再構成します。

Oracle をインストールしている場合は、カーネルの設定について、**Oracle** のマニュアルを参照してください。

 UNIX ファイルシステムまたは raw パーティションのどちらに OVPI デー タベースをインストールするかを決定し、OVPI データベースをインストー ルする前に raw パーティションを設定します。

raw パーティションと UNIX ファイルシステムの使用

この項では、OVPI Sybase データベースを raw パーティションにインストール する場合 (SO および Veritas の raw パーティションがサポートされている)と、 UNIX ファイルシステムにインストールする場合との、違いについて説明しま す。

Oracle データベースを raw パーティションにインストールするユーザーは、自 分で表領域を設定する必要があります(その後、OVPIのインストール時に [Oracle 上の既存の表領域を使用します]オプションを選択します)。68 ページの 「表領域の作成」および Oracle のマニュアルを参照してください。

OVPI をインストールすると、デフォルトではデータベースは UNIX ファイル システムにインストールされます。

raw パーティションと UNIX ファイルシステムとの比較

UNIX システムの raw パーティションは、ファイルシステムが作成されていな い部分のディスクを指します。Sybase Adaptive Server ではデータベースデバ イス用に UNIX ファイルを使用することも可能ですが、Sybase では raw パー ティションを使用することをお勧めしています。

ほとんどの UNIX システムではディスク I/O にバッファキャッシュを利用しま す。ディスクへの書き込みはいったんバッファに保存され、すぐにディスクに は書き込まれません。Sybase Adaptive Server がトランザクションを完了し、 結果を UNIX ファイルに送信すると、UNIX バッファキャッシュがディスクに 書き込まれていなくても、トランザクションは完了したものとみなされます。こ のバッファキャッシュが書き込まれる前にシステムがクラッシュした場合、 データは失われてしまいます。このような場合、Sybase Adaptive Server には ディスクへの書き込みが最終的に失敗したことを認識する手段がないため、ト ランザクションはロールバックされません。さらに、一部の UNIX オペレー ティングシステムでは部分的な書き込みも実行します。その場合、システムがク ラッシュすると、Sybase デバイスは破損します。

Sybase デバイスに raw パーティションを使用した場合、Sybase Adaptive Server は UNIX のバッファ機構を利用せずに、独自の I/O 要求を処理すること ができます。この方法では、Sybase Adaptive Server は、システムクラッシュ が発生した場合にトランザクションのどの部分が完了し、どの部分が失敗した かを正確に認識することができます。

raw パーティションの使用

raw パーティションを使用する場合、実質的にデータベースはそのサーバーに 保存されている他の情報から分割または隔離されます。このようなパーティショ ニングには、パフォーマンス上重要な意味があります。

長所

すべての保存データは、1つの場所に置かれます。このため、データベースが効率的に利用され、処理速度が向上します。さらに、システムクラッシュが発生した場合も、パーティション化されたデータベースはいくぶん容易に復元することができます。外部からのデータベースへの干渉も、はるかに困難になります。

短所

Sybase を raw パーティションにインストールした時のパフォーマンス上の利点 が、OVPI ユーザーのシステム環境によっては、顕著に現れない場合がありま す。インストールプロセスがより複雑であり、不必要な場合もあります。さら に、Sybase を raw パーティションにインストールする場合、サーバーの使用可 能なディスク領域を多く必要とします。また、標準の UNIX バックアップユー ティリティでは raw パーティションをバックアップすることはできません。 Sybase のバックアップユーティリティおよびアーカイブユーティリティを使用 して、データベースのコピーを作成する必要があります。

UNIX ファイルシステムの使用

UNIX ファイルシステムを使用する場合、データベースが他のアプリケーションに取り囲まれている場合や、他のアプリケーションと混在している場合があります。この場合にもやはり、長所と短所があります。

長所

Sybase の UNIX ファイルシステムへのインストールは、OVPI のインストール の一環として実行できる簡単な作業です。Sybase は、ピーク効率の 80% 以上で 動作できます。一部のデータベース管理タスクも、容易に実行できます。Sybase のインストールでは、自ら使用するディスク領域が自動的に予約されるため、 多くの場合、物理的なパーティションを作成する必要がありません。

短所

Sybase を UNIX ファイルシステムにインストールした場合、ハードディスク上 の Sybase の各コンポーネントは分散されます。したがって、往々にして Sybase は必要な情報を見つけるために、ディスクの複数の場所を検索する必要 があります。このため処理速度が多少低下します。Sybase はその他のアプリ ケーションから物理的に隔離されないため、外部からの影響をいくらか受けや すくなります。

最終的に、どの方法を採用して Sybase をインストールすべきかについて、一概 にはお勧めいたしかねます。この問題はケースバイケースで対応する必要があ り、HPのシステムエンジニアに相談なさることをお勧めします。

raw パーティションの設定

OVPI データベース、トランザクションログ、および tempdb (raw パーティ ションに tempdb をインストールする場合) をインストールする前に、必要な raw パーティションを設定しておく必要があります。

Sybase 実行可能プログラム、ライブラリ、インストールファイル、および構成 ファイルはファイルシステムに配置します。OVPI 実行可能プログラム、レポー ト、デモデータベース、文書もファイルシステムに配置します。

OVPI データベース、トランザクションログ、および tempdb のサイズに合わせ て、必要な数の raw パーティションを設定できます。

データベースを設定する際のガイドラインは以下のとおりです。

- tempdbをrawパーティションまたはファイルシステム上にインストールします。HPでは、tempdbをファイルシステムにインストールすることをお勧めします。tempdbのサイズは、OVPIデータベースのサイズの50%にします。
- OVPI データベースを raw パーティションまたはファイルシステム上にイン ストールします。
- トランザクションログを OVPI データベースと同じように、raw パーティションまたはファイルシステム上にインストールします。トランザクションログを raw パーティションにインストールする場合は、OVPI データベースとは別のディスクスピンドルに配置してください。トランザクションログのサイズは、OVPI データベースのサイズの 50% にします。

Sybase データベースのどのコンポーネントも、パーティションマップを含む raw パーティションにインストールしないでください。一般的に、この raw パーティションは第1シリンダの第1セクターにあります。

Solaris の raw パーティションの設定

この項では、コマンド行インタフェースを使用して、Solaris に raw パーティ ションを設定するのに必要な手順を説明します。

ここでは、パーティション c0t3d0s3 および c0t3d0s4 は、以下を表します。

• c0t3d0s3 : OVPI データベース (10 GB)

• c0t3d0s4 : tempdb (5 GB)

この手順は必要に応じて、OVPI データベース、トランザクションログ、または tempdb(rawパーティションにtempdbをインストールする場合)のいずれかの 構成に使用する rawパーティションごとに、パーティション名とサイズを置き 換えて繰り返して使用できます。

raw パーティションを作成するには、次の作業を行います。

タスク1: format コマンドを実行する。

1 コマンドプロンプトから、以下のように入力します。

format

 raw パーティションを作成するディスクの番号を選択します。コマンドの一 覧が表示されます。

タスク 2: パーティションスライスを割り当てる。

1 次のコマンドを入力します。

partition

コマンドの一覧が表示されます。

2 次のコマンドを入力します。

print

選択されたディスクのスライスの表が表示されます。

- 3 使用可能なスライスの番号を選択します。
- 4 入力が求められたら有効なタグを入力します(たとえば、home)。
- 5 デフォルトのパーミッションを維持します(wm)
- 6 バックアップ以外の最高の最終シリンダーに1を追加して開始シリンダーを 入力します。
- 7 パーティションサイズを入力します(例:20 GB なら 20g、35 MB なら 35m)。
- 8 このディスクに作成する各パーティションに、手順2~手順7を繰り返しま す。

タスク 3: ディスクにラベルを付ける。

1 最後のパーティションの割り当てが終了したら、次のコマンドを入力しま す。

label

- 2 プロンプトに Y と入力します。
- 3 プロンプトに quit と入力します。
- 4 次のコマンドを入力します(例の第2パーティションに対して)。

label

- 5 プロンプトに**Y**と入力します。
- 6 プロンプトに quit と入力します。

タスク 4: 必要ならば、別のディスクに raw パーティションを作成する。

タスク1~タスク3を繰り返して別のディスクに raw パーティションを作成します。

タスク5:文字ブロックを変更する。

各ディスクについて、文字ブロックも変更する必要があります。グループ ID を 変更するには(例のパーティションを使用して)、次のように入力します。

chgrp sybase /dev/dsk/c0t3d0s3 chgrp sybase /dev/rdsk/c0t3d0s3 chgrp -h sybase /dev/dsk/c0t3d0s3 chgrp -h sybase /dev/rdsk/c0t3d0s3 chgrp sybase /dev/dsk/c0t3d0s4 chgrp sybase /dev/rdsk/c0t3d0s4 chgrp -h sybase /dev/dsk/c0t3d0s4

chgrp -h sybase /dev/rdsk/c0t3d0s4

HP-UX の raw パーティションの設定

この項では、System Administration Manager とコマンド行インタフェースを 使用して、HP-UX に raw パーティションを設定するのに必要な手順を説明しま す。

この手順では、lv01 および lv02 はそれぞれ以下を表します。

- lv01: OVPI データベース (10 GB)
- lv02: tempdb (5 GB)

この手順は必要に応じて、OVPI データベース、トランザクションログ、または tempdb (raw パーティションに tempdb をインストールする場合)のいずれかの 構成に使用する raw パーティションごとに、パーティション名とサイズを置き 換えて繰り返して使用できます。

SAM ユーティリティの使用



以下の手順に示されているインタフェースは、使用している HP-UX のバージョンによって多少異なります。

raw パーティションを設定するには、次の作業を行います。

タスク 1: ログオンして SAM ユーティリティを起動する。

- 1 root としてログオンします。
- SAM ユーティリティを起動します(通常は/usr/sbin ディレクトリから)。
 [System Administration Manager] ウィンドウが開きます。
- **3** [Disks and File Systems] アイコンをダブルクリックします。[Disk and File Systems] ダイアログボックスが表示されます。

タスク2:ボリュームグループを作成するかどうかを決定する。

- ボリュームグループを作成する必要がない場合は、以下を実行します。
 - **a** [Logical Volume] アイコンをダブルクリックします。
 - [Actions] メニューから [Create] を選択します。[Create New Logical Volumes] ウィンドウが開きます。
 - **c** [Select Volume Group] をクリックします。

- **d** ポップアップボックスからボリュームグループを選択します。
- **e** [**OK**] をクリックします。
- f [Define New Logical Volume(s)] をクリックします。
- ボリュームグループを作成する必要がある場合は、以下を実行します。
 - a [Volume Groups] アイコンをダブルクリックします。

[Disks and File Systems] ダイアログボックスに [Scanning the hardware] というメッセージが表示され、次のウィンドウが開きます (この例では、既存のボリュームグループが一覧表示されています)。

<u>File List View</u>	Options Actions		<u>H</u> elp
Volume Groups			0 of 1 selected
Mbytes Name Availab	Physical le Volumes	Logical Volumes	
vg00 296 o:	f 4092 1		

b [Actions]、[Create]、または[Extend]を選択します。[Select a Disk]ダイ アログボックスが開きます。

-	Select a Disk (aucilla)	
Unused Disks: Hardware Path	Description	Total Mbytes
8/0/19/0.15	IBM DDRS-39130W	8715
Diagnose Mis	ssing Disk	2
ОК	Cancel	Help

このウィンドウでは、ディスクのハードウェアパス、SCSI チェインに おけるディスクの位置、MB単位でのディスクの合計容量が示されま す。

c [OK] をクリックします。[Add a Disk Using LVM] ダイアログボックス が開きます (LVM は Logical Volume Manager です)。



d [Create or Extend a Volume Group] をクリックします。[Create a Volume Group] ダイアログボックスが開きます。

- Create a Volume Group (aucilla)
Since your system contains one or more volume groups, you can add the selected disk to an existing volume group or create a new one.
Selected Disk: IBM DDRS-39130W
Use Hardware Path: 8/0/19/0.15.0
Volume Group Name
🗌 Use Physical Volume Groups
Modify Default Options
OK Cancel Help

- **e** [Volume Group Name] ボックスにボリュームグループの名前を入力し ます(この例では rn00)。
- f [OK] をクリックします。[Add a Disk Using LVM] ダイアログボックス が開きます。



g [Add New Logical Volumes] ボタンを選択します。[Create New Logical Volumes] ダイアログボックスが開きます。

この手順の中では [OK] ボタンをクリックしないでください。このボ タンをクリックすると、この手順では必要のない物理ボリューム作成 タスクが開始されます。

タスク3:新規論理ボリュームを作成する。

- [LV Name] ボックスに論理ボリュームの名前を入力します(この例では 1v01)。
- [LV Size (Mbytes)] ボックスに論理ボリュームのサイズを入力します(この 例では 10240)。
 - ボリュームグループの物理的なエクステントサイズは、4の倍数でなければなりません。[LV Size (Mbytes)] ボックスに4の倍数以外の値を入力すると、最も近い4の倍数に切り上げることを通知するメッセージが表示されます。メッセージを無視して続行するには、[OK] をクリックします。

New Logical LV Name	Volumes to	be Created LV Size (Mbytes)	on Volume Num. of Mirrore	Group: Total	rn00 Swap Priority		Dir
		(115) (185)					
LV Name: 🎽 LV Size (Mb Approx. Fre	ytes): [e Mbytes: 87	/15	Usage: No	one	-		
Modify LV	Defaults		Modify 1	FS Defa	ults		
Add			Modify			R	моче

3 [Usage] リストから [None] を選択します。

論理ボリュームが一覧表示されます。

- 4 [Add] をクリックします。パラメータがダイアログボックスに表示されます。 [Create New Logical Volumes] ダイアログボックスに戻り、新しく作成した
- **5** [LV Name] ボックスに論理ボリュームの名前を入力します(この例では **1v02**)。

 6 [LV Size (Mbytes)] ボックスに論理ボリュームのサイズを入力します(この 例では 5120)。[Create New Logical Volumes] ダイアログボックスが以下の ように表示されます。

-	(Create New Lo	gical Volume	es (aucill:	a)		-
New Logica LV Name	l Volumes to Usage	be Created LV Size (Mbytes)	on Volume Num. of Mirrors	Group: Total Size	rn00 Swap Priority	Mount	Dir
1v01	None	36	0	36			
LV Name: 1v02 Usage: None = LV Size (Mbytes): 60 Approx. Free Mbytes: 8679							
Modify LV	/ Defaults		Modify	PS Defa	aults		
Add]		Modify			Re	move
ОК			Cancel				Help

7 [Usage] ボックスが [None] に設定されていることを確認し [Add] をクリック します。

LV Name	. Volumes to Usage	be Created LV Size (Mbytes)	on Volume Num. of Mirrors	Group: Total Size	rn00 Swap Priority	Mount Di:	
lv01	None	36	0	36			IA
1v02	None	60	0	60			
.V Size (Mł Approx. Fre	oytes): [ee Mbytes: 8	619					
Modify LV	Defaults		Moditity	FS Defa	ults		

- 8 各 raw パーティションに手順 5 ~手順 7 を繰り返します。各パーティションの名前とサイズを調整します。
 実際の手順で作成したすべての論理ボリュームが一覧表示されます。
- **9** [**OK**] をクリックします。

[Add a Disk Using LVM] ダイアログボックスが再度開きます。

タスク 4: 論理ボリュームを追加する。

1 [OK] をクリックしてさらに論理ボリュームを追加します。

2 以下の確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes]をクリックして新しい論理ボリュームの作成プロセスを続行します。



[Disks and File Systems] ダイアログボックスが表示されます。新規に作成 された論理ボリュームが表示されます。

-				· 🗆
<u>File L</u> i	st ⊻iew <u>O</u> ptions	Actions		<u>H</u> elp
Volume	Groups			1 of 2 selected
Name	Mbytes Available	Physical Volumes	Logical Volumes	
v g00	296 of 409	2 1	9	A
rn00	8616 of 871	2 1	2	

コマンド行の使用

コマンド行インタフェースを使用して HP-UX システムに raw パーティション を設定するには、次の作業を行います。

タスク1: ログオンする。

- 1 root としてログオンします。
- 2 論理ボリュームを作成する前に、ioscan コマンドを実行してシステムに接続されているディスクとそのデバイスファイル名を決定します。

ioscan -f -n

タスク2:各ディスクを初期化する。

1 pvcreate コマンドを使用して各ディスクを LVM として初期化します。た とえば、次のように入力します。

pvcreate /dev/rdsk/c0t15d0

- pvcreate コマンドを使用すると物理ボリュームの現在のデータはす べて失われ、ディスクに対してキャラクタ型デバイスファイルを使用 します。初期化されたディスクは物理ボリュームと呼ばれます。
- 2 ボリュームグループのディレクトリを作成します。たとえば、次のように入力します。

mkdir /dev/rn00

3 mknod コマンドを使用して上記のディレクトリに group という名前のデバイ スファイルを作成します。基本の構文は次のとおりです。

mknod /dev/rn00/group c 64 0x010000

デバイスファイル名の後の c は、グループがキャラクタ型デバイスファイル であることを指定しています。64 はグループデバイスファイルのメジャー番 号であり、常に 64 です。0x010000 (0x020000、など)はグループファイル の 16 進数でのメジャー番号です。特定の 01、02、などは、すべてのボ リュームグループを通じて一意の番号でなければなりません。

pvdisplay コマンドを使用してドライブに関する情報を取得します。たと えば、次のように入力します。

pvdisplay /dev/dsk/c0t15d0

タスク3:ボリュームグループを作成する。

vgcreate コマンドを使用して、指定した各物理ボリュームを含むボリュームグ ループを作成します。たとえば、次のように入力します。

vgcreate /dev/rn00 /dev/dsk/c0t15d0

このコマンドを実行すると、以下のメッセージが表示されます。

Increased the number of physical extents per physical volume to 2178

Volume group "dev/rn00" has been successfully created

タスク4: 論理ボリュームを作成する。

ボリュームグループを作成したら、1vcreate コマンドを使用して論理ボリュー ムを作成します。たとえば、次のように入力します。

lvcreate /dev/rn00

LVM は論理ボリュームを作成する際、ディレクトリ /dev/rn00/lvol1 にブ ロックデバイスファイルとキャラクタ型デバイスファイルを作成します。

このコマンドを実行すると、以下のメッセージが表示されます。

/dev/rn00/lvol1 has been successfully created with character device
"/dev/rn00/rlvol1".

タスク5:必要に応じて繰り返す。

作成する各rawパーティションにタスク2~タスク4を繰り返します。

タスク 6: ディスク容量を割り当てる。

以下のコマンドは、特定の論理ボリュームのディスク容量を割り当てる(拡張) 方法を示しています。

OVPI データベースの場合:

lvextend -L 36 /dev/rn00/lvol1

一時データベースの場合:

lvextend -L 60 /dev/rn00/lvol2



この手順全体を、必要に応じて、OVPI データベース、トランザクションログ、 または tempdb (raw パーティションに tempdb をインストールする場合)のい ずれかの構成に使用する raw パーティションごとに、パーティション名とサイ ズを置き換えて繰り返してください。

セットアッププログラムの起動

OVPI セットアッププログラムはインストールウィザードを実行します。この ウィザードには Sybase、OVPI のコンポーネント、リモートポーラーのインス トールおよび OVPI とリモートポーラーのアップグレードのためのオプション が用意されています。

この項では、Windows および UNIX の両オペレーティングシステムでセット アッププログラムを起動する方法について説明します。

セットアッププログラムを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 ローカルシステムにログオンします。
 - Windows

管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。

— UNIX

root としてログオンします。

2 インストール CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユーザーの場合は、挿入した CD をマウントします。

表 10 に、各 UNIX プラットフォームでの CD のマウント方法を示します。

表 10 UNIX での OVPICD のマウント

オペレーティング システム	コマンド		
Sun Solaris	CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、CD は自動的にマ ウントされます。CD-ROM が自動的にマウントされると、 ファイルマネージャウィンドウが開きます。ウィンドウが 開かれない場合は、 root として次のように入力します。		
	mkdir /cdrom mount -r /dev/dsk/cd_devicename /cdrom		
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。		
HP-UX	SAM ユーティリティを使用して CD-ROM をマウントする か、 <i>または</i> 次のコマンドを入力します。 mkdir /cdrom mount /dev/dsk/cd_devicename /cdrom		
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。		

- 3 Solaris システムの場合のみ:以下の手順を実行します。
 - a cd_labelを表示するには、次のコマンドを入力します。

ls -1 /cdrom

b ディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。

cd /cdrom/cd_label

この場合で、*cd_label* は CD 名です。

- 4 以下のいずれかを実行してセットアッププログラムを起動します。
 - Windows

OVPI インストール **CD** を挿入すると、自動的にセットアッププログラ ムが起動します。自動的に起動しない場合は、**CD** の最上位のフォル ダーから setup.exe をダブルクリックします。

— UNIX

セットアッププログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動しま す。

./setup



い場合は、付録A「トラブルシューティング」を参照してください。

[セットアップ]ウィンドウが開きます。

3

データベースのインストール

HP OpenView Performance Insight (OVPI) が収集するデータは、データベース に保存されます。OVPI をインストールする*前に*データベースをシステムにイン ストールして実行しておく必要があります。

OVPIは、次のデータベースをサポートしています。

• Oracle 9.2.0.5

Oracle ソフトウェアは OVPI メディアキットには含まれていません。別途購入してインストールする必要があります。インストールのガイドラインについては、64 ページの「Oracle 9.2.0.5 のインストール」を参照してください。

既存の 9.2.0.5 Oracle データベースを使用し、OVPI をインストールしてリ モートデータベースにアクセスするには、74ページの「既存のリモート Oracle データベースの使用」を参照してください。

各データベースがサポートしているオペレーティングシステムの一覧は、31 ページの「サポート対象のオペレーティングシステムおよびデータベース管理シ ステム」を参照してください。



OVPI インストールプログラムはデフォルトの設定、サイズなどでインストー ルします。OVPI のインストールを特定の環境用に最適化する場合、データベー ス管理者にご相談ください。

Oracle 9.2.0.5 のインストール

この項では、Oracle 9.2.0.5 をインストールする際の、一般的なガイドラインに ついて説明します。

この項では、Oracleのインストールおよび調整方法については説明しません。 便宜上、OVPI インストールプログラムは Oracle の調整パラメータおよび表領 域作成用のデフォルトの設定を提供します。OVPI をインストールする前に Oracle データベース管理者が、OVPI で必要な表領域の作成などの、Oracle データベースの設計およびセットアップを行う必要がある場合もあります。

Oracle データベースと共に OVPI を使用するには、次のタスクを行います。

タスク 1: Oracle を購入しインストールする

OVPI は、Oracle Partitioning 9.2.0.1.0 オプション付きの Oracle Enterprise Edition 9.2.0.5 をサポートしています。この Oracle Partitioning 9.2.0.1.0 は、 Oracle から別途購入するオプションです。

タスク 2: Oracle インストールプログラムを起動し、Oracle のマニュアルに従ってインス トールする

指定のウィンドウが表示されたら、次の選択を行います。

- [インストールタイプ]ウィンドウ。以下のいずれかを選択します。
 - 完全インストールの場合は、[Enterprise Edition]。
 - カスタムインストールの場合は[カスタム]。この場合は、OVPIで
 必要な最少限の Oracle コンポーネントを選択できます。
- [使用可能な製品コンポーネント]ウィンドウ(カスタムインストールの 場合のみ)。

最低限、少なくとも次のオプションを選択する必要があります。

— Oracle9i Database 9.2.0.1.0。[Oracle9i 9.2.0.1.0] を選択します。

- [Enterprise Edition Options 9.2.0.1.0]。[Oracle Partitioning 9.2.0.1.0]
 を選択します。
- Oracle Net Services 9.2.0.1.0。[Oracle Net Listener 9.2.0.1.0] を選択 します。

OVPI のインストールには影響を与えることなく、他のインストールオ プションをクリアすることもできます。

[データベースキャラクタセット]ウィンドウ。

以下の手順に従います。

ワイドキャラクタのデータ(日本語など)をサポートするために、 [Unicode (AL32UTF8)を使用]を選択してください。

タスク 3: Oracle 9.2.0.5 パッチセットを適用する

 Oracle の Web サイト (www.oracle.com) にアクセスし、[MetaLink] アイコ ンをクリックしてログオンします。

この Web サイトにアクセスするには、最新の製品サポート契約が必要です。

2 9.2.0.5 パッチセットをダウンロードします。

パッチセットをインストールする前に、パッチセットが格納されている zip ファイルの中にある README.html に目を通してください。

- **3** 9.2.0.5 パッチセットをインストールします。
 - ORACLE_HOME でパッチセットと一緒に提供されている Oracle Universal Installer (OUI) を始め、すべてのパッチセットをインス トールしてください。

[ファイルの場所]ウィンドウで、既存の Oracle ホームディレクトリがイン ストール先に設定されていることを確認してください。

4 HP-UX のみ:パッチセットのインストール中に、root.shを実行するよう に要求されます。その前に root.sh スクリプトを編集しておく必要があり ます。次の行を変更します。

CHMODF="/bin/chmod -f" CHMODRF="/bin/chmod -fR" 変更後 CHMODF="/bin/chmod " CHMODRF="/bin/chmod -R"

 Oracle パッチのインストールに伴う不具合のため、パッチセットをインストー ルした後で、かつ OVPI をインストールする前に以下の手順を実行する必要が あります。この手順で実行しないと、Oracle のシステムテーブル IND_ONLINE\$の欠落に関するエラーメッセージが表示されます。

- 5 データベースおよびリスナープログラムが実行中ではなく、データベースパ スワードが manager であるとした場合、次のいずれかを実行します。
 - Windows
 - a [コントロールパネル]ウィンドウから、[**管理ツール**]アイコンをダブル クリックします。[管理ツール]ウィンドウが開きます。
 - b [サービス]アイコンをダブルクリックします。[サービス]ウィンドウが 表示されます。
 - c リスナープログラムとデータベースサーバーを選択して起動し、手順6
 に進みます。
 - UNIX
 - a コマンドプロンプトから次のように入力してリスナープログラムを起動します。

>lsnrctl start

- **b** 手順6に進みます。
- 6 次のように入力して、SQL*PLUS を使用して sysdba としてログオンしま す。

>sqlplus/nolog

SQL>connect sys/manager as sysdba

7 次のように入力してデータベースを起動します。

SQL>**shutdown** SQL>**startup migrate**

8 次のように入力して SQL を実行します。

```
SQL>@?/rdbms/admin/catpatch.sql
SQL>@?/rdbms/admin/catcio.sql
```

最初のスクリプトは実行に最長1時間かかることがあります。

- 9 次のように入力して、データベースをシャットダウンしてから起動します。 SQL>shutdown SQL>startup
- 10 次のように入力して SQL*Plus を終了します。

SQL>exit

11 OVPI をインストールする前に、OVPI 用に作成された Oracle リスナープロ グラムのインスタンスが実行されていることを確認します。

タスク 4: Oracle クライアントがインストールされているシステムの tnsnames.ora ファ イルを編集する

- 次のいずれかのディレクトリに格納されている tnsnames.ora ファイルを 探します(お使いのオペレーティングシステムにより異なる)。
 - Windows

oracle_install_dir¥network¥admin

• UNIX

oracle_install_dir/network/admin

ここでは、*oracle_install_dir*は Oracle のインストール先ディレクトリです。

- テキストエディタを使用してファイルを開きます。(別の方法として、 Oracle Net Manager を使用してサービス名を作成することもできます。)
- Oracle のインストール先システムの SERVICE_NAME のエントリーを追加 します。

何らかの理由でSERVICE_NAME がうまく機能しない場合は、SID を使用してシステムエントリーを定義します。

次の例では、Oracle のインストール先システムの SERVICE_NAME が PI51 で、HOST は dbl.ackcat.com です。

```
# This is a sample TNS entry in the tnsnames.ora file.
# Note that the key is the same as the SERVICE_NAME; this
# is necessary for OVPI applications to find the correct
# server entry.
PI51 =
   (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST =
        (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = db1.ackcat.com)(PORT
= 1521))
   )
   (CONNECT_DATA =
    (SERVICE_NAME = PI51)
   )
  )
```

4 tnsnames.oraファイルを保存します。

表領域の作成

Oracle に OVPI をインストールする際、インストールウィザードが表領域を新 規に作成するか、既存の表領域を使用するかを尋ねます(86 ページの図 5 を参 照してください)。その時点で表領域を作成することもできますが、この項の以 下の手順に従って、先に作成することもできます。先に表領域を作成した場合 は、OVPI のインストール時に [Oracle 上の既存の表領域を使用します]を選択 できます。



Oracle データベース管理者は、次のタスクを行うことをお勧めします。

ここで表領域を作成するには、OVPI をインストールする*前に*以下のタスクを行 う*必要があります。*

 SQL*Plus を使用して、次のコマンドを入力して dpipe_default_seg 表領域、 dsi_dpipe ユーザーを作成し、dsi_dpipe ユーザーに必要な権限を与えま す。

SQL> CREATE TABLESPACE dpipe_default_seg DATAFILE 'dpipe_default_seg.dbf' SIZE 10M REUSE AUTOEXTEND ON NEXT 10M MAXSIZE UNLIMITED LOGGING ONLINE PERMANENT EXTENT MANAGEMENT LOCAL AUTOALLOCATE SEGMENT SPACE MANAGEMENT AUTO;

SQL> CREATE USER dsi_dpipe IDENTIFIED BY dsi_dpipe DEFAULT TABLESPACE dpipe_default_seg TEMPORARY TABLESPACE temp PROFILE DEFAULT ACCOUNT UNLOCK;

```
SQL> GRANT connect TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT dba TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT exp_full_database TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT imp_full_database TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT unlimited tablespace TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT select any table TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT select any dictionary TO dsi_dpipe;
SQL> GRANT execute ON sys.dbms_lock TO dsi_dpipe;
SQL> COMMIT;
SQL> CONNECT dsi_dpipe/dsi_dpipe;
```

この代わりに、Oracle Enterprise Manager を使用してこのプロシージャの任意のステップを実行することもできます。

- 2 dsi_dpipe ユーザーとして以下の表領域を作成します。
 - dpipe_property_ind_seg
 - dpipe_property_seg
 - dpipe_upload_ind_seg
 - dpipe_upload_seg
 - dpipe_rate_ind_seg
 - dpipe_rate_seg
 - dpipe_summary_ind_seg
 - dpipe_summary_seg
 - dpipe_overflow_seg

以下に SQL*Plus を使用して dpipe_property_ind_seg 表領域を作成する方 法の 1 例を示します。 SQL> CREATE TABLESPACE dpipe_property_ind_seg DATAFILE 'dpipe_property_ind_seg.dbf' SIZE 10M REUSE AUTOEXTEND ON NEXT 10M MAXSIZE UNLIMITED LOGGING ONLINE PERMANENT EXTENT MANAGEMENT LOCAL AUTOALLOCATE SEGMENT SPACE MANAGEMENT AUTO;

この手順を繰り返して残りの表領域を作成します。

この例では、比較的小さい 10MB の表領域を作成しています。データベース のサイズに基づいて表領域の適切なサイズを設定する方法については、72 ページの「表領域のサイズ設定のガイドライン」を参照してください。

3 Oracle のパラメータを調整します。

Oracle には自身を自動で最適化する機能があるので、最小限の数のパラ メータを設定するだけでデータベースの完全な最適化を行うことができま す。

表1に、これらのパラメータとそれぞれの推奨値を示します。 V\$SYSTEM_PARAMETER テーブルを照会すると、表1のパラメータの最 新の値一覧を入手できます。各パラメータの説明については、92ページの 「特定の Oracle 構成パラメータの変更」を参照してください。

パラメータ	推奨値
SGA_MAX_SIZE	全システムメモリーの 60 %
共有メモリー = SGA サイズの 40 %	
バッファーキャッシュ = SGA サイズの 40%	
ラージプール = SGA サイズの 12%	
Java プール = SGA サイズの 8%	
PGA_AGGREGATE_TARGET (M)	200M
DB_FILE_MULTIBLOCK_READ_COUNT	ストライプサイズ (KB) ^a /
	DB BLOCK SIZE (KB) ^b
WORKAREA_SIZE_POLICY	AUTO

表1 Oracle パラメータの推奨値

表 1 Oracle パラメータの推奨値(続き)

パラメータ	推奨値
DB_CACHE_SIZE (Windows) DB_32K_CACHE_SIZE (UNIX)	使用可能なバッファーキャッ シュの 95%^c
PARALLEL_AUTOMATIC_TUNING	TRUE
COMPATIBLE	9.2.0

a. ストライプサイズの決定を参照してください。

b. データベースブロックサイズの決定を参照してください。

c. キャッシュサイズの決定を参照してください。

ストライプサイズの決定

RAID アレイはストライピングを使用してパフォーマンスを高めています。スト ライピングはファイルを分割して、複数のディスクドライブに分散する技術で す。ストライピングを使うと、ディスクから高速にデータを取り出すことができ ます。

*ストライプサイズ*とは、ストライピングで使用されるブロックのサイズです。 この値は、2 KB ~ 512 KB(以上)で、2 の累乗の範囲で指定できます。ストラ イプサイズについては、システム管理者にお問い合わせください。

データベースブロックサイズの決定

DB_BLOCK_SIZE を決定するには、以下の SQL*Plus コマンドをタイプしま す。

SELECT value FROM V\$PARAMETER WHERE name = 'db block size';

キャッシュサイズの決定

使用可能なバッファーキャッシュの 95% を算出するには、以下の SQL*Plus コ マンドをタイプします。

SELECT (dc.CURRENT_SIZE + fm.CURRENT_SIZE) * 0.95 FROM V\$SGA_DYNAMIC_FREE_MEMORY fm, V\$SGA_DYNAMIC_COMPO NENTS dc WHERE dc.COMPONENT = 'buffer cache';

表領域のサイズ設定のガイドライン

この項では、OVPI データベース用に確保するディスク領域のサイズに応じた、 表領域を作成する際のガイドラインについて説明します。特定のサイズで OVPI データベース全体を拡張することを検討する場合、このガイドラインは重要で す。



OVPIのインストール中に表領域のサイズを変更することができます。詳細は、 92ページの「特定の Oracle 構成パラメータの変更」を参照してください。

表2に、Oracle 表領域とデータベースの中で表領域が占める割合を示します。

表領域	全データベースの割合		
dpipe_default_seg	5%		
dpipe_property_ind_seg	2%		
dpipe_property_seg	2%		
dpipe_upload_ind_seg	6%		
dpipe_upload_seg	7%		
dpipe_rate_ind_seg	12%		
dpipe_rate_seg	12%		
dpipe_summary_ind_seg	12%		
dpipe_summary_seg	12%		
dpipe_overflow_seg	30%		
データベースの合計サイズ	100%		

表 2 dpipe の Oracle 表領域のサイズ
表3に一覧表示されている割合とエクステントサイズルールを使用して、1GB のデータベースを設定する方法を表3に示します。

表 3 1 GB のデータベースの表領域サイズ

表領域	初期表領域サイズ	エクステント ^a
dpipe_default_seg	$50 \mathrm{MB}$	25 MB
dpipe_property_ind_seg	20 MB	10 MB
dpipe_property_seg	20 MB	10 MB
dpipe_upload_ind_seg	60 MB	30 MB
dpipe_upload_seg	70 MB	35 MB
dpipe_rate_ind_seg	120 MB	60 MB
dpipe_rate_seg	120 MB	60 MB
dpipe_summary_ind_seg	120 MB	60 MB
dpipe_summary_seg	120 MB	60 MB
dpipe_overflow_seg	300 MB	150 MB
データベース合計	1 GB	デフォルト
TEMP	4 GB	デフォルト
UNDO	1 GB	デフォルト

a. エクステントサイズルールは初期表領域サイズの 50% 未満であるとともに、
 1GB 未満でなければなりません。たとえば 80 GB のデータベースでは、
 dpipe_overflow_seg の初期表領域サイズは 24 GB で、エクステントは初期表領
 域サイズの 50% ではなく、1 GB になります。

既存のリモート Oracle データベースの使用

既存の Oracle 9.2.0.5 データベースを使用していて、システムのそのデータベー スとは別に OVPI をインストールする場合、以下のタスクを実行してください。



Oracle データベースの以前のレベル (9.2.0.1 ~ 9.2.0.4) を **OVPI 5.1.1** で使用するには、9.2.0.5 にアップグレードする必要があります。これは、以下の手順で説明する 9.2.0.5 パッチセットをインストールすることで実行できます。

タスク 1: Oracle Client をインストールし、リモート Oracle データベースを指定するよう に設定する

- 1 Oracle Client のインストールプログラムを起動します。[ようこそ]ウィン ドウが表示されます。
- **2** [次へ]をクリックします。[ファイル場所]ウィンドウが開きます。
- 3 デフォルトのファイルの場所を受け入れるか、*または*デフォルト値を変更して[**次へ**]をクリックします。[使用可能な製品]ウィンドウが開きます。
- 4 [Oracle9i Client xxxx] を選択して (xxxx はバージョン番号)、[次へ] をクリッ クします。[インストールタイプ]ウィンドウが開きます。
- 5 [ランタイム]を選択して[次へ]をクリックします。[サマリー]ウィンドウ が開きます。
- **6** [**インストール**]をクリックします。
- **7** インストール中に要求されたら、**Oracle9i** ディスク1を取り出し、**Oracle9i** ディスク2を挿入します。

インストール中に Oracle Net Configuration Assistant を起動したことを通 知する[構成ツール]ウィンドウが開き、[Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ]ウィンドウが表示されます。

- 8 [Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ]ウィンドウで、[ネットサービス名を自分で作成する。アシスタントを利用して今すぐネットサービス名を作成する。]を選択し、[次へ]をクリックします。[データベースバージョン]ウィンドウが表示されます。
- 9 デフォルト (Oracle8i 以上のデータベースまたはサービス)を受け入れ、[次へ]をクリックします。[サービス名]ウィンドウが開きます。

10 [サービス名]ボックスにデータベースのサービス名を入力し、[次へ]をク リックします。

通常、この名前はデータベースのグローバルデータベース名です。[プロト コルの選択]ウィンドウが開きます。

- 11 デフォルト (TCP) のままで [次へ] をクリックします。[TCP/IP プロトコル] ウィンドウが開きます。
- 12 データベースのあるコンピュータのホスト名を[ホスト名]ボックスに入力し、デフォルトの TCP/IP ポート番号 (1521)のままで [次へ]をクリックします。[テスト]ウィンドウが開きます。
- **13** [はい。テストを実行します。]を選択し、[次へ]をクリックします。[接続] ウィンドウに、テストが成功したかどうかが表示されます。
- 14 テストが成功した場合は、[接続]ウィンドウで[**次へ**]をクリックします。 [ネットサービス名]ウィンドウが開きます。
- 15 デフォルトのネットサービス名を受け入れるか、または名前を変更して [次
 ▲]をクリックします。[別のネットサービス名]ウィンドウが開きます。
- 16 [いいえ]をクリックして[次へ]をクリックします。[ネットサービス名の構成が終了しました。]ウィンドウが開きます。
- **17** [次へ]をクリックします。[完了]ウィンドウが開きます。
- 18 [終了]をクリックします。[インストールの終了]ウィンドウが開きます。
- 19 [終了]をクリックします。
- 20 Oracle データベースを 9.2.0.5 にアップグレード する必要がある場合は、タ スク2 に進みます。必要がなければタスク3 に進みます。

タスク 2: Oracle データベースに 9.2.0.5 パッチセットを適用して Oracle 9.2.0.5 にアップ グレードする

 Oracle の Web サイト (www.oracle.com) にアクセスし、[MetaLink] アイコ ンをクリックしてログオンします。

この Web サイトにアクセスするには、最新の製品サポート契約が必要です。

2 Oracle 9.2.0.5 パッチセットをダウンロードします。

パッチセットをインストールする前に、パッチセットが格納されている zip ファイルの中にある README.html に目を通してください。

3 Oracle 9.2.0.5 パッチセットをインストールします。

ORACLE_HOME でパッチセットと一緒に提供されている Oracle Universal Installer (OUI) を始め、すべてのパッチセットをインス トールしてください。

4 HP-UX のみ:パッチセットのインストール中に、root.shを実行するよう に要求されます。その前に root.sh スクリプトを編集しておく必要があり ます。次の行を変更します。

> CHMODF="/bin/chmod -f" CHMODRF="/bin/chmod -fR"

変更後

CHMODF="/bin/chmod " CHMODRF="/bin/chmod -R"

タスク 3: Oracle Client システムからリモート Oracle データベースへの接続をテストする

以下の SQL*Plus コマンドを入力します。

sqlplus system/password@oracle_SID_value

ここでは、*system* は Oracle ユーザーであり、*password* は Oracle ユーザーの パスワード、*oracle_SID_value* は Oracle SID の値です。

タスク 4: Oracle クライアントのインストールされているシステム上の tnsnames.ora ファイルを編集する

- 次のいずれかのディレクトリに格納されている tnsnames.ora ファイルを 探します(お使いのオペレーティングシステムにより異なる)。
 - Windows

oracle_install_dir\u00e4network\u00e4admin

• UNIX

oracle_install_dir/network/admin

ここでは、oracle_install_dir は Oracle のインストール先ディレクトリです。

- テキストエディタを使用してファイルを開きます。(別の方法として、 Oracle Net Manager を使用してサービス名を作成することもできます。)
- Oracle のインストール先システムの SERVICE_NAME のエントリーを追加 します。

何らかの理由で SERVICE_NAME がうまく機能しない場合は、SID を使用してシステムエントリーを定義します。

次の例では、Oracle のインストール先システムの SERVICE_NAME が PI51 で、HOST は dbl.ackcat.com です。

```
# This is a sample TNS entry in the tnsnames.ora file.
# Note that the key is the same as the SERVICE_NAME; this
# is necessary for OVPI applications to find the correct
# server entry.
PI51 =
   (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST =
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = db1.ackcat.com)(PORT
= 1521))
   )
   (CONNECT_DATA =
    (SERVICE_NAME = PI51)
   )
  )
```

4 tnsnames.oraファイルを保存します。

タスク 5: Oracle データベースがインストールされているシステムに dsi_dpipe ユーザー と表領域を作成する

- 1 dsi_dpipe ユーザーを作成して、特定の権限を付与します。
- 2 dsi_dpipe ユーザーで特定の表領域を作成します。

```
68ページの「表領域の作成」の手順に従います。
```

タスク 6: Oracle Client がインストールされているシステムに OVPI をインストールする

詳細は、第4章「Oracle での OVPI のインストール」を参照してください。



実行しているインストールの種類によっては、その他のチェックボックスも選択できます。たとえば、これがスタンドアロンインストールの場合、ウィンドウの4つすべてのチェックボックスを選択します。

4

Oracle での OVPI のインストール

本章では、Oracle データベースのスタンドアロン構成で、サポートされている オペレーティングシステムに HP OpenView Performance Insight (OVPI) をイ ンストールする方法について説明します。

*スタンドアロン*システムは、すべての **OVPI** コンポーネントが 1 つのシステム にインストールされています。(分散型構成で **OVPI** をインストールする場合は、 第5章「分散型構成での **OVPI** のインストール」を参照してください。)

OVPI をインストールする前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- 『Performance Insight リリースノート』を読んでおくこと。このドキュメントは、OVPI バージョン 5.1.1 のリリースでの変更点の概要を説明しています。
- システムが第2章「インストールの準備」の前提条件を満たしていること。 すべての Windows システム、および UNIX システムの前提条件について は、30ページの「システムの要件」を参照してください。また、UNIX シス テムは、43ページの「UNIX 固有の要件」も参照してください。
- 第3章「データベースのインストール」の手順に従ってデータベースをイン ストール済みであること。

OVPI のインストール - スタンドアロン

この項では、インストールウィザードを使用する際に必要な情報と、Windows システムおよび UNIX システムに OVPI をインストールする方法について説明 します。

コンポーネントのインストールの準備

インストールウィザードを使用する際に必要な情報のほとんどはデフォルト値 が設定されています。デフォルト値を変更する場合は、インストールの前にこ の情報を用意しておくことをお勧めします。

表1に、OVPIの各コンポーネント、コンポーネントに関する情報を入力するインストールウィザード画面、各ウィンドウで要求されるパラメータと、そのデフォルト値の一覧を示します。

コンポーネント	ウィザードウィンドウ	パラメータのデフォルト値
すべてのコン ポーネント	[インストール先フォ ルダー]	[インストール先ディレクトリ]: C:¥OVPI (Windows) または /usr/ovpi (UNIX)
OVPI データ ベーススキーマ	[データベース管理者 ユーザーを使用した Oracle 参照]	[Oracle TCP/IP ポート番号]: [Oracle ホームディレクトリ]: \$ORACLE_HOME
OVPI データ ベーススキーマ	[Oracle ユーザーおよ び表領域の作成] ^a	[データベースのサイズ]: 1024 MB [Oracle ホームディレクトリ]: \$ORACLE_HOME/ dbs
パフォーマンス マネージャ	[パフォーマンスマ ネージャの設定]	[キャッシュフォルダー]: OVPI_directory¥collect (Windows) または OVPI_directory/collect (UNIX)
Web アクセス サーバー	[Web アクセスサー バーの設定]	[ユーザー名]: trendadm [HTTP ポート]: 80

表1 インストールウィザードの構成パラメータ

a. このウィンドウは、[データベースの選択]ウィンドウ(86 ページの図 5)で[新規表領域を Oracle 上に作成します]オプションを選択した場合にのみ表示されます。

OVPI のインストール



インストールウィザードの起動方法および[パフォーマンスマネージャ用のオ ペレーティングシステムユーザー]ウィンドウ以外の、スタンドアロンシステ ムでの OVPI をインストールする手順は Windows でも UNIX でも同じです。こ の項では、Windows と UNIX でのインストールウィザードの起動手順を別々に 説明しますが、重複を避けるため OVPI のインストールについては手順の説明 を1回のみとしています。

タスク1:データベースがインストールされていて、動作中であることを確認する。

データベースをまだインストールして*いない*場合は、第3章「データベースの インストール」を参照してください。



既存の 9.2.0.5 Oracle データベースを使用し、データベースにリモートアクセ スするよう OVPI をインストールするには、74 ページの「既存のリモート Oracle データベースの使用」にある、構成とインストールについての情報を参 照してください。

タスク 2: OVPI 用に作成された Oracle リスナープログラムが実行されていることを確認 する。

タスク3:セットアッププログラムを起動する。

OVPI セットアッププログラムを実行します。60 ページの「セットアッププロ グラムの起動」を参照してください。

タスク 4: OVPI インストールオプションを選択する。

[セットアップ]ウィンドウの[インストール]セクションから[**OVPI 5.1.1**]を選 択します。

タスク 5: [ようこそ] ウィンドウを読む。



図1に、[ようこそ]ウィンドウを示します。

図1 [ようこそ]ウィンドウ

[次へ]をクリックしてインストールを続行します。

タスク 6: 使用許諾条件を承諾または拒否する。

図2に、[使用許諾条件]ウィンドウを示します。

≜ インストールウィザード			
使用許諾条件 同封の使用許諾条件を注意深くお読みください。			invent [®]
ご注意:ソフトウェアライセンスのご購入 ソフトウェアのご使用は、以下に示すHPソ うものとします。本ソフトウェアを使用され 用許諾条件を受諾されたものと見なされます 諾されない場合、ソフトウェアをご返送項 けることができます。ソフトウェアが他の製 合、その未使用製品全体をご返送頂かなけれ ことができない場合があります。	うよび フトウ れると、 す。下 こ く と品に い ば 代 ら	は支払いと エアでの使いの での使金の状 の代ンドルラ なの払い戻	同時に、本▲ 局時件に従▲ トウェア受 諸条件を受 いている場 しを受ける しを受ける
 使用許諾条件に同意します 使用許諾条件に同意します。 			
<	戻る	次へ>	キャンセル

図2 [使用許諾条件] ウィンドウ

以下のいずれかを実行します。

 使用許諾条件を拒否してインストールを中断する場合は、[キャンセル]をク リックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [はい]をクリックすると、インストールプロセスが終了します。
- [いいえ]をクリックすると、[使用許諾条件]ウィンドウが再び表示されます。そこで[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックすると、インストールを続行できます。
- 使用許諾条件を承諾し、OVPIのインストールを続行するには、[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

タスク 7: インストールする OVPI コンポーネントを選択する。

図3に[コンポーネントの選択]ウィンドウを示します。

🚔 インストールウィザード	
コンボーネントの選択 このシステムにインストールするコンボーネントを選択してください。	
「OVPIコンポーネントーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	
OVPIデータペーススキーマ OVPI用にデータペースサーバーを構成し、OVPIスキーマを作成します。	
 ✓ パフォーマンスマネージャ データの操作と分析を行うユーティリティを提供します。最適なパフォー るため、データペースサーバーにインストールしてください。 	- マンスを実現す
✓ Webアクセスサーバー Webベースのレポート作成機能とユーザー管理ユーティリティを提供しま	ŧđ.
✓ OVPIクライアント レポートの作成と表示のためのスタンドアロンアプリケーションを提供し	∠ます 。
<戻る 次へ>	キャンセル

図3 [コンポーネントの選択]ウィンドウ

 すべてのコンポーネントにチェックが入っていることを確認してください。 スタンドアロンインストールではすべてのコンポーネントが必要です。

各コンポーネントの説明については、12ページの「OVPI のコンポーネント」を参照してください。

2 [次へ]をクリックしてインストールを続行します。



タスク 8: OVPI ソフトウェアのインストールディレクトリを指定する。

図4に、[インストール先フォルダー]ウィンドウを示します。

≜。インストールウィザード	
インストール法フォルダ ソフトウェアをインストールするフォルダを入力し	
ソフトウェアを別のフォルダにインストールするには るか、[参照]をクリックします。	、インストール先のフォルダバスを入力す
インストール先のフォルダが存在しない場合は、イン す。インストール先のフォルダが存在する場合は、フ はできません。	マストールウィザードによって作成されま オルダが空でない限り、操作を続けること
インストール先フォルダ:	
C:YOVPI	
	≪戻る 次へ> キャンセル

図4 [インストール先フォルダー]ウィンドウ

インストールディレクトリは、NFS マウントディレクトリ、UNIX ソフトリン ク、UNIX ハードリンク、Windows マップドライブのいずれでも構いません。



宛先フォルダーへのパスには、スペース(空白)を入れることはできません。

以下のいずれかを実行します。

- [次へ]をクリックして、デフォルトのインストール先フォルダーを受け入 れ、インストールを続行する。
- デフォルトとは異なる宛先ディレクトリを入力し、[次へ]をクリックして インストールを続行する。

指定したインストールディレクトリによって、以下のようになります。

 インストールディレクトリが存在しない場合は、セットアッププログラムに よって作成されます。

- インストールディレクトリがすでに存在していて、データが入っている場合は、そのディレクトリが空でないことを警告するメッセージが表示されます。
- セットアッププログラムがアクセスできないファイルシステム上のインストールディレクトリを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。有効なディレクトリを指定するまで、インストールは続行できません。

タスク 9: OVPI データベーススキーマがインストールされるデータベースの設定を選択する。

図5に[データベースの選択]ウィンドウを示します。

≜ インストールウィザード	_ 🗆 🗙
データベースの選択 OVPIデータベーススキーマのインストール先の、現在のデータベース設定を 選択してください。	invent [®]
Sybase上にインストールしている場合は、新規データベースが自動的に作成され にインストールしている場合は、表領域を自動的に作成するか、または既存の表 トールするかを選択できます。既存の表領域へのインストールを選択する場合は、 ガイドで説明しているように、OVPIのデータベースユーザーと表領域をあらかじ 必要があります。	ます。Oracle上 領域にインス インストール め作成しておく
 新規表領域をOracle上に作成します Oracle上の既存の表領域を使用します 	
<戻る 次へ>	キャンセル

図5 [データベースの選択] ウィンドウ

オプションの選択にあたっては、以下のガイドラインに従ってください。

- どのオプションを選択すべきか不明な場合は、[新規表領域を Oracle 上に作成 します]を選択してください。
- 以下のいずれかの条件に当てはまる場合は、[Oracle 上の既存の表領域を使用 します]を選択してください。

- OVPI をインストールしているシステムで、Oracle Client を使用して Oracle リモートデータベースにアクセスする。
- 72ページの「表領域のサイズ設定のガイドライン」に説明されている dsi_dpipe ユーザーと表領域をすでに作成済みである。
- 1 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [新規表領域を Oracle 上に作成します]

このオプションを使用するには、dsi_dpipe ユーザーが存在して**いては** ならず、以下の表領域も存在して**いてはなりません**。

- dpipe_default_seg
- dpipe_property_ind_seg
- dpipe_property_seg
- dpipe_upload_ind_seg
- dpipe_upload_seg
- dpipe_rate_ind_seg
- dpipe_rate_seg
- dpipe_summary_ind_seg
- dpipe_summary_seg
- dpipe_overflow_seg
- [Oracle 上の既存の表領域を使用します]

インストールを続行する前に、以下を実行しておく*必要があります*。

- OVPI データベースユーザーアカウント (dsi_dpipe)を作成する。
- dsi_dpipe ユーザーとして、前述の表領域を作成する。
- Oracle の推奨パラメータを調整する。詳細は、68ページの「表領 域の作成」を参照してください。
- **2** [次へ]をクリックします。

選択した表領域オプションによって以下のいずれかを実行します。

— [新規表領域を Oracle 上に作成します]オプション。タスク 10 に進みます。

 — [Oracle 上の既存の表領域を使用します]オプション。94 ページのタスク 12 に進みます。

タスク 10:データベースの場所を確定し、接続する。

[データベース管理者ユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウが開きます。

≜ ₀インストールウィザード	_ 🗆 ×
データベース管理者エーザーを使用したOra Oracleデータベースを特定し、接続するため い。	cle参照 Iに、次の情報を入力してくださ invent
サーバーの設定	ユーザー設定
OracleインスタンスID (SID):	DBA権限を持つOracleユーザー: sys
Oracle TCPAPボート番号: 1521	Oracleユーザーバスワート: ########
Oracleホームディレクトリ:	
f:\oracle\ora92	参照
	<戻る 次へ⇒ キャンセル

図 6 [データベース管理者ユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウ

1 [Oracle インスタンス ID (SID)] ボックスに Oracle インスタンス ID を入力 します。

Oracle 環境変数 ORACLE_SID が設定されている場合にのみデフォルト値 が表示されます。複数のデータベースインスタンスが実行されている場合が あるため、表示された SID が正しいことを確認してください。

- [Oracle TCP/IP ポート番号] ボックスに Oracle の TCP/IP ポートを入力し ます。デフォルト値は 1521 です。
- 3 [DBA 権限を持つ Oracle ユーザー] ボックスに「sys」と入力します。
- 4 [Oracle ユーザーパスワード] ボックスに、sys アカウントのパスワードを 入力します。
- 5 [Oracle ホームディレクトリ]ボックスに、Oracle のインストールディレクトリを入力します。インストールプログラムが Oracle のホームディレクトリの場所を確定できる場合は、それがデフォルト値として提供されます。

6 [**次へ**]をクリックします。

タスク 11:Oracle ユーザーアカウントと新しい表領域を作成する。

表領域は autoextend を on にして作成されているため、表領域に現在十分な空 き領域がない場合、データの需要を満たすためにデータファイルが自動的に拡 張されます。したがって、物理ファイルシステムが 100% を超えないようにシス テムを監視してください。

図7に、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成] ウィンドウが示されています。

🍨 インストールウィザード		
Oracleユーザーと表領域の作成 OVPIのユーザーと表領域の作成に必要な情報を入力してく	ださい。	
作成される個々の表領域をカスタマイズする場合は、[詳細] ジの [データペースサイズ] フィールドまたは [データファイ と、[詳細] ボタンを通じてすでに入力した [表領域] の設定が	ボタンをクリックします。 このペー ルフォルダ)フィールドを変更する すべて無効になります。	
OVPI表領域の設定 データベーフサイブ	OVPIDB ユーザー(dsi_dpipe)	
1024 MB	*****	
データファイル(dbf)フォルダ: C:\oracle\ora92\dbs 参照	バスワードの確認: ********	
クリックすると詳細設定が可能です。詳細		
< 戻る	5 次へ> キャンセル	

図 7 [Oracle ユーザーおよび表領域の作成] ウィンドウ



Λ

[データベースのサイズ]および[データファイル(.dbf)フォルダー]オプショ ンの値を変更する前に、[詳細]ボタンをクリックしてデータベースセグメント のデータファイルを変更するかどうかを決定してください。詳細は、90ページ の手順4を参照してください。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用して データベースセグメントを変更した後は、[データベースのサイズ](手順1)お よび[データベースフォルダ](手順2)オプションの値を変更しないでくださ い。これらのオプションの値を一度設定すると、リセットすることはできませ ん。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスで行った変更が上書きされてしまいま す。インストールプログラムをキャンセルして初めからやり直す以外に、これら のオプションをリセットする方法はありません。

1 [データベースのサイズ]ボックスに、データベースのサイズを入力します。

デフォルト値は 1024MB で、最小サイズは 500MB です。

表領域は適切に領域を分散して作成されます。

- [データファイル(.dbf)フォルダ]ボックスに、データベースファイル(.dbf) が作成されるディレクトリを入力します。
- 3 [OVPI DB ユーザー(dsi_dpipe)]の[パスワード]ボックスで、dsi_dpipe アカウントのパスワードを作成し、[パスワードの確認]ボックスにそのパ スワードをもう一度入力します。

以下の規則に準拠した dsi_dpipe パスワードを作成してください。

- パスワードの長さは1文字以上30文字以下であること。
- アルファベット文字で始まるものであること。
- 有効な文字は、すべての英数字とアンダースコア (_) である。

▶ このパスワードは大文字と小文字を区別しません。

- 4 必要に応じて、[詳細]をクリックすると、[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、以下を実行できます。
 - 表領域を構成するデータファイルの追加、変更、または削除。

表領域には次のものがあります。デフォルト、プロパティとプロパティ インデックス、アップロードとアップロードインデックス、レートおよ びレートインデックス、サマリーおよびサマリーインデックス、データ ベースオーバーフロー。詳細は、「デフォルトの表領域の変更」を参照し てください。

 特定の Oracle 構成パラメータの変更。詳細は、92ページの「特定の Oracle 構成パラメータの変更」を参照してください。

デフォルトの表領域の変更

▲ [OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用してデータベースセグメ ントを変更した後は、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィン ドウの[データベースのサイズ](89ページの手順1)および[データ ファイルフォルダ](90ページの手順2)オプションの値を変更しない でください。これらのオプションの値を変更すると、リセットするこ とはできません。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用して 行った変更が上書きされてしまいます。インストールプログラムを キャンセルして初めからやり直す以外に、これらのオプションをリ セットする方法はありません。

表領域のサイズ設定ガイドラインについては、72ページの「表領域のサイズ設定のガイドライン」を参照してください。

表領域を変更するには、以下の手順に従います。

- a [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウの[**詳細**]をクリック して[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを開きます。
- **b** 変更する表領域に関連するタブを選択します。図8に、[OVPI 詳細設 定]ダイアログボックスの[プロパティ]タブが示されています。

次	インデックス
ipe_property_seg	dpipe_property_ind_seg
MB	10 MB
771/06 712(MB)	2711//6 712(MB) Chradebra@Webkine property ind per 001 dbf 20
2011日 安藤 1919年	10 to ST Rifle

図 8

[プロパティ]タブ

c [AUTOEXTEND のサイズ]ボックスに、拡張するサイズを入力します。

エクステントサイズに0を指定した場合、Oracleの自動拡張機能は 無効になります。

- d データファイルを追加するには、[追加]をクリックします。[データ ファイル]ダイアログボックス内の[データファイル名]ボックスに データファイル名、[サイズ (MB)]ボックスにデータファイルのサイズ を入力します。[OK]をクリックします。
- データファイルを変更するには、データファイルを選択して[変更]を クリックします。[データファイル]ダイアログボックスで、データファ イルの名前かサイズ、またはその両方を変更し、[OK]をクリックしま す。
- f データファイルを削除するには、データファイルを選択して[削除]を クリックします。
- 各表領域に対して少なくとも1つのデータファイルを作成する必要があります。
- g すべての変更が完了したら、[OK] をクリックして [OVPI 詳細設定] ダ イアログボックスを閉じ、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成] ウィ ンドウに戻ります。

特定の Oracle 構成パラメータの変更

これらのパラメータに対する HP 推奨値は、70ページの表1を参照してく ださい。

Oracle 構成パラメータを変更するには、以下の手順に従います。

- a [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウの[詳細]をクリック して[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを開きます。
- **b** [パラメータ]タブを選択します。[パラメータ]タブには以下のオプ ションがあります。
 - SGA_MAX_SIZE。このパラメータは、Oracle データベースが利用 するメモリーの最大量を指定します。このメモリーは共有メモリー で、すべての Oracle サーバープロセスによって使用されます。

- PGA_AGGREGATE_TARGET (M)。このパラメータは、インスタンスに関連付けられているすべてのサーバープロセスが使用できる、ターゲット集合 PGA メモリーを指定します。デフォルト値は 200Mです。
- DB_FILE_MULTIBLOCK_READ_COUNT。このパラメータは、 順次スキャンの発生時に1回のI/O操作で読み取られる最大ブロッ ク数を指定することにより、テーブルスキャン時のI/Oを最小限に 抑えることができます。
- WORKAREA_SIZE_POLICY。このパラメータは、作業領域のサイズ設定のためのポリシーを指定し、作業領域の調整モードを制御します。デフォルト値はAUTOです。この値にMANUALを指定しないことをお勧めします。
- DB_CACHE_SIZE。このパラメータは、一次ブロックサイズを持つ バッファのデフォルトバッファプールのサイズを指定します。デ フォルト値はTRUEです。FALSEに指定しないことをお勧めしま す。
- DB_32K_CACHE_SIZE。このパラメータは、32K バッファの キャッシュのサイズを指定します。
- PARALLEL_AUTOMATIC_TUNING。このパラメータは、Oracle が並列実行を制御するパラメータのデフォルト値を決定するかどう かを指定します。
- **c** [適用]をクリックして変更を有効にします。[Oracle ユーザーおよび表 領域の作成]ウィンドウに戻るには、[OK]をクリックします。
- 5 [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウで[次へ]をクリックして インストールを続行します。
- **6** 95ページのタスク13に進みます。

タスク 12:データベースの場所を確定し、接続する。

図 9 に、[OVPI データベースユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウが示 されています。

👙 インストールウィザード	
OVPIデータベースユーザーを使用したOracle Oracleデータベースを特定し、接続するために い。	参照 、 次の情報を入力してくたさ
サーバーの設定 OracleインスタンスID (SID): oracle Oracleデータベースホスト: hpkszh Oracle TCP/PFボート番号: 1521	ユーザー設定 OVPIデータベースユーザー: <i>dsi_dpipe</i> パスワード: ********
ft/oracle/ora92	参照
	<戻る 次へ> キャンセル

図 9 [OVPI データベースユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウ

1 [Oracle インスタンス ID (SID)] ボックスに Oracle インスタンス ID を入力 します。

Oracle 環境変数 ORACLE_SID が設定されている場合にのみデフォルト値 が表示されます。複数のデータベースインスタンスが実行されている場合が あるため、表示された SID が正しいことを確認してください。

2 [Oracle ホスト名] ボックスに Oracle がインストールされているシステムの ホスト名を入力します。

デフォルトでは、このボックスにはローカルホストの名前が入っています。 Oracle データベースがリモートシステムにインストールされている場合は、 この値を変更する必要があります。

- **3** [Oracle TCP/IP ポート番号] ボックスに Oracle の TCP/IP ポートを入力します。
- 4 [パスワード]ボックスに、dsi_dpipeアカウントのパスワードを入力しま す。

- 5 [Oracle ホームディレクトリ]ボックスに、Oracle のインストールディレクトリを入力します。インストールプログラムが Oracle のホームディレクトリの場所を確定できる場合は、デフォルト値として提供されます。
- **6** [**次へ**]をクリックします。
- 7 [Oracle パラメータの確認]ボックスで、OVPIをサポートするようにパラメータを変更したことを確認するよう要求されます。[次へ]をクリックして 続行します。

タスク 13:パフォーマンスマネージャをインストールする。

図 10 に [パフォーマンスマネージャの設定]ウィンドウが示されています。

インストールウィザード	r
パフォーマンスマネージャの設定 ポーリングされたデータのキャッシュに使用するフォルダを入力してくださ い。	
収集を正しく実行するためには、キャッシュフォルダが存在するディスクパーティ 512MB の空き領域が必要です。キャッシュフォルダは、収集したデータをデータ る前に保存するために使用されます。これは特に、データベースが短時間停止した の損失を防ぐのに役立ちます。	・ションに 5% + ベースに格納す ₋ 場合にデータ
キャッシュフォルダ: Kopt(OVP)(collect	参昭
クリックすると詳細設定が可能で	す。 詳細
< 戻る	キャンセル

図 10 [パフォーマンスマネージャの設定] ウィンドウ

収集が正常に動作するには、ポーラーおよびデータ収集で使用する キャッシュディレクトリがあるディスクパーティションの 5% の空き 領域に加えて、さらに 512MB の空き領域が必要です。たとえば、 ディスクパーティションが 10GB の場合、1GB の空き領域が必要で す。 以下の手順に従います。

1 必要があれば、[詳細]をクリックして[OVPI 詳細設定]ダイアログボック スを開き、ログファイルを格納するディレクトリを指定することができます。

ログファイルのディレクトリを指定するには、以下の手順に従います。

- **a** [ログディレクトリ]ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - ー ログファイルが常駐するディレクトリのパスを入力する。
 - [**参照**]をクリックして希望のディレクトリを探す。
 - デフォルトのパスを受け入れる。デフォルトパスにより、OVPIの インストールディレクトリの配下に log フォルダーが作成されま す。
- インストールでは、OVPIをインストールしたディレクトリの下にロ グディレクトリが作成されます。特定のログファイルは、[ログディ レクトリ]ボックスで指定したディレクトリに関係なく、このログ ディレクトリで管理されます。
- **b** [**OK**]をクリックして変更を適用し、[パフォーマンスマネージャの設定]ウィンドウに戻ります。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - [次へ]をクリックして、キャッシュフォルダーのデフォルトの場所を受け入れ、インストールを続行する。
 - 完全修飾パスを入力し、[次へ]をクリックしてインストールを続行する。
 - [参照]をクリックしてキャッシュフォルダーの場所に移動し、[次へ] をクリックしてインストールを続行します。
- 3 オペレーティングシステムによって以下のいずれかを実行します。
 - Windows: 100 ページのタスク 15 に進みます。
 - UNIX: タスク 14 に進みます。

タスク 14:UNIX システムのみ : オペレーティングシステムのアカウントを作成または変更 する

UNIX システムの場合、パフォーマンスマネージャコンポーネントには、 trendadm という名前のオペレーティングシステムアカウントおよびグループが 必要です。

このアカウントの目的は、OVPI が実行される環境を保存することです。このア カウントはオペレーティングシステムへのログオンのために使用するものであ り、Web アクセスサーバーアプリケーションへのログオンに使用する、100 ページのタスク 15 で作成する trendadm アカウントと混同しないでください。

このアカウントが存在しているかどうかによって、インストールのこの時点で 表示されるウィンドウが異なります。

- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在しない場合は、 OS ユーザー作成用のウィンドウが開きます。98ページの「オペレーティン グシステムアカウントの作成」を参照してください。
- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在する場合は、既存の OS ユーザー用のウィンドウが開きます。99 ページの「既存のオペレー ティングシステムアカウントの変更」を参照してください。

オペレーティングシステムアカウントの作成

図 11 に、[パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユーザー] ウィンドウが示されています。

-	インストールウィザード	r.
パフォーマンスマネージ々 パフォーマンスマネージ+ trendadmと、グループtre	用のオペレーティングシステムユーザー いよ、オペレーティングシステム ユーザーアカウント ndadmを作成します	invent [®]
trendadm アカウントのパス と確認用パスワードが一致し する必要があります。	ワードと確認用パスワードを入力してください。入力し しない限り、作業を続けることはできません。パスワー	,たパスワード ドは必ず指定
	パスワード: *******	
	パスワードの確認: ********	
	< 戻る 次へ >	キャンセル

図 11 [パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユー ザー]ウィンドウ

1 [パスワード]ボックスで trendadm アカウントのパスワードを作成し、[パ スワードの確認]ボックスにもう一度そのパスワードを入力します。

デフォルトでは、パスワードは1文字以上でなければならず、最大長の制限 はありません。任意の文字を指定できますが、パスワードの作成については 会社のポリシーに従うことをお勧めします。

- 2 [次へ]をクリックします。
- **3** 100 ページのタスク 15 に進みます。

既存のオペレーティングシステムアカウントの変更

図 **12** に、[パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユーザー] ウィンドウが示されています。

- インストールウィザード ・
パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユーザー パフォーマンスマネージャでは、オペレーティングシステムユーザーアカウン トtrendadmと、グルーヺtrendadmが必要です。
インストールウィザードによって、既存の trendadm アカウントが検出されました。このアカウン トの環境を変更するかどうかを指定してください。
環境を変更することを指定した場合は、 trendadim ホームディレクトリ内の.profileファイルと. cshrcファイルが更新されます。
◎ ユーザー環境を変更する
○ユーザー環境を変更しない
<戻る 次へ> キャンセル

図 12 [パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユー ザー]ウィンドウ

- 1 以下のいずれかをクリックします。
 - [ユーザー環境を変更する]。このオプションは、trendadmアカウントの .profile または.cshrcをOVPI環境変数(COLLECT_HOME、 DPIPE HOME、DPIPE TMP、およびTREND LOG)で更新します。
 - [ユーザー環境を変更しない]。このオプションは、アカウントの .profile または .cshrc を OVPI 環境変数で更新しません。このオプ ションを選択した場合は、後から OVPI 環境変数を手作業で追加する必 要があります。
- **2** [次へ]をクリックします。

タスク 15:Web アクセスサーバーのポートを指定する

図 13 に、[Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウが示されています。

ー インストー	ルウィザード 🗾
Webアクセスサーパーの設定 OVPI Webアクセスサーバーコンポーネントで OVPI管理者ユーザー、およびリスン対象のHT	は、Webアクセスサーバー上の TPポートが必要です。
ユーザー設定 OVPI Webアクセス管理者のユーザー名とパス ワードを入力してください。 ユーザー名: trendadm パスワード: パスワードの確認:	 ポートの設定 Webアクセスサーバーのリスン対象である HTTPポートを入力してください。80以外の ポートを選択する場合は、Webアクセスサー バーにアクセスするためのURLの中にその ポート番号が含まれている必要があります。 HTTPポート: 30 クリックすると詳細設定が可能です。 詳細
	<戻る (法へ) キャンセル

図 13 [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウ

- 1 [ユーザー名]ボックスに、OVPI Web アクセスサーバー管理者のユーザー 名を入力します。ユーザー名はデフォルトでは trendadm です。
 - このアカウントは Web アクセスサーバーアプリケーションへのログ オンに使用します。このアカウントと、97ページのタスク 14 で説明 している、OVPIの実行環境を保存するのに使用する trendadm アカ ウント(UNIXのインストールのみ)とを混同しないでください。 Web アクセスサーバーのアカウントのデフォルト名は trendadm で すが、ここでこの名前を変更できます。

 [パスワード]ボックスにパスワードを入力して、OVPI Web アクセスサー バー管理者アカウントのパスワードを作成します。

インストールウィザードによる長さの制限(最小および最大)や、 ユーザー名およびパスワードに使用できる文字に関する制限はありま せんが、ユーザー名とパスワードを指定するよう要求されます。ユー ザー名およびパスワードの作成に関する会社のポリシーに準拠するこ とをお勧めします。

Web アクセスサーバーアプリケーションを使用して、OVPI のインストール 後にパスワード規則を変更することができます。詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

- **3** [パスワードの確認]ボックスに手順2で作成したパスワードを入力します。
- 4 デフォルト値を採用しない場合は、[HTTP ポート]ボックスにWebアクセスサーバーのポート番号(80)を入力します。開いているポートならどのポートでも使用できます。
- 5 必要に応じて、[**詳細**]をクリックして[OVPI 詳細設定]ダイアログボック スを開き、以下の処理が実行できます。
 - レポートディレクトリの場所の変更([ディレクトリ]タブ)。レポート ディレクトリには、配布されたすべてのレポートが保存されます。詳細 は、「レポートディレクトリの変更」を参照してください。
 - ユーザーアカウントの作成および削除([OVPI ユーザー]タブ)ユー ザーアカウントから、OVPIのクライアントアプリケーション(レポー トビューア、レポートビルダ、Webアクセスサーバー、および管理コン ソール)にログオンすることができます。詳細は、102ページの「ユー ザーアカウントの作成および変更」を参照してください。
 - Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザ間の SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする ([SSL の設定] タブ)。詳細 は、103 ページの「SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする」を 参照してください。
- 6 [次へ]をクリックしてインストールを続行します。

レポートディレクトリの変更

ユーザーおよびレポートのディレクトリの場所を変更するには、以下の手順 に従います。

- a [OVPI 詳細設定] ダイアログボックスの[ディレクトリ] タブを選択し ます。
- **b** *レ*ポートディレクトリを変更するには、以下の*いずれか*を実行します。
 - [レポートディレクトリ]ボックスに新しいディレクトリの場所を入 力する。
 - ディレクトリを検索するには、[参照]をクリックする。ディレクトリの場所を確定し、[開く]をクリックする。
- **c** [**適用**]をクリックして変更を有効にします。
- d [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウに戻り、 [次へ] をクリックしてインストールを続行します。

ユーザーアカウントの作成および変更

[OVPI ユーザー] タブを使用してユーザーアカウントを作成します。これら のアカウントは、OVPI クライアントアプリケーション(管理コンソール、 レポートビルダ、レポートビューア、および Web アクセスサーバー)への ログオンに使用されます。

通常のユーザーアカウントまたは管理者アカウントを作成できます。管理者 以外のアカウントを持つユーザーは、OVPI クライアントアプリケーション にアクセスできます。管理者アカウントを持つユーザーは、Web アクセス サーバーの管理機能([管理]リンク)にアクセスできます。詳細は、 『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

アカウントを作成および変更するには、以下の手順に従います。

- a [OVPI 詳細設定] ダイアログボックスの [OVPI ユーザー] タブを選択し ます。
- b ユーザーアカウントを追加するには、以下の手順に従います。
 - [ユーザーの追加]をクリックする。ユーザー名、パスワード、および ユーザーの役割のデフォルト値が設定された新規ユーザーが表示さ れます。
 - [ユーザー名]列の下にある新規ユーザーセルをダブルクリックし、 デフォルト値を削除して、使用するユーザー名を入力する。
 - [パスワード]列の下の新規ユーザーセルをダブルクリックし、デ フォルト値を削除して、使用するパスワードを入力する。

- [ロール]列の下のユーザーセルをクリックし、一覧から役割 (user または admin) を選択する。
- すべての変更が完了したら [**適用**]をクリックします。
- c ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従います。
 - ユーザー名を選択します。ユーザー名、パスワード、および役割を 含む行全体が選択されます。
 - [**ユーザーの削除**]をクリックします。
 - すべての変更が完了したら [**適用**]をクリックします。
- d [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定]ウィンドウに戻り、
 [次へ]をクリックしてインストールを続行します。

OVPIのインストール後に、Webアクセスサーバーを使用してユーザーアカ ウントを作成、変更または削除できます。詳細は、『*Performance Insight 管 理ガイド*』を参照してください。

SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする

SSL を使用すると、Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラ ウザ、レポートビューア、レポートビルダおよび管理コンソール間の安全な 通信を実現できます

SSL を有効にするには、自己署名証明書を作成します。この証明書により SSL を有効にできますが、この自己署名証明書の有効期限は90日間です。 90日間の期限が切れる前に、この証明書を認証機関に送って署名入りデジ タル証明書を受け取るか、別の自己署名証明書を作成する必要があります。

署名入りデジタル証明書を受け取ったら、Web アクセスサーバーアプリ ケーションを使用してインポートする必要があります。また、Web アクセス サーバーを使用して、OVPI のインストール後に SSL の設定を変更するこ ともできます。詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してくだ さい。

SSL 通信を有効にして自己署名証明書を作成するには、以下の手順に従います。

a [OVPI 詳細設定] ダイアログボックスの [SSL の設定] タブを選択しま す。 **b** [SSL の有効化] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択しても、標準の HTTP リスナーは無効になり ません。したがって、安全な SSL ポートと安全の確保されていない HTTP ポートが両方とも有効になります。

- c 以下のいずれかを実行します。
 - [SSL ポート]ボックスの値をそのままにする(デフォルト値は 443)。
 - [SSL ポート] ボックスの値を変更する。
- d [キーストア パスワード]ボックスに6文字以上のパスワードを入力します。
 - パスワードを記録し安全な場所に保管しておきます。このパスワードは、署名証明書を作成するのに必要です。

自己署名証明書を作成すると、証明書リポジトリに保存されます。このパスワードにより、Webアクセスサーバーは証明書リポジトリに アクセスできます。

残りのフィールドは、証明書署名機関によって検証および署名される 必要のある、SSLキーを生成するのに必要な情報を要求します。この 情報は、証明書の有効性を確認するために、証明書のチェック担当者 が使用します。

- e [国コード]ボックスに2文字の国コードを入力します("JP" など)。
- f 以下の情報は省略可能です。
 - [組織]。自分が所属する組織名を入力します("ABC システム株式会社"など)。
 - [組織単位]。所属部署の名称を入力します("営業部"など)。
 - [市町村]。所在地の市町村名を入力します("Suginami-ku" など)。
 - [州 / 都道府県]。都道府県名を入力します ("Tokyo" など)。
- **g** [**適用**]をクリックして変更を有効にします。
- h [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウに戻り、 [次へ] をクリックしてインストールを続行します。

タスク16:インストール情報を確認してインストールする

図14に、[概要]ウィンドウを示します。

≜ インストールウィザード	_ 🗆 ×
転要 これまでの選択内容の要約を下に示します。選択内容を変更するには、[戻 る]をクリックします。これらの選択内容でインストールを行うには、[イン ストール]をクリックします。	
<u>ディスク容量</u> ファイルシステム: CA 必要な容量: 1,443 MB 使用可能な容量: 22,283 MB	<u>•</u>
選択したコンポーネント OVPIデータベーススキーマ: はい パフォーマンスマネージャ: はい Webアクセスサーパー: はい OVPIクライアント: はい	
<戻る インストール	キャンセル

図 14 [概要] ウィンドウ

- 1 [概要]ウィンドウの内容を確認します。
- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- 3 [インストール]をクリックしてインストールを続行します。

タスク17:セットアッププログラムを終了する。

図 15 にインストールの進捗状況を示す[インストールの進捗状況]ウィンドウ を示します。



図 15 [インストールの進捗状況] ウィンドウ

以下のいずれかを実行します。

- OVPI のインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックします。
 - UNIX システムに OVPI をインストールした場合は、インストールは 完了です。
- OVPIのインストールが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、サポートに連絡してください。

タスク 18:Windows システムのみ : システムをリブートする

OVPI を使用する前に、Windows システムをリブートする必要があります。

文書のインストール

OVPI をインストールした後で、文書をインストールします。OVPI の文書は、 PDF(Portable Document Format) 形式で利用可能です。PDF を見るには Adobe Acrobat Reader を使用します。



文書をインストールしないと、OVPIのオンラインヘルプが使用できません。

文書は、OVPI をインストールしたディレクトリの下の docs フォルダ内にイン ストールされます。たとえば Windows システムでは、以下の場所から文書を利 用することができます。

 $installation_directory {\tt {\tt H} docs}$

ここでは、*installation_directory* は OVPI のインストール先ディレクトリです。

UNIX でのインストール

UNIX での文書のインストール方法は次のとおりです。

- 1 root としてログオンします。
- 2 文書 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユーザーの場合は、挿入した CD をマウントします。

表2に、各UNIX プラットフォームでのCDのマウント方法を示します。

表 2 UNIX での OVPI CD のマウント

オペレーティング システム	コマンド
Sun Solaris	CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、CD は自動的にマ ウントされます。CD-ROM が自動的にマウントされると、 ファイルマネージャウィンドウが開きます。ウィンドウが 開かれない場合は、 root として次のように入力します。
	mkdir /cdrom mount -r /dev/dsk/cd devicename /cdrom
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。
HP-UX	SAM ユーティリティを使用して CD-ROM をマウントする か、 <i>または</i> 次のコマンドを入力します。 mkdir /cdrom mount /dev/dsk/ <i>cd_devicename</i> /cdrom
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。

- 3 Solaris システムの場合のみ:以下の手順を実行します。
 - a cd_labelを表示するには、次のコマンドを入力します。

ls -1 /cdrom

b ディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。

cd/cdrom/cd_label

ここで、*cd_label*は CD 名です。
4 次のコマンドを入力して、セットアッププログラムを起動します。

./setup

[ようこそ]ページが開きます。

5 インストールウィザードの指示に従います。

Windows でのインストール

Windows での文書のインストール方法は次のとおりです。

- 1 適切な管理者権限をもっていることを確認してください。
- **2** 文書 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

OVPI 文書 CD を挿入すると、自動的にインストールプログラムが起動しま す。自動的に起動しない場合は、CD の最上位のフォルダーから setup.exe をダブルクリックします。

[ようこそ]ページが開きます。

3 インストールウィザードの指示に従います。

サービスパックの適用

このリリースのサービスパックを適用します。このリリースのサービスパックの 場所を確認するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/cpe/ovpi/patch_ovpi.jsp(英語)

インストール後の設定作業

OVPI のインストール完了後に、OVPI を構成する方法、および実行する必要の ある管理タスクについては、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してく ださい。 Oracle での OVPI のインストール

5

分散型構成での OVPI のインストール

この章では、分散型構成での HP OpenView Performance Insight(OVPI) のイン ストール方法について説明します。

インストールの前提条件

分散型構成に OVPI をインストールする前に、以下を実行しておく必要があります。

- 『Performance Insight リリースノート』を読んでおくこと。このドキュメントは、OVPIバージョン 5.1.1 のリリースでの変更点についての概要を説明しています。
- アーキテクチャ全体の中で自分のシステムが果たす役割について理解するために、16ページの「OVPIシステムの役割とタスク」をお読みください。システムの役割は、システムがその役割を遂行するためにインストールする必要のある OVPI コンポーネントを決定します。
- 22ページの「分散型構成を採用する理由」をお読みください。

- システムが第2章「インストールの準備」の前提条件を満たしていることを 確認してください。すべてのWindowsシステム、およびUNIXシステムの 前提条件については、30ページの「システムの要件」を参照してください。 また、UNIXシステムは、43ページの「UNIX固有の要件」も参照してく ださい。
- 以下の要件を満たしていることを確認してください。
 - *最初に*データベーススキーマコンポーネントをインストールします。必 ずデータベースサーバー (Sybase または Oracle)を実行しているシステ ムと同じシステムにインストールしてください。
 - OVPIのデータベーススキーマコンポーネントとパフォーマンスマネージャコンポーネントを同じシステムにインストールします。

これらのコンポーネントは、インストール時に[コンポーネントの選択]ウィンドウから選択します。

 リモートポーラーとサテライトサーバーは異なるプラットフォーム上に インストールできますが、デフォルトのデータベースキャラクタセット はオペレーティングシステムによって異なる可能性があるため、すべて のデータベースインスタンスとクライアントが共通のキャラクタセット を使用するようにしてください。

OVPI のインストール

分散型構成に OVPI をインストールする方法は数多くあるため、構成のすべて について説明することはできませんが、この章では以下について解説します。

- 一般的な分散型構成に OVPI をインストールする方法(構成)
- 各コンポーネントを個別にインストールする方法
- Sybase および Oracle への、データベースおよびパフォーマンスマネージャ コンポーネントのそれぞれのインストール方法
 - 既存の Oracle データベースを使用していて、システム上でそのデー タベースを、インストールされた OVPI とは別にしておく予定である 場合は、74ページの「既存のリモート Oracle データベースの使用」 を参照してください。

この項では、以下に示すような分散型構成に OVPI をインストールする方法に ついて説明します。



図1 一般的な SNMP ポーリングシステム用分散型アーキテクチャ

例:分散型構成での OVPI のインストール

次の例は、図1に示された分散型構成で Sybase を使用している Windows システムに OVPI をインストールする方法について示しています。

タスク 1: Sybase がインストールされていて、動作中であることを確認する。

Sybase がインストールされていて、動作中であることを確認してください。詳細は、『Performance Insight リリースノート』を参照してください。

タスク 2: 中央サーバーにデータベーススキーマおよびパフォーマンスマネージャの各コン ポーネントをインストールする。

タスク 3: Web アクセスサーバーをインストールする。

Web アクセスサーバーをインストールするには、132ページの「Web アクセス サーバーのインストール」を参照してください。

複数の Web アクセスサーバーをインストールする場合は、それぞれについてインストール手順を繰り返してください。

タスク 4: 中央サーバーにレポートパックをインストールし、レポートの配布のためのデ フォルトを採用する 中央サーバーがポーリングしていない場合は、中央サー バーにはデータパイプをインストールしないでください。

共有パッケージ、レポートパック、およびデータパイプは、パッケージとして RNS 配布 CD にまとめて収録されています。RNS のリリースごとに作成される 『リリースノート』に記載されているように、CD を挿入すると、CD から圧縮 ファイルを抽出してシステムの Packages ディレクトリにコピーする、パッケー ジ抽出プログラムが起動されます。パッケージの抽出が終了すると、ただちに Performance Insight が開始し、インストールウィザードの[ようこそ]ウィン ドウが開きます。

画面に表示される手順に従ってパッケージをインストールします。依存関係、 アップグレードパッケージのインストール時の特別な手順、パッケージを分散 環境で機能するよう構成するための特別な手順に関する詳細は、そのパッケー ジのユーザーガイドを参照してください。ユーザーガイドは、システムの OVPI の下にある docs の指示の中にあります。次の Web サイトからもユーザーガイ ドをダウンロードできます。

http://openview.hp.com/(英語)

[Support]、[製品マニュアル(英語)]の順に選択すると、「Product Manuals Search」ページ(英語)が表示されます。共有パッケージ、レポートパック、お よびデータパイプのユーザーガイドは、[1. Product] で [Reporting and Network Solutions] を選択すると表示されます。 日本語のマニュアルは以下の URL からも入手できます。 http://www.jpn.hp.com/doc/manual/openview/index.html

タスク 5: レポートを各 Web アクセスサーバーに配布する

複数の Web アクセスサーバーが構成されている場合は、**deploytool** コマンド を使用して中央サーバーから各 Web アクセスサーバーにすべてのレポートを配 布してください。**deploytool** コマンドの詳細については、『*Performance Insight Reference Guide*』を参照してください。

別の方法として、配布ウィザードを使用して、選択したレポートを1回に1つ ずつ配布することもできます。配布ウィザードの詳細については、 『Performance Insight レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。

タスク 6: 各サテライトサーバーにデータベーススキーマおよびパフォーマンスマネージャ をインストールする



サテライトサーバーを使用せずに分散環境を構築することも可能です。この場 合は、中央サーバーとリモートポーラーのインストールのみになります。

タスク7: サテライトサーバー上のネットワークを検出する。

以下のいずれかの方法で、ネットワークを検出します。

- SNMP 検出ウィザードを使用して OVPI にノードを検出させる。詳細は、 『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。
- node_manager コマンドを使用してノードをインポートする。詳細は、 『Performance Insight Reference Guide』を参照してください。

検出する必要があるのはポーリングするノードだけです。

タスク 8: 各サテライトサーバーにレポートパックおよびデータパイプをインストールする。ローカルレポートが必要な場合は、インストール時にレポートを配布する

パッケージマネージャを起動し、画面に表示される指示に従います。パッケージ のユーザーガイドに、インストールすべきパッケージとその順序が示されてい ます。サテライトサーバーがポーリングを行っていない場合は、 trendtimer.schedファイルを編集することでポーリングを無効にしてくださ

い。ポーリングについての詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

タスク 9: リモートポーラーをインストールする(省略可)

詳細は、144 ページの「リモートポーラーコンポーネントのインストール」を参照してください。

複数のリモートポーラーをインストールする場合は、各リモートポーラーに対 してインストール手順を繰り返します。

タスク 10:各サテライトサーバーでタイプ検出を実行する

レポートパックのインストール時にタイプ検出を実行しなかった場合は(タスク 8を参照)、各サテライトサーバーでタイプ検出を実行します。タイプ検出の詳 細は、『*Performance Insight 管理ガイド*』を参照してください。

タスク 11:分散環境で使用するために、レポートパックを構成する

具体的な手順はレポートパックによって異なります。一般的には、以下のように して行います。

- [データベースの追加ウィザード]を使用して、中央サーバーとサテライト サーバーデータベースとの間の接続を設定します。
- trendcopyのpull コマンドを設定します。
- 各サテライトサーバーで、時間単位よりも上位レベルの要約を停止させます。

具体的な手順については、そのレポートパックのユーザーガイドを参照してく ださい。

タスク 12:リモートポーラーのポーリングポリシーを設定する(省略可)

この作業は、リモートポーラーを使用している場合にのみ適用されます。詳細 は、『Performance Insight 管理ガイド』または『Interface Discovery Datapipe ユーザーガイド』の「複数ポーラーの設定」を参照してください。

OVPI のコンポーネントの個別インストール

インストールウィザードを使用すると、特定のシステムに必要なコンポーネントを選択して、インストールできます。このウィザードは、インストール作業をガイドし、インストールに必要なすべての構成パラメータを要求します。ここでは、ほぼすべてのコンポーネントを個別にインストールする方法について説明します。



分散環境を構築する場合、データベーススキーマコンポーネントとパフォーマ ンスマネージャコンポーネントは同じシステムにインストールする*必要があり ます*。

データベーススキーマおよびパフォーマンスマネージャコンポーネン トの Oracle へのインストール

この項では OVPI データベースコンポーネントおよびパフォーマンスマネー ジャの Oracle へのインストールに必要な準備とインストール手順について説明 します。

分散環境を構築する場合、データベーススキーマコンポーネントとパフォーマンスマネージャコンポーネントは同じシステムにインストールする必要があります。

インストールの準備

インストールプロセスを遅延なく進めるため、以下の情報がそろっていること を確認してください。

- OVPI のインストール先ディレクトリ
- Oracle インスタンス ID (SID)
- OVPI データベースアカウント (dsi_dpipe) のパスワード
- Oracle TCP/IP ポート番号
- Oracle のインストール先ディレクトリ
- 既存の表領域を使用する場合は、以下の情報も必要です。
 - データベースのサイズ
 - ― データファイルが格納されているディレクトリ

表領域および表領域のサイズ設定に関するガイドラインの詳細は、64 ページの「Oracle 9.2.0.5 のインストール」を参照してください。

- Poller/Collection Cache ディレクトリ
- UNIX システムのみ:オペレーティングシステムアカウント (trendadm)の 作成または変更
- Web アクセスサーバーのホスト名
- Web アクセスサーバーの HTTP ポート番号
- 管理サーバーの HTTP ポート番号

コンポーネントのインストール

以下の作業を実行して、データベーススキーマおよびパフォーマンスマネー ジャコンポーネントをインストールします。

タスク1:データベースがインストールされていて、動作中であることを確認する。

詳細は、第3章「データベースのインストール」を参照してください。

既存の 9.2.0.5 Oracle データベースを使用し、データベースにリモートアクセスするよう OVPI をインストールするには、74 ページの「既存のリモート Oracle データベースの使用」にある、構成とインストールについての情報を参照してください。

タスク 2: OVPI 用に作成された Oracle リスナープログラムが実行されていることを確認 する。

タスク 3: セットアッププログラムを起動する。

60ページの「セットアッププログラムの起動」を参照してください。

セットアッププログラムを起動すると、[セットアップ](62ページを参照)ウィンドウが開きます。

タスク 4: OVPI インストールオプションを選択する。

[セットアップ] ウィンドウの [インストール] セクションから [**OVPI 5.1.1**] を選 択します。

タスク 5: [ようこそ] ウィンドウを読む。

[ようこそ] ウィンドウが開きます。82ページの図1を参照してください。

[次へ]をクリックしてインストールを続行します。

タスク 6: 使用許諾条件を承諾または拒否する。

[使用許諾条件]ウィンドウが開きます。83ページの図2を参照してください。 以下の*いずれか*を実行します。

 使用許諾条件を拒否してインストールを中断する場合は、[キャンセル]をク リックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックすると、インストールプロセスが終了します。
- [いいえ]をクリックすると、[使用許諾条件]ウィンドウが再び表示されます。そこで[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックすると、インストールを続行できます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのインストールを続行するには、[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

タスク 7: インストールする OVPI コンポーネントを選択する。

[コンポーネントの選択]ウィンドウが開きます。84 ページの図3を参照してください。

1 [OVPI データベーススキーマ]と[パフォーマンスマネージャ]のチェックボック スをオンにし、その他のチェックボックスはすべてオフにします。

各コンポーネントの説明については、12 ページの「OVPI のコンポーネント」を参照してください。

2 [**次へ**]をクリックします。

タスク 8: OVPI ソフトウェアのインストールディレクトリを指定する。

[インストール先フォルダー]ウィンドウが開きます。85 ページの図4を参照してください。

インストールディレクトリは、NFS マウントディレクトリ、UNIX ソフトリン ク、UNIX ハードリンク、Windows マップドライブのいずれでも構いません。

宛先フォルダーへのパスには、スペース(空白)を入れることはできません。

以下のいずれかを実行します。

- [次へ]をクリックして、デフォルトのインストール先フォルダーを採用し、 インストールを続行する。
- デフォルトとは異なる宛先ディレクトリを入力し、[次へ]をクリックして インストールを続行する。

指定したインストールディレクトリによって、以下のようになります。

- インストールディレクトリが存在しない場合は、セットアッププログラムに よって作成されます。
- インストールディレクトリがすでに存在していて、データが入っている場合は、そのディレクトリが空でないことを警告するメッセージが表示されます。
- セットアッププログラムがアクセスできないファイルシステム上のインストールディレクトリを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。有効なディレクトリを指定するまで、インストールは続行できません。

タスク 9: OVPI データベーススキーマがインストールされるデータベースの設定を選択す る

[データベースの選択]ウィンドウが開きます。86ページの図5を参照してください。

オプションの選択にあたっては、以下のガイドラインに従ってください。

- どのオプションを選択すべきか不明な場合は、[新規表領域を Oracle 上に作成 します]を選択してください。
- 以下のいずれかの条件に当てはまる場合は、[Oracle 上の既存の表領域を使用 します]を選択してください。
 - OVPI をインストールしているシステムで、Oracle Client を使用して Oracle リモートデータベースにアクセスする。

- 72 ページの「表領域のサイズ設定のガイドライン」に説明されている dsi_dpipe ユーザーと表領域をすでに作成済みである。
- 1 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [新規表領域を Oracle 上に作成します]

このオプションを使用するには、dsi_dpipe ユーザーが存在していては ならず、以下の表領域も存在していてはなりません。

- dpipe_default_seg
- dpipe_property_ind_seg
- dpipe_property_seg
- dpipe_upload_ind_seg
- dpipe_upload_seg
- dpipe_rate_ind_seg
- dpipe_rate_seg
- dpipe_summary_ind_seg
- dpipe_summary_seg
- dpipe_overflow_seg
- [Oracle 上の既存の表領域を使用します]
 - インストールを続行する前に、以下を実行しておく*必要があります*。
 - OVPI データベースユーザーアカウント (dsi_dpipe) を作成する。
 - dsi_dpipe ユーザーとして、前述の表領域を作成する。
 - Oracle の推奨パラメータを調整する。詳細は、70ページの表1を 参照してください。
- どのオプションを選択すべきか不明な場合は、[新規表領域を Oracle 上に作成します]を選択してください。
- **2** [次へ]をクリックします。

選択した表領域オプションによって以下のいずれかを実行します。

[新規表領域を Oracle 上に作成します]オプション。タスク 10 に進みます。

 [Oracle 上の既存の表領域を使用します]オプション。127 ページのタスク 12 に進みます。

タスク 10:データベースの場所を確定し、接続する。

88 ページの図 6 に、[データベース管理者ユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウが示されています。

1 [Oracle インスタンス ID (SID)] ボックスに Oracle インスタンス ID を入力 します。

Oracle 環境変数 ORACLE_SID が設定されている場合にのみデフォルト値 が表示されます。複数のデータベースインスタンスが実行されている場合が あるため、表示された SID が正しいことを確認してください。

- [Oracle TCP/IP ポート番号] ボックスに Oracle の TCP/IP ポートを入力し ます。デフォルト値は 1521 です。
- 3 [DBA 権限を持つ Oracle ユーザー] ボックスに「sys」と入力します。
- 4 [Oracle ユーザーパスワード]ボックスに、sys アカウントのパスワードを 入力します。
- 5 [Oracle ホームディレクトリ]ボックスに、Oracle のインストールディレクトリを入力します。インストールプログラムが Oracle のホームディレクトリの場所を確定できる場合は、それがデフォルト値として提供されます。
- **6** [**次へ**]をクリックします。

タスク 11:Oracle ユーザーアカウントと新しい表領域を作成する。

89 ページの図7に、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成] ウィンドウが示されています。

- ▲ 表領域は autoextend を on にして作成されているため、表領域に現在十分な空 き領域がない場合、データの需要を満たすためにデータファイルが自動的に拡 張されます。したがって、物理ファイルシステムが 100% を超えないようにシス テムを監視してください。
 - 1 [データベースのサイズ]ボックスに、データベースのサイズを入力します。 デフォルト値は 1024MB で、最小サイズは 500MB です。

表領域は適切に領域を分散して作成されます。

- [データファイル(.dbf)フォルダ]ボックスに、データベースファイル(.dbf) が作成されるディレクトリを入力します。
- [データベースのサイズ]および[データファイル(.dbf)フォルダー]オプショ ンの値を変更する前に、[詳細]ボタンをクリックしてデータベースセグメント のデータファイルを変更するかどうかを決定してください。詳細は、123ペー ジの手順4を参照してください。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用 してデータベースセグメントを変更した後は、[データベースのサイズ](122 ページの手順1)および[データファイル(.dbf)フォルダ](123ページの手順2) オプションの値を変更しないでください。これらのオプションの値を一度設定す ると、リセットすることはできません。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスで 行った変更が上書きされてしまいます。インストールプログラムをキャンセルし て初めからやり直す以外に、これらのオプションをリセットする方法はありま せん。
 - 3 [OVPI データベースユーザー (dsi_dpipe) パスワード]ボックスで、 dsi_dpipe アカウントのパスワードを作成し、[パスワードの確認]ボック スにそのパスワードをもう一度入力します。

以下の規則に準拠した dsi_dpipe パスワードを作成してください。

- パスワードの長さは1文字以上 30 文字以下であること。
- アルファベット文字で始まるものであること。
- 有効な文字は、すべての英数字とアンダースコア(_)である。

このパスワードは大文字と小文字を区別しません。

- 4 必要に応じて、[**詳細**]をクリックすると、[OVPI 詳細設定]ダイアログボッ クスが表示されます。このダイアログボックスでは、以下を実行できます。
 - 表領域を構成するデータファイルの追加、変更、または削除。

表領域には次のものがあります。デフォルト、プロパティとプロパティ インデックス、アップロードとアップロードインデックス、レートおよ びレートインデックス、サマリーおよびサマリーインデックス、データ ベースオーバーフロー。詳細は、「デフォルトの表領域の変更」を参照 してください。

 特定の Oracle 構成パラメータの変更。詳細は、125 ページの「特定の Oracle 構成パラメータの変更」を参照してください。

デフォルトの表領域の変更

▲ [OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用してデータベースセグメントを変更した後は、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウの[データベースのサイズ](122ページの手順1)および[データファイルフォルダ](123ページの手順2)オプションの値を変更しないでください。これらのオプションの値を変更すると、リセットすることはできません。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを使用して行った変更が上書きされてしまいます。インストールプログラムをキャンセルして初めからやり直す以外に、これらのオプションをリセットする方法はありません。

表領域のサイズ設定ガイドラインについては、72ページの「表領域のサイズ設定のガイドライン」を参照してください。

表領域を変更するには、以下の手順に従います。

- a [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウの[**詳細**]をクリック して[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを開きます。
- b 変更する表領域に関連するタブを選択します。91ページの図8に、 [OVPI 詳細設定]ダイアログボックスの[プロパティ]タブが示されています。
- **c** [AUTOEXTEND のサイズ]ボックスに、拡張サイズを入力します。
- エクステントサイズに0を指定した場合、Oracleの自動拡張機能は 無効になります。
- d データファイルを追加するには、[追加]をクリックします。[データ ファイル]ダイアログボックス内の[データファイル名]ボックスに データファイル名、[サイズ(MB)]ボックスにデータファイルのサイズ を入力します。[OK]をクリックします。
- e データファイルを変更するには、データファイルを選択して[変更]を クリックします。[データファイル]ダイアログボックスで以下を実行し ます。データファイルの名前、サイズ、またはその両方を変更し、[OK] をクリックします。

- f データファイルを削除するには、データファイルを選択し[削除]をク リックします。
- 各表領域に対して少なくとも1つのデータファイルを作成する必要が あります。
- g すべての変更が完了したら、[OK] をクリックして [OVPI 詳細設定] ダ イアログボックスを閉じ、[Oracle ユーザーおよび表領域の作成] ウィ ンドウに戻ります。

特定の Oracle 構成パラメータの変更

これらのパラメータに対する HP 推奨値は、70 ページの表1を参照してく ださい。

Oracle 構成パラメータを変更するには、以下の手順に従います。

- a [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウの[**詳細**]をクリック して[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスを開きます。
- レ [パラメータ]タブを選択します。[パラメータ]タブには以下のオプションがあります。
 - SGA_MAX_SIZE。このパラメータは、Oracle データベースが利用 するメモリーの最大量を指定します。このメモリーは共有メモリー で、すべての Oracle サーバープロセスによって使用されます。
 - PGA_AGGREGATE_TARGET (M)。このパラメータは、インスタンスに関連付けられているすべてのサーバープロセスが使用できる、ターゲット集合 PGA メモリーを指定します。デフォルト値は 200Mです。
 - DB_FILE_MULTIBLOCK_READ_COUNT。このパラメータは、 順次スキャンの発生時に1回のI/O操作で読み取られる最大ブロッ ク数を指定することにより、テーブルスキャン時のI/Oを最小限に 抑えることができます。
 - WORKAREA_SIZE_POLICY。このパラメータは、作業領域のサイズ設定のためのポリシーを指定し、作業領域の調整モードを制御します。デフォルト値はAUTOです。この値にMANUALを指定しないことをお勧めします。

- DB_CACHE_SIZE。このパラメータは、一次ブロックサイズを持つ バッファのデフォルトバッファプールのサイズを指定します。デ フォルト値はTRUEです。FALSEに指定しないことをお勧めしま す。
- DB_32K_CACHE_SIZE。このパラメータは、32K バッファの キャッシュのサイズを指定します。
- PARALLEL_AUTOMATIC_TUNING。このパラメータは、Oracle が並列実行を制御するパラメータのデフォルト値を決定するかどう かを指定します。
- **c** [**適用**]をクリックして変更を有効にします。[Oracle ユーザーおよび表 領域の作成]ウィンドウに戻るには、[**OK**]をクリックします。
- 5 [Oracle ユーザーおよび表領域の作成]ウィンドウで[次へ]をクリックして インストールを続行します。
- **6** 128 ページのタスク 13 に進みます。

タスク 12:データベースの場所を確定し、接続する。

図2に、[OVPIデータベースユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウが示されています。

🍰 インストールウィザード	
OVPIデータベースユーザーを使用したOracle参照 Oracleデータベースを特定し、接続するために、次 い。	。 の情報を入力してくださ 「「」」の V e n t
サーバーの設定 OracleインスタンスID (SID): Oracleデータベースホスト: gunsling Oracle TCP/Pボート番号: 1521 Oracleホームディレクトリ: C:loraclelora92	1 - ザー設定 OVPIデータベースユーザー: <i>dsLdpipe</i> パスワード: 林林林林林林 林林林林林林
	<戻る 次へ⇒ キャンセル

図 2 [OVPI データベースユーザーを使用した Oracle 参照] ウィンドウ

1 [Oracle インスタンス ID (SID)] ボックスに Oracle インスタンス ID を入力 します。

Oracle 環境変数 ORACLE_SID が設定されている場合にのみデフォルト値 が表示されます。複数のデータベースインスタンスが実行されている場合が あるため、表示された SID が正しいことを確認してください。

- 2 [Oracle ホスト名] ボックスに Oracle がインストールされているシステムの ホスト名を入力します。
- **3** [Oracle TCP/IP ポート番号] ボックスに Oracle の TCP/IP ポートを入力します。
- 4 [パスワード]ボックスに、dsi_dpipeアカウントのパスワードを入力しま す。
- 5 [Oracle ホームディレクトリ]ボックスに、Oracle のインストールディレクトリを入力します。インストールプログラムが Oracle のホームディレクトリの場所を確定できる場合は、それがデフォルト値として提供されます。

- **6** [**次へ**]をクリックします。
- 7 [Oracle パラメータの確認]ボックスで、OVPIをサポートするパラメータ を変更したことを確認するよう要求されます。[はい]をクリックして続行し ます。

タスク 13:パフォーマンスマネージャをインストールする

95ページの図 **10** に [パフォーマンスマネージャの設定]ウィンドウが示されています。



収集が正常に動作するには、Poller Collection/Cache ディレクトリがあるディ スクパーティションの 5% プラス 512MB の空き領域が必要です。たとえば、 ディスクパーティションが 10GB の場合、1GB の空き領域が必要です。

以下の手順に従います。

1 必要があれば、[詳細]をクリックして[OVPI 詳細設定]ダイアログボック スを開き、ログファイルを格納するディレクトリを指定することができます。

ログファイルのディレクトリを指定するには、以下の手順に従います。

- **a** [ログディレクトリ]ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - ー ログファイルが常駐するディレクトリのパスを入力する。
 - [**参照**]をクリックして希望のディレクトリを探す。
 - デフォルトのパスを採用する。デフォルトパスにより、OVPIのインストールディレクトリの配下に log フォルダーが作成されます。
- インストールでは、OVPIをインストールしたディレクトリの下にロ グディレクトリが作成されます。特定のログファイルは、[ログディ レクトリ]ボックスで指定したディレクトリに関係なく、このログ ディレクトリで管理されます。
- **b** [**OK**] をクリックして変更を適用し、[パフォーマンスマネージャの設定] ウィンドウに戻ります。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - [次へ]をクリックして、キャッシュフォルダーのデフォルトの場所を採 用し、インストールを続行する。

- 完全修飾パスを入力し、[次へ]をクリックしてインストールを続行する。
- [参照]をクリックしてキャッシュフォルダーの場所にナビゲートし、 [次へ]をクリックしてインストールを続行します。
- 3 オペレーティングシステムによって以下のいずれかを実行します。
 - Windows: 130 ページのタスク 15 に進みます。
 - UNIX: タスク 14 に進みます。

タスク 14:UNIX システムのみ : オペレーティングシステムのアカウントを作成または変更 する

UNIX システムの場合、パフォーマンスマネージャコンポーネントには、 trendadm という名前のオペレーティングシステムアカウントおよびグループが 必要です。

このアカウントの目的は、OVPI が実行される環境を保存することです。この アカウントはオペレーティングシステムへのログオンのために使用するもので あり、Web アクセスサーバーアプリケーションへのログオンに使用する、134 ページのタスク8で作成する trendadm アカウントと混同しないでください。

このアカウントが存在しているかどうかによって、インストールのこの時点で表示されるウィンドウが異なります。

- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在しない場合は、 OS ユーザー作成用のウィンドウが開きます。129 ページの「オペレーティングシステムアカウントの作成」を参照してください。
- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在する場合は、既存の OS ユーザー用のウィンドウが開きます。130ページの「既存のオペレーティングシステムアカウントの変更」を参照してください。

オペレーティングシステムアカウントの作成

98ページの図 **11** に、[パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユーザー]ウィンドウが示されています。

1 [パスワード]ボックスで trendadm アカウントのパスワードを作成し、[パ スワードの確認]ボックスにもう一度そのパスワードを入力します。 デフォルトでは、パスワードは1文字以上でなければならず、最大長の制限 はありません。任意の文字を指定できますが、パスワードの作成については 会社のポリシーに従うことをお勧めします。

- **2** [次へ]をクリックします。
- **3** 130 ページのタスク 15 に進みます。

既存のオペレーティングシステムアカウントの変更

99ページの図 **12** に、[パフォーマンスマネージャ用のオペレーティングシステムユーザー]ウィンドウが示されています。

- 1 以下のいずれかをクリックします。
 - [ユーザー環境を変更する]。このオプションは、trendadmアカウントの .profile または.cshrcをOVPI環境変数(COLLECT_HOME、 DPIPE_HOME、DPIPE_TMP、およびTREND_LOG)で更新します。
 - [ユーザー環境を変更しない]。このオプションは、アカウントの .profile または .cshrc を OVPI 環境変数で更新しません。このオプ ションを選択した場合は、後から OVPI 環境変数を手作業で追加する必 要があります。
- **2** [**次へ**]をクリックします。

タスク 15:管理サーバーに関する情報を指定する。

- 1 [HTTP ポート] ボックスに管理サーバーがリスンするポートを入力します。
- **2** [次へ]をクリックします。

このウィンドウでは、システムのバックグラウンドで実行される管理サーバー を作成します。これにより、OVPIの管理コンソールアプリケーションを使用し て、OVPIのコンポーネントを管理することができます(管理コンソールの詳細 は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください)。また、管理サー バーによって、OVPI分散インストール内の各コンポーネントが相互に通信する ことも可能になります。

管理サーバーは、OVPI セットアッププログラムによって自動的に起動される サービスです。このサービスはサポートされているオペレーティングシステム 上で以下のように表されます。

Windows: OVPI HTTP Server

- Solaris: /etc/init.d/ovpi_httpd および /etc/rc3.d/ S99ovpi_httpd 起動スクリプト
- HP-UX: /sbin/init.d/ovpi_httpd および /sbin/rc3.d/ S99ovpi_httpd 起動スクリプト

タスク 16:Web アクセスサーバーに関する情報を指定する



Web アクセスサーバーをまだインストールしていない場合は、どこにインス トールするかを入力します。

- 1 [Web アクセスサーバーホスト] ボックスに Web アクセスサーバーの名前を 入力します。
- 2 [Web アクセスサーバーポート] ボックスに Web アクセスサーバーのポート 番号を入力します。
- 3 [次へ]をクリックして続行します。

タスク17:インストール情報を確認してインストールする

- 1 [概要]ウィンドウの内容を確認します(105ページの図14)。
- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- **3** [**インストール**]をクリックしてインストールを続行します。

[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールの進捗状況が表示 されます。

タスク 18:セットアッププログラムを終了する

以下のいずれかを実行します。

- OVPI のインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックします。
 - UNIX システムに OVPI をインストールした場合は、インストールは 完了です。
- OVPIのインストールが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、テクニカルサポートに連絡してください。

第5章

タスク 19:Windows システムのみ : システムをリブートする

OVPIを使用する前に、Windows システムをリブートする必要があります。

Web アクセスサーバーのインストール

この項では、Webアクセスサーバーコンポーネントに必要な準備とインストー ル手順について説明します。

インストールの準備

インストールプロセスを遅延なく進めるため、以下の情報がそろっていること を確認してください。

- OVPIのインストール先ディレクトリ
- 作成する必要のある Web アクセスサーバー管理者アカウントのユーザー名 とパスワード
- Web アクセスサーバーの HTTP ポート
- データベースホストおよびポート

コンポーネントのインストール

以下の手順に従って、Web アクセスサーバーコンポーネントをインストールします。

タスク 1: このコンポーネントをインストールする前に、データベースをインストールして 実行しておく。

このコンポーネントのインストール時に、データベースシステムからデータ ベース情報をダウンロードするために、データベースホストおよびポート番号 が要求されるからです。データベースがインストールされていなくてもインス トールを続行することはできますが、このコンポーネントのインストール後に 管理コンソールを使用してデータベースシステムを構成する必要があります。

詳細は、第3章「データベースのインストール」を参照してください。

タスク 2: セットアッププログラムを起動する

60ページの「セットアッププログラムの起動」を参照してください。

セットアッププログラムを起動すると、[セットアップ](62ページを参照)ウィンドウが開きます。

タスク 3: OVPI インストールオプションを選択する

ウィンドウの[インストール]セクションから[**OVPI 5.1.1**]を選択します。[ようこそ]ウィンドウが表示されます。

タスク 4: [ようこそ] ウィンドウを読む

[**次へ**]をクリックします。

タスク 5: 使用許諾条件を承諾または拒否する

[使用許諾条件]ウィンドウが開きます。

以下のいずれかを実行します。

• 使用許諾条件を拒否してインストールを中断する場合は、[**キャンセル**]をク リックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックすると、インストールプロセスが終了します。
- [いいえ]をクリックすると、[使用許諾条件]ウィンドウが再び表示されます。そこで[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックすると、インストールを続行できます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのインストールを続行するには、[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

タスク 6: インストールする OVPI コンポーネントを選択する。

[コンポーネントの選択]ウィンドウが表示されます。

1 [Web アクセスサーバー] チェックボックスをオンにし、その他すべての チェックボックスをオフにします。

コンポーネントの説明については、12 ページの「OVPI のコンポーネント」 を参照してください。

2 [次へ]をクリックします。

タスク 7: OVPI ソフトウェアのインストールディレクトリを指定する

このシステムにすでに別の OVPI コンポーネントをインストールしている場合は、[インストール先フォルダー]ウィンドウは表示されません。その場合は、134ページのタスク8に進んでください。

インストールディレクトリは、NFS マウントディレクトリ、UNIX ソフトリン ク、UNIX ハードリンク、Windows マップドライブのいずれでも構いません。



宛先フォルダーへのパスには、スペース(空白)を入れることはできません。

以下のいずれかを実行します。

- [次へ]をクリックしてデフォルトのインストール先フォルダーを採用し、 インストールを続行する。
- デフォルトとは異なる宛先ディレクトリを入力し、[次へ]をクリックして インストールを続行する。

指定したインストールディレクトリによって、以下のようになります。

- インストールディレクトリが存在しない場合は、セットアッププログラムに よって作成されます。
- インストールディレクトリがすでに存在していて、データが入っている場合は、そのディレクトリが空でないことを警告するメッセージが表示されます。
- セットアッププログラムがアクセスできないファイルシステム上のインストールディレクトリを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。有効なディレクトリを指定するまで、インストールは続行できません。

タスク 8: Web アクセスサーバーのポートを指定する

- 1 [ユーザー名]ボックスに、OVPI Web アクセスサーバー管理者のユーザー 名を入力します。ユーザー名はデフォルトでは trendadm です。
 - このアカウントはWebアクセスサーバーアプリケーションへのログ オンに使用します。Webアクセスサーバーのアカウントのデフォル ト名は trendadmですが、ここでこの名前を変更できます。

 [パスワード]ボックスにパスワードを入力して、OVPI Web アクセスサー バー管理者アカウントのパスワードを作成します。

インストールウィザードによる長さの制限(最小および最大)や、 ユーザー名およびパスワードに使用できる文字に関する制限はありま せんが、ユーザー名とパスワードを指定するよう要求されます。ユー ザー名およびパスワードの作成に関する会社のポリシーに準拠するこ とをお勧めします。

Web アクセスサーバーアプリケーションを使用して、OVPI のインストール 後にパスワード規則を変更することができます。詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

- **3** [パスワードの確認]ボックスに手順2で作成したパスワードを入力します。
- 4 デフォルト値を採用しない場合は、[HTTP ポート]ボックスにWebアクセスサーバーのポート番号(80)を入力します。開いているポートならどのポートでも使用できます。
- 5 必要に応じて、[**詳細**]をクリックして[OVPI 詳細設定]ダイアログボック スを開き、以下の処理が実行できます。
 - レポートディレクトリの場所の変更([ディレクトリ]タブ)。レポート ディレクトリには、配布されたすべてのレポートが保存されます。詳細 は、135ページの「レポートディレクトリの変更」を参照してください。
 - ユーザーアカウントの作成および削除([OVPI ユーザー]タブ)ユー ザーアカウントから、OVPIのクライアントアプリケーション(レポー トビューア、レポートビルダ、Webアクセスサーバー、および管理コン ソール)にログオンできます。詳細は、136ページの「ユーザーアカウ ントの作成および変更」を参照してください。
 - Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザ間の SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする ([SSL の設定] タブ)。詳細 は、137ページの「SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする」を 参照してください。
- 6 [次へ]をクリックしてインストールを続行します。

レポートディレクトリの変更

レポートディレクトリの場所を変更するには、[ディレクトリ]タブを使用 します。場所を変更するには、以下の手順に従います。

- a [OVPI 詳細設定] ダイアログボックスの[ディレクトリ] タブを選択し ます。
- **b** レポートディレクトリを変更するには、以下の*いずれか*を実行します。
 - [レポートディレクトリ]ボックスに新しいディレクトリの場所を入 力する。
 - [参照]をクリックしディレクトリを検索する。ディレクトリを探し、
 [開く]をクリックする。
- **c** [**適用**]をクリックして変更を有効にします。
- d [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウに戻り、 [次へ] をクリックしてインストールを続行します。

ユーザーアカウントの作成および変更

[OVPI ユーザー]タブを使用してユーザーアカウントを作成します。これら のアカウントは、OVPI クライアントアプリケーション(管理コンソール、 レポートビルダ、レポートビューア、および Web アクセスサーバー)への ログオンに使用されます。

通常のユーザーアカウントまたは管理者アカウントを作成できます。管理者 以外のアカウントを持つユーザーは、OVPI クライアントアプリケーション にアクセスできます。管理者アカウントを持つユーザーは、Web アクセス サーバーの管理機能([管理]リンク)を使用できます。詳細は、 『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

アカウントを作成および変更するには、以下の手順に従います。

- a [OVPI 詳細設定] ダイアログボックスの [OVPI ユーザー] タブを選択し ます。
- b ユーザーアカウントを追加するには、以下の手順に従います。
 - [ユーザーの追加]をクリックする。ユーザー名、パスワード、および ユーザーの役割について、新規ユーザーのデフォルト値が設定され たデフォルトユーザーが表示されます。
 - [ユーザー名]列の下にある新規ユーザーセルをダブルクリックし、 デフォルト値を削除して、使用するユーザー名を入力する。
 - [パスワード]列の下の新規ユーザーセルをダブルクリックし、デ フォルト値を削除して、使用するパスワードを入力する。

- [ロール]列の下のユーザーセルをクリックし、一覧から役割 (user または admin) を選択する。
- すべての変更が完了したら [**適用**]をクリックする。
- c ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従います。
 - ユーザー名を選択します。ユーザー名、パスワード、および役割を 含む行全体が選択されます。
 - [**ユーザーの削除**]をクリックします。
 - すべての変更が完了したら [**適用**]をクリックします。
- d [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウに戻り、 [次へ] をクリックしてインストールを続行します。

OVPI のインストール後に、Web アクセスサーバーを使用してユーザーアカ ウントを作成、変更または削除できます。詳細は、『*Performance Insight 管 理ガイド*』を参照してください。

SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にする

SSL を使用すると、Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラ ウザ、レポートビューア、レポートビルダおよび管理コンソール間の安全な 通信を実現できます

SSL を有効にするには、自己署名証明書を作成します。この証明書により SSL を有効にできますが、この自己署名証明書の有効期限は90日間です。 90日間の期限が切れる前に、この証明書を認証機関に送って署名入りデジ タル証明書を受け取るか、別の自己署名証明書を作成する必要があります。

署名入りデジタル証明書を受け取ったら、Web アクセスサーバーアプリ ケーションを使用してインポートする必要があります。また、Web アクセス サーバーを使用して、OVPI のインストール後に SSL の設定を変更するこ ともできます。詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してくだ さい。

SSL 通信を有効にして自己署名証明書を作成するには、以下の手順に従います。

a [OVPI 詳細設定]ダイアログボックスの[SSL の設定]タブを選択しま す。 **b** [SSL の有効化] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択しても、標準の HTTP リスナーは無効になり ません。したがって、安全な SSL ポートと安全の確保されていない HTTP ポートが両方とも有効になります。

- 以下のいずれかを実行します。
 - [SSL ポート]ボックスの値をそのままにする(デフォルト値は 443)。
 - [SSL ポート] ボックスの値を変更する。
- d [キーストア パスワード]ボックスに6文字以上のパスワードを入力し ます。
- パスワードを記録し安全な場所に保管しておきます。このパスワードは、署名証明書を作成するのに必要です。

自己署名証明書を作成すると、証明書リポジトリに保存されます。このパスワードにより、Webアクセスサーバーは証明書リポジトリに アクセスできます。

残りのフィールドは、証明書署名機関によって検証および署名される 必要のある、SSLキーを生成するのに必要な情報を要求します。この 情報は、証明書の有効性を確認するために、証明書のチェック担当者 が使用します。

- e [国コード]ボックスに2文字の国コードを入力します("JP" など)。
- f 以下の情報は省略可能です。
 - [組織]。自分が所属する組織名を入力します("ABC システム株式会社"など)。
 - [組織単位]。所属部署の名称を入力します("営業部"など)。
 - [市町村]。所在地の市町村名を入力します ("Suginami-ku" など)。
 - [州 / 都道府県]。都道府県名を入力します ("Tokyo" など)。
- g [適用]をクリックして変更を有効にします。
- h [OK]をクリックして [Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウに戻り、 [次へ] をクリックしてインストールを続行します。

タスク 9: データベースに関する情報を指定する。

図3に、[リモートデータベースの設定]ウィンドウを示します。

≜ インストールウィザード		
リモート管理サーバーの設定 リモートのOVPI管理サーバーを特定し、接続する てください。	うために必要な情報を入力し	
リモートデータベースの接続情報は、リモートのO じてダウンロードされます	VPIシステムを稼動している	管理サーバーを通
リモート管理サーバーホスト: リモート管理サーバーボート: 80	-	
	<戻る 次へ >	キャンセル

図3 [リモートデータベースの設定]ウィンドウ

- [リモートデータベースのホスト]ボックスにデータベースホストの名前を 入力します。
- 2 [リモート管理サーバーのポート]ボックスにデータベースホストのポート 番号を入力します。
- 3 [次へ]をクリックします。



システムがデータベースに接続してデータベース情報を取得できない場合は、 警告メッセージが表示されます。

インストールを続行するには、データベース (Sybase または Oracle) と OVPI データベースが実行されている必要があります。Oracle を使用している場合は、 Oracle Listener プログラムも実行しておく必要があります。

[キャンセル]をクリックしてデータベース情報を再入力するか、[OK]をクリックしてインストールを続行します。インストールを続行する場合は、インストール後に管理コンソールを使用してデータベース接続を設定する必要があります。

タスク10:インストール情報を確認してインストールする

1 [概要]ウィンドウの内容を確認します。

- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- **3** [**インストール**]をクリックしてインストールを続行します。

[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールの進捗状況が表示 されます。

タスク 11:セットアッププログラムを終了する。

以下のいずれかを実行します。

- OVPI のインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックします。
 - UNIX システムに OVPI をインストールした場合は、インストールは 完了です。
- OVPIのインストールが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、テクニカルサポートに連絡してください。

タスク 12:Windows システムのみ : システムをリブートする

OVPIを使用する前に、Windows システムをリブートする必要があります。

Web アクセスサーバーをインストールしたシステムにハードウェア障害が発生した場合、Web アクセスサーバーを新しいシステムに再インストールし、 OVPI データベースがインストールされているシステムから deploytool コマンドを実行して、Web アクセスサーバーにレポートを再配布してください。 deploytool コマンドの詳細については、『Performance Insight Reference Guide』を参照してください。

クライアントコンポーネントのインストール

この項では、クライアントコンポーネントに必要な準備とインストール手順に ついて説明します。クライアントは OVPI へのインタフェースを提供します。任 意のネットワークシステムにクライアントをインストールできます。OVPI クラ イアントの詳細は、14 ページの「OVPI クライアント」を参照してください。

管理コンソールの全機能を有効にするには、パフォーマンスマネージャをイン ストールする必要があります。クライアントのみのインストールをした場合は、 通常の OVPI 全体のインストールをしたあとに管理コンソールの[ツール]メ ニューから使用できる以下のアプリケーションが、使用できません。データ ベースチューナー、MIB ブラウザ、SNMP 検出、タイプ検出、およびパッケー ジマネージャ。さらに、新しいデータテーブルまたはプロパティテーブルを登録 することも、収集データをデータベースに自動的に追加することもできません。

インストールの準備

インストールプロセスを遅延なく進めるため、以下の情報がそろっていること を確認してください。

- OVPIのインストール先ディレクトリ
- 作成する必要のある Web アクセスサーバー管理者アカウントのユーザー名 とパスワード
- Web アクセスサーバーの常駐先のポート番号

クライアントをインストールすると、いくつかのアプリケーションがインス トールされます。これらのアプリケーションの一覧は、14 ページの「OVPI ク ライアント」を参照してください。

コンポーネントのインストール

以下の手順に従って、OVPI クライアントコンポーネントをインストールしま す。

タスク1:セットアッププログラムを起動する

60ページの「セットアッププログラムの起動」を参照してください。

セットアッププログラムを起動すると、[セットアップ](62ページを参照)ウィンドウが開きます。

タスク 2: OVPI インストールオプションを選択する。

[セットアップ]ウィンドウの[インストール]セクションから[**OVPI 5.1.1**]を選 択します。[ようこそ]ウィンドウが表示されます。

タスク3:[ようこそ]ウィンドウを読む

[次へ]をクリックしてインストールを続行します。[使用許諾条件]ウィンドウ が開きます。

タスク4:使用許諾条件を承諾または拒否する。

以下のいずれかを実行します。

 使用許諾条件を拒否してインストールを中断する場合は、[キャンセル]をク リックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックすると、インストールプロセスが終了します。
- [いいえ]をクリックすると、[使用許諾条件]ウィンドウが再び表示されます。そこで[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックすると、インストールを続行できます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのインストールを続行するには、[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

[コンポーネントの選択]ウィンドウが表示されます。

タスク 5: インストールする OVPI コンポーネントを選択する。

1 [OVPI クライアント] チェックボックスをオンにし、その他すべてのチェック ボックスをオフにします。

コンポーネントの説明については、12 ページの「OVPI のコンポーネント」 を参照してください。

2 [次へ]をクリックします。

[インストール先フォルダー]ウィンドウが開きます。

タスク 6: OVPI ソフトウェアのインストールディレクトリを指定する

このシステムにすでに別の OVPI コンポーネントをインストールしている場合は、[インストール先フォルダー]ウィンドウは表示されません。その場合は、タスク7に進んでください。

インストールディレクトリは、NFS マウントディレクトリ、UNIX ソフトリン ク、UNIX ハードリンク、Windows マップドライブのいずれでも構いません。

宛先フォルダーへのパスには、スペース(空白)を入れることはできません。

以下のいずれかを実行します。

- [次へ]をクリックしてデフォルトのインストール先フォルダーを採用し、 インストールを続行する。
- デフォルトとは異なる宛先ディレクトリを入力し、[次へ]をクリックして インストールを続行する。

指定したインストールディレクトリによって、以下のようになります。

- インストールディレクトリが存在しない場合は、セットアッププログラムに よって作成されます。
- インストールディレクトリがすでに存在していて、データが入っている場合は、そのディレクトリが空でないことを警告するメッセージが表示されます。
- セットアッププログラムがアクセスできないファイルシステム上のインストールディレクトリを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。有効なディレクトリを指定するまで、インストールは続行できません。

[リモートの Web アクセスサーバーの設定] ウィンドウが開きます。

タスク7: Web アクセスサーバーにアクセスするのに必要な情報を指定する。

以下の手順に従います。

- [Web アクセスサーバーホスト]ボックスに Web アクセスサーバーの名前を 入力します。
- [Web アクセスサーバーポート]ボックスにWeb アクセスサーバーのポート 番号を入力します。
- **3** [**次へ**]をクリックします。

タスク 8: インストール情報を確認してインストールする

- 1 [概要]ウィンドウの内容を確認します。
- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- **3** [**インストール**]をクリックしてインストールを続行します。

[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールの進捗状況が表示されます。

タスク 9: セットアッププログラムを終了する。

以下のいずれかを実行します。

- OVPIのインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックします。
 - UNIX システムに OVPI をインストールした場合は、インストールは 完了です。
- OVPIのインストールが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、テクニカルサポートに連絡してください。

タスク 10:Windows システムのみ : システムをリブートする

OVPI を使用する前に、Windows システムをリブートする必要があります。

リモートポーラーコンポーネントのインストール

この項では、リモートポーラーコンポーネントに必要な準備とインストール手順について説明します。

リモートポーラーはコマンド行から実行可能なデータベースクライアントです。 インストール時に、リモートポーラーは、現在 OVPI データベースを管理して いるシステムを除くすべてのシステムにすべてのポーリングバイナリをインス トールします。



パフォーマンスマネージャをすでにインストールしている場合は、リモート ポーラーをインストールする必要はありません。リモートポーラーはパフォーマ ンスマネージャのサブセットです。
インストールの準備

インストールプロセスを遅延なく進めるため、以下の情報がそろっていること を確認してください。

- リポートポーラーをインストールするディレクトリ
- データベースホスト
- データベースホストの番号
- ポーラーおよびデータ収集で使用するキャッシュディレクトリ
- UNIX システムのみ:アカウントが存在していない場合は、オペレーティン グシステムアカウント(trendadm)のパスワードを選択します。

コンポーネントのインストール

以下の手順に従って、リモートポーラーコンポーネントをインストールします。

タスク 1: データベースがインストールされていて、動作中であることを確認する

詳細は、第3章「データベースのインストール」を参照してください。

タスク 2: セットアッププログラムを起動する

60ページの「セットアッププログラムの起動」を参照してください。

セットアッププログラムを起動すると、[セットアップ](62ページを参照)ウィンドウが開きます。

タスク 3: OVPI インストールオプションを選択する

[セットアップ]ウィンドウの[インストール]セクションから[**リモートポー ラー**]を選択します。

タスク 4: [ようこそ] ウィンドウを読む。

[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

[**次へ**]をクリックしてインストールを続行します。

タスク 5: 使用許諾条件を承諾または拒否する。

[使用許諾条件]ウィンドウが開きます。

以下のいずれかを実行します。

• 使用許諾条件を拒否してインストールを中断する場合は、[**キャンセル**]をク リックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックすると、インストールプロセスが終了します。
- [いいえ]をクリックすると、[使用許諾条件]ウィンドウが再び表示されます。そこで[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックすると、インストールを続行できます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのインストールを続行するには、[使用許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

タスク 6: OVPI ソフトウェアのインストールディレクトリを指定する。

このシステムにすでに別の OVPI コンポーネントをインストールしている場合は、[インストール先フォルダー]ウィンドウは表示されません。その場合は、タスク7に進んでください。

インストールディレクトリは、NFS マウントディレクトリ、UNIX ソフトリン ク、UNIX ハードリンク、Windows マップドライブのいずれでも構いません。

▲ 宛先フォルダーへのパスには、スペース(空白)を入れることはできません。

以下のいずれかを実行します。

- [次へ]をクリックしてデフォルトのインストール先フォルダーを採用し、 インストールを続行する。
- デフォルトとは異なる宛先ディレクトリを入力し、[次へ]をクリックして インストールを続行する。

指定したインストールディレクトリによって、以下のようになります。

- インストールディレクトリが存在しない場合は、セットアッププログラムに よって作成されます。
- インストールディレクトリがすでに存在していて、データが入っている場合は、そのディレクトリが空でないことを警告するメッセージが表示されます。

セットアッププログラムがアクセスできないファイルシステム上のインストールディレクトリを指定した場合は、警告メッセージが表示されます。有効なディレクトリを指定するまで、インストールは続行できません。

[リモートデータベースの設定]ウィンドウが表示されます。

タスク7:データベースに関する情報を指定する。

139ページの図3に、[リモートデータベースの設定]ウィンドウが示されています。

- 1 [リモートデータベースのホスト]ボックスにデータベースホストの名前を 入力します。
- 2 [リモート管理サーバーのポート]ボックスにデータベースホストのポート 番号を入力します。
- **3** [**次へ**]をクリックします。
- システムがデータベースに接続してデータベース情報を取得できない場合は、
 警告メッセージが表示されます。インストールを続行する前に、データベース
 (Sybase または Oracle) と OVPI データベースを実行しておくことをお勧めします。[キャンセル]をクリックしてデータベース情報を再入力するか、[OK]をクリックしてインストールを続行します。インストールを続行する場合は、インストール後に管理コンソールを使用してデータベース接続を設定する必要があります。詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

[パフォーマンスマネージャの設定]ウィンドウが表示されます。

タスク 8: ポーリングの収集を設定する。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [次へ]をクリックしてキャッシュフォルダーのデフォルトの場所を採用し、インストールプロセスを続行する。
 - [参照]をクリックしてキャッシュフォルダーの別の場所を選択し、[次
 へ]をクリックしてインストールプロセスを続行する。
 - 収集が正常に動作するには、ポーラーおよびデータ収集で使用する キャッシュディレクトリがあるディスクパーティションの 5% の空き 領域に加えて、さらに 512MB の空き領域が必要です。たとえば、 ディスクパーティションが 10GB の場合、1GB の空き領域が必要で す。

2 必要に応じて、[詳細]をクリックして[OVPI 詳細設定]ダイアログボック スを開き、リモートポーラーのログファイルが常駐するディレクトリを指定 することができます。

ログファイルのディレクトリを指定するには、以下の手順に従います。

- a [パフォーマンスマネージャの設定]ウィンドウで[**詳細**]をクリックし ます。[OVPI 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。
- b [ログディレクトリ]ボックスにログファイルが常駐するディレクトリ パスを入力するか、[参照]をクリックして希望のディレクトリを確定す るか、またはデフォルトのパスを採用します。
- インストールでは、OVPIをインストールしたディレクトリの下にロ グディレクトリが作成されます。特定のログファイルは、[ログディ レクトリ]ボックスで指定したディレクトリに関係なく、このログ ディレクトリで管理されます。
- **c** [OK] をクリックして[パフォーマンスマネージャの設定] ウィンドウに 戻ります。
- **d** [**次へ**]をクリックします。
- 3 オペレーティングシステムによって以下のいずれかを実行します。
 - UNIX: タスク9に進みます。
 - Windows: 149 ページのタスク 10 に進みます。

タスク 9: UNIX システムのみ : オペレーティングシステムのアカウントを作成または変更 する。

UNIX システムの場合、パフォーマンスマネージャコンポーネントには、 trendadm という名前のオペレーティングシステムアカウントおよびグループが 必要です。

このアカウントの目的は、OVPI が実行される環境を保存することです。この アカウントはオペレーティングシステムへのログオンのために使用するもので あり、Web アクセスサーバーアプリケーションへのログオンに使用する、134 ページのタスク8で作成する trendadm アカウントと混同しないでください。

このアカウントが存在しているかどうかによって、インストールのこの時点で 表示されるウィンドウが異なります。

- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在しない場合は、 OS ユーザー作成用のウィンドウが開きます。149 ページの「オペレーティ ングシステムアカウントの作成」を参照してください。
- オペレーティングシステムアカウントおよびグループが存在する場合は、既存の OS ユーザー用のウィンドウが開きます。149ページの「既存のオペレーティングシステムアカウントの変更」を参照してください。

オペレーティングシステムアカウントの作成

 [パスワード]ボックスで trendadm アカウントのパスワードを作成し、[パ スワードの確認]ボックスにもう一度そのパスワードを入力します。

デフォルトでは、パスワードは1文字以上でなければならず、最大長の制限 はありません。任意の文字を指定できますが、パスワードの作成については 会社のポリシーに従うことをお勧めします。

- **2** [次へ]をクリックします。
- **3** 149 ページのタスク 10 に進みます。

既存のオペレーティングシステムアカウントの変更

- 1 以下のいずれかをクリックします。
 - [ユーザー環境を変更する]。このオプションは、trendadm アカウントの .profile または .cshrc を OVPI 環境変数 (COLLECT_HOME、 DPIPE_HOME、DPIPE_TMP、および TREND_LOG) で更新します。
 - [ユーザー環境を変更しない]。このオプションは、アカウントの .profile または .cshrc を OVPI 環境変数で更新しません。このオプ ションを選択した場合は、後から OVPI 環境変数を手作業で追加する必 要があります。
- **2** [次へ]をクリックします。

タスク10:インストール情報を確認してインストールする。

1 [概要]ウィンドウ(図4)の内容を確認します。

≜ インストールウィザード	
縦要 以下に示すすべての設定を確認してください。問題なければ [インストール] をクリックして Service Pack のインストールを開始してください。	
<u>ディスク容量</u> ファイルシステム: CA 必要な容量: 358 MB 使用可能な容量: 15,384 MB	<u> </u>
<u>インストールディレクトリ</u> OVPI ホーム: C:\OVPI	
<u>リモートデータベースのオブション</u> ホスト・cc	T
< 戻る インストール	キャンセル

図4 [概要]ウィンドウ

- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- **3** [**インストール**]をクリックしてインストールを続行します。

[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールの進捗状況が表示されます。

タスク 11:セットアッププログラムを終了する。

以下のいずれかを実行します。

- OVPI のインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックします。
 - UNIX システムに OVPI をインストールした場合は、インストールは 完了です。
- OVPIのインストールが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、テクニカルサポートに連絡してください。

タスク 12:Windows システムのみ : システムをリブートする。

OVPIを使用する前に、Windows システムをリブートする必要があります。



複数ポーラー用 trendtimer.sched ファイルの編集

複数ポーラーを使用する場合は、trendtimer.schedファイルを編集し、 mw_collect コマンドに-X オプションを追加することをお勧めします。このよう にすると、ポーラーは trendpm コマンドによって起動される、raw から delta への変換処理を実行しません。この編集を行わない場合、パフォーマンス上の問 題が起こる可能性があります。

1つを*除き、*すべてのポーラーのファイルを編集する必要があります。たとえば、3つのリモートポーラーでポーリングを実行しているサテライトシステムがある場合(つまり OVPI のパフォーマンスマネージャコンポーネントがこのシステムにインストールされている場合)、サテライトシステムのファイルだけはそのままにして、すべてのポーラーのファイルを編集します。サテライトシステムがポーリングを行っていない場合は、2つのポーラーのうち1つのファイルを編集し、もう1つはそのままにしておきます。

raw から delta への変換処理をオフにするには、以下の手順に従います。

- 1 trendtimer.schedファイルを編集します。
- 2 ファイルのすべての mw_collect 行に -x オプションを追加します。

たとえば、ファイルの該当行が以下のとおりであると仮定します。

5 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 5 -K 1 10 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 10 -K 1 15 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 15 -K 1 20 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 20 -K 1 60 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 60 -K 1 24:00+1:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 1440 -K 1 以下のように行を編集します。

- 5 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 5 -K 1 -X
- 10 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 10 -K 1 -X
- 15 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 15 -K 1 -X
- 20 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 20 -K 1 -X
- 60 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 60 -K 1 -X
- 24:00+1:00 - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect -n -i 1440 -K 1 -X
- 3 ファイルを保存します。

文書のインストール

OVPI をインストールした後で、文書をインストールします。OVPI の文書は、 PDF(Portable Document Format) 形式で利用可能です。PDF を見るには Adobe Acrobat Reader を使用します。



文書をインストールしないと、OVPIのオンラインヘルプが使用できません。

文書は、OVPI をインストールしたディレクトリの下の docs フォルダ内にイン ストールされます。たとえば Windows システムでは、以下の場所から文書を利 用することができます。

ここでは、*installation_directory* は OVPI のインストール先ディレクトリです。

UNIX でのインストール

UNIX での文書のインストール方法は次のとおりです。

- **1** root としてログオンします。
- 2 文書 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユーザーの場合は、挿入した CD をマウントします。

表1に、各UNIX プラットフォームでのCDのマウント方法を示します。

表 1 UNIX での OVPICD のマウント

オペレーティング システム	コマンド
Sun Solaris	CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、CD は自動的にマ ウントされます。CD-ROM が自動的にマウントされると、 ファイルマネージャウィンドウが開きます。ウィンドウが 開かれない場合は、 root として次のように入力します。
	mkdir /cdrom mount -r /dev/dsk/ <i>cd_devicename</i> /cdrom
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。
HP-UX	SAM ユーティリティを使用して CD-ROM をマウントする か、 <i>または</i> 次のコマンドを入力します。 mkdir /cdrom mount /dev/dsk/cd_devicename /cdrom
	このインスタンスで、 cd_devicename は CD-ROM デバ イスの名前です。

- 3 Solaris システムの場合のみ:以下の手順を実行します。
 - a cd_labelを表示するには、次のコマンドを入力します。

ls -1 /cdrom

b ディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。

cd /cdrom/cd_label

この場合で、*cd_label*は CD 名です。

4 セットアッププログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動します。./setup

[ようこそ]ページが開きます。

5 インストールウィザードの指示に従います。

Windows でのインストール

Windows での文書のインストール方法は次のとおりです。

- 1 適切な管理者権限をもっていることを確認してください。
- **2** 文書 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

OVPI 文書 CD を挿入すると、自動的にインストールプログラムが起動しま す。自動的に起動しない場合は、CD の最上位のフォルダーから setup.exe をダブルクリックします。

[ようこそ]ページが開きます。

3 インストールウィザードの指示に従います。

サービスパックの適用

このリリースのサービスパックを適用する必要があります。このリリースのサービスパックの場所を確認するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/cpe/ovpi/patch_ovpi.jsp(英語)

インストール後の設定作業

OVPI のインストール完了後に OVPI を構成する方法、および実行する必要のあ る管理タスクについては、『*Performance Insight 管理ガイド*』を参照してくだ さい。

6

OVPI のアンインストール

本章では、HP OpenView Performance Insight (OVPI)の、Windows システム および UNIX システムからのアンインストールの方法について説明します。

OVPIをアンインストールする場合、先に **OVPI**をアンインストールしてから、 次にデータベースをアンインストールしてください。

Oracle データベースのアンインストールの詳細は、**Oracle** のマニュアルを参照 してください。



アンインストールウィザードの起動方法以外は、Windows システムと UNIX シ ステムの OVPI のアンインストール手順は同じです。

アンインストールウィザードの起動

アンインストールウィザードは、OVPI インストール時にシステムに追加された ファイル (OVPI コンポーネントなど)を削除します。ユーザーあるいはアプリ ケーションによって生成または作成されたファイル (たとえばログファイルやレ ポート)は削除されません。OVPI のアンインストール手順では、ローカルシス テムからすべての OVPI コンポーネントが削除されます。 Windows 上および UNIX 上の OVPI をアンインストールするには、以下の手順 に従います。

タスク1:アンインストールウィザードを起動する。

オペレーティングシステムによって以下のいずれかを実行します。

- Windows の場合:
 - ― 管理者権限を持つユーザーとしてローカルシステムにログオンします。
 - Windows のデスクトップから [スタート]をクリックし、[すべてのプロ グラム]、[HP OpenView]、[Performance Insight]の順に選択し、[ア ンインストール]をクリックします。
- UNIX の場合:
 - ローカルシステムに root としてログオンします。
 - uninstall プログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動します。

%DPIPE_HOME/bin/uninstall

\$DPIPE_HOME は OVPI をインストールしたディレクトリです。

[ようこそ]ウィンドウが表示されます。

≜ アンインストールウィザード	
ようこそ これはHP OpenView Performance Insightのアンインストーラです。	
HP OpenView Performance Insight 5.1	
このウィザードでは、Open View Performance Insightをシステムからアンイ に必要な手順を実行します。	ンストールするため
© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.	
< 戻る 次へ >	キャンセル

タスク 2: [ようこそ] ウィンドウを読む。

[次へ]をクリックしてアンインストールを続行します。

以下のどちらかになります。

- OVPIをアンインストールしようとするシステムにデータベーススキーマが インストールされている場合は、タスク3に進みます。
- OVPIをアンインストールしようとするシステムにデータベーススキーマが インストールされていない場合は、タスク4に進みます。

タスク 3: ローカル Sybase データベースのみ: Sybase 管理者パスワードを入力する

畿 Uninstall Wizard	
Sybase Administrator Password Type the Sybase Administrator password. This information is used only to log on to the Sybase Adaptive Server and is not retained.	
Sybase Administrator (SA) Password:	
Click Next to continue	
< Back	Cancel

以下のいずれかを実行します。

- Sybase 管理者パスワードを設定している場合は、[Sybase 管理者 (SA) パス ワード]ボックスにパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。
- Sybase 管理者パスワードを設定していない場合は、[Sybase 管理者 (SA) パ スワード]ボックスを空白のままにし、[次へ]をクリックします。

タスク4:情報を確認してアンインストールする。

[概要]ウィンドウが表示されます。

1 [概要]ウィンドウの内容を確認します。

- 2 必要があれば、[戻る]をクリックして前のウィンドウに戻り、変更します。 変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ウィンドウまで戻ります。
- **3** [**アンインストール**]をクリックして続行します。

タスク 5: セットアッププログラムを終了する。

[アンインストールの進捗状況]ウィンドウが開き、アンインストールの進捗状況が表示されます。

以下のいずれかを実行します。

- OVPIのアンインストールが正常に終了した場合は、[完了]をクリックしま す。
- OVPIのアンインストールが正常に終了しなかった場合は、[アンインストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、サポートに連絡してください。

タスク 6: Windows システムのみ: システムをリブートする

アンインストールを完了するには、Windows システムをリブートする必要があ ります。

タスク 7: OVPI がインストールされたディレクトリと .ovpi ディレクトリを手作業で削除 します。

アンインストールウィザードは、インストールウィザードによってインストー ルされたファイルのみを削除します。たとえば、インストールしたレポート パックに対して配布したレポートのすべてが削除されるわけではありません。 したがって、OVPIを再インストールする際の潜在的な問題を回避するため、以 下を削除することをお勧めします。

- OVPIのインストール先ディレクトリ
 - ▲ 保存しておく必要のあるレポートやデータがこのデイレクトリの中に ある場合は、ディレクトリを削除する前にそれらのファイルを別の場 所に移動しておいてください。

- ユーザーのカスタム設定を保存している .ovpi ディレクトリ
 - このディレクトリは、レポートビルダ、レポートビューア、Webア クセスサーバーのいずれかのアプリケーションを実行した場合にのみ 存在します。

.ovpi ディレクトリは隠しファイルであるため、削除するにはファイルシス テムから見えるようにする必要があります。UNIX システムでは、このディ レクトリは UNIX ホームディレクトリにあります。Windows システムで は、以下の場所にあります。

%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*username*

ユーザーの.ovpi ディレクトリを削除する必要があります。

OVPI および .ovpi ディレクトリの削除

UNIX システムでこれらのディレクトリを削除するには、以下の手順に従います。

- アプリケーションがインストールされているシステムで新しいシェルウィン ドウを開きます。
- 2 OVPI がインストールされているディレクトリを削除するには、次のコマンドを入力します。

rm -rf OVPI_directory

たとえば、/data ディレクトリに OVPI をインストールした場合は、次のコ マンドを入力します。

rm-rf/data/ovpi

3.ovpi ディレクトリを削除するには、ホームディレクトリから次のコマン ドを入力します。

rm-rf.ovpi

Windows システムでこれらのディレクトリを削除するには、以下の手順に従い ます。

- OVPI がインストールされているディレクトリを削除するには、以下のいず れかを実行します。
 - Windows エクスプローラの場合、ディレクトリを検索し、右クリックし[削除]を選択します。

- コマンド プロンプト ウィンドウの場合、次のコマンドを入力します。
 rmdir /S OVPI_installation_directory
- 2 .ovpi ディレクトリを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - Windows エクスプローラの場合、以下の場所に移動します。
 %SystemDrive%¥Documents and Settings¥username
 .ovpi ディレクトリを右クリックし、[削除]を選択します。
 - コマンド プロンプト ウィンドウの場合、次のコマンドを入力します。

rmdir /S .ovpi

7

OVPI のアップグレード

この章ではアップグレードに関する情報を説明します。

• OVPI 5.0 から OVPI 5.1.1 へのアップグレード

アップグレードでは、Oracle データベースのみサポートされます。

- OVPI で使用されるレポートパック
- リモートポーラー

この章ではシステムソフトウェアの要件、事前の作業、アップグレードを実施す る手順、アップグレード後の作業について説明します。



アップグレードの前に十分な時間をとり、不適切なファイルを検出および修正 する時間を設けてください。

システムの要件

この項では、OVPI 5.1.1 にアップグレードする前にシステムのソフトウェア要件について説明します。

サポートされている OVPI のバージョン

OVPI リリース 5.1.1 にアップグレードするには、OVPI リリース 5.0 GA(サービスパックの有無に関わらず) がインストールされている必要があります。

これより古いバージョンの OVPI を実行している場合、バージョン 5.1.1 にアッ プグレードする前に、サポートされているバージョンにアップグレードする必 要があります。古いバージョンからのアップグレードについては、サポートにお 問い合わせください。

アップグレード用メディア

アップグレードするには以下のメディアが必要です。

- **OVPI 5.1.1** インストール **CD-ROM**
- RNS 製品配布版 CD-ROM

オペレーティングシステム要件

OVPI バージョン 5.1.1 にアップグレードするには、以下のいずれかのオペレー ティングシステムを使用する必要があります。

- HP-UX 11.11
- Sun Solaris 8, 9
- MS Windows 2000 Service Pack 4
- MS Windows 2003
- MS Windows XP(クライアントのみ)

別のオペレーティングシステムを実行している場合、アップグレードする前に、 サポートされているオペレーティングシステムにアップグレードする必要があ ります。

オペレーティングシステム別 Java パッチ要件

OVPI 5.1.1 には Java 1.4.2_02 が搭載されています。Java はアップグレード時 にシステムに自動的にロードされ、OVPI でインストールされた以前のバージョ ンの Java は置き換えられます。



オペレーティングシステムに必要な適切な Java パッチをインストールする必要 があります。それらのパッチの詳細は、34 ページの「Java の実行で必要な パッチ」を参照してください。

データベースのバージョン要件

Oracle Enterprise Edition 9.2.0.5 が必要です。Oracle 9.2.0.4 をインストールしている OVPI 5.0 ユーザーは、Oracle Enterprise Edition 9.2.0.5 にアップグレードする必要があります。正しいアップグレード順序は、まず OVPI を 5.1.1 にアップグレードし、Oracle 9.2.0.5 パッチを適用します。次にすべての OVPI サービスを起動します。

事前に必要な作業のチェックリスト

アップグレードを開始する前に、以下の事前作業を実行します。

- 1 システムが 161 ページの「システムの要件」に記載されているすべての要件 を満たしていることを確認します。
- 2 『Performance Insight リリースノート』を読みます。このドキュメントは、 OVPI バージョン 5.1.1 のリリースでの変更点の概要を説明しています。
- 3 すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
- 4 Windows システムの場合のみ、すべてのウィンドウおよびサードパーティアプリケーションが終了していることを確認します。

- 5 UNIX システムの場合のみ、DISPLAY 環境変数が設定されていることを確認 します。カスタムレポートパックまたはスクリプトが格納されているディレ クトリへの(および \$DPIPE_HOME ディレクトリへの)読み取りパー ミッションがあることを確認します。
- 6 データベースにアクセスするすべてのリモート OVPI プロセスが停止していることを確認します。たとえば、アップグレードするシステムに Web アクセスサーバーがインストールされている場合、データベーススキーマをアップグレードする前にこのサーバーをシャットダウンする必要があります。
- 7 OVPI 5.1.1 へのアップグレードプロセスでは、環境のカスタマイズは保存 されません。作成したカスタムレポートは失われませんが、HP 提供のレ ポートパックに加えた変更はすべて失われます。カスタム変更を再作成およ び再適用するのに必要な情報が残っていることを確認してください。
- 8 以下の作業を行ってシステムのバックアップを作成してください。
 - a OVPIのすべてのファイルと、現在のバージョンの OVPIの、バック アップを作成します。
 - **b** データベースのバックアップを作成します。

▲ アップグレード手順ではバックアウトが機能しないため、アップグ レードプロセスを再度実行することはできません。問題が発生した場 合、バックアップファイルからシステムを復元する必要があります。 詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

- 9 アップグレードウィザードを実行する前に、OVPI Timer と OVPI HTTP Server プロセスが停止しており、OVPI に関連するすべてのプロセスが完了 していることを確認してください。165 ページの「OVPI Timer と OVPI HTTP Server の停止」を参照してください。
- **10** OpenView Operations Agent が実行中である場合は、それを停止させます。 165 ページの「OpenView Operations Agent の停止」を参照してください。
- 11 データベースが実行中であることを確認します。166 ページの「データベー スの実行」を参照してください。

OVPI Timer と OVPI HTTP Server の停止

アップグレードを実行する前に、OVPI Timer と OVPI HTTP Server プロセス が停止しており、OVPI に関連するすべてのプロセスが完了していることを確認 するには、以下の手順に従います。

• Windows

[サービス]ウィンドウから OVPI Timer を右クリックし、メニューから[停止]を選択します。

[サービス]ウィンドウから OVPI HTTP Server を右クリックし、メニューから[**停止**]を選択します。

• HP-UX

以下のコマンドを入力します。

/sbin/init.d/ovpi_timer stop

/sbin/init.d/ovpi_httpd stop

Solaris

以下のコマンドを入力します。

/etc/init.d/ovpi_timer stop

/etc/init.d/ovpi_httpd stop

OpenView Operations Agent の停止

OpenView Operations Agent が OVPI システムにインストールされ稼動中である場合、アップグレードする前に停止させる必要があります。



OVO Agent を停止させないでアップグレードを実行すると、共有ファイルを アップグレードしようとする際にアップグレードが失敗し、システムが回復不 可能な状態になる可能性があります。

OpenView Operations Agent を停止させるには、以下のいずれかを実行します。

Windows

- a コントロールパネルウィンドウから、[管理ツール]ウィンドウ、[サービ ス]ウィンドウの順に開きます。
- b [HP ITO Agent]を右クリックし、メニューから[停止]を選択します。
- **c** [HP ITO Agent] を右クリックし、メニューから [プロパティ] を選択しま す。
- d [スタートアップの種類]リストから[無効]を選択します。

このサービスは、OVPIのアップグレードが終了するまで無効にしておきま す。アップグレードの終了後、[スタートアップの種類]を[自動]に変更し ます。

• UNIX

OVO Agent のステータスを確認し、停止させます。コマンド行に以下のコ マンドを入力して、OVO Agent が稼動していないことを確認します。

opcagt -status opcagt -stop opcagt -status

アップグレードの終了後、エージェントを再度起動できます。

データベースの実行

OVPIのアップグレードを開始する前に、データベースが稼動している必要があります。この項では、データベースが稼動しているかどうかを判断する方法、および、稼動していない場合にデータベースを起動する方法について説明します。

データベースが稼動していることの確認 (Windows)

Windows システムでデータベースが稼動していることを確認するには、以下の 手順に従います。

- 1 [コントロールパネル]ウィンドウから、[管理ツール]ウィンドウを開き[サー ビス]ウィンドウを開きます。
- 2 Sybase または Oracle サービスを探します。

Sybase サービスは以下のように表示されます。<server>は使用中の
 Sybase サーバーの名前です。

Sybase SQLServer_<server>

 Oracle サービスは以下のように表示されます。
 db name>は使用中の データベースの名前です。

Oracle OraHome 92 TNSListener OracleService <db name>

3 サービスがアクティブでない場合、データベースは稼動していません。[操作]メニューから起動する必要があります。

データベースが稼動していることの確認 (UNIX)

UNIX システムでデータベースが稼動していることを確認するには、以下の手順に従います。

• Sybase

コマンド行に以下のコマンドを入力します。*\$DATABASE* はデータベースをイ ンストールしたディレクトリです。

\$DATABASE/install/showserver

たとえば、Sybase を /usr/Sybase にインストールしてある場合、以下のよう に入力します。

/usr/Sybase/install/showserver

サーバーがリスト内に表示されない場合、データベースが稼動していません。 起動する必要があります。

• Oracle

コマンド行に以下のコマンドを入力します。

ps -aef | grep -i ora

結果リストに、リスナープログラムと、その他の一連の Oracle プロセスが表示 されることを確認します。

\$oracle/home/bin/tnslsnr
ora_xxx_<sid value>

いずれの場合も、xxx はプロセス名、<sid value> は Oracle システム識別子で す。プロセスがリスト内に表示されない場合、データベースが稼動していません。

UNIX システムでデータベースを起動するには、root アカウントでシステムに ログオンし、オペレーティングシステムに応じて以下のいずれかのコマンドを 入力します。

- Sybase
 - Solaris

/etc/init.d/Sybase start

— HP-UX

/sbin/init.d/Sybase start

Oracle

データベースの起動手順については、Oracle のマニュアルを参照してください。

コンポーネントのアップグレード順序

OVPIのインストールはスタンドアロン構成か分散型構成のいずれかです。スタンドアロン構成では、OVPIのすべてのコンポーネントが1つのシステムにインストールされます。分散型構成では、OVPIコンポーネント群が物理的に別々な複数のシステムにインストールされ、全体が1つの分散型システムとして動作します。

OVPI が正しく動作するには、OVPI コンポーネントがインストールされている すべてのシステム、およびすべてのコンポーネントをアップグレードする必要 があります。たとえば、データベースを実行しているシステムをアップグレード した場合、クライアントシステムと Web アクセスサーバーは、これらをアップ グレードしていないと、データベースに接続できません。OVPI 5.1.1 コンポー ネントは、古いバージョンの OVPI とは通信できません。 スタンドアロン構成では、コンポーネントは任意の順序でアップグレードでき ます。分散型構成では、最初にデータベーススキーマをアップグレードする必要 があります。現在の実装にリモートポーラーも分散型サーバーも含まれていない 場合は、その他のコンポーネントを任意の順序でアップグレードします。含まれ ている場合は、以下の手順でアップグレードします。

• リモートポーラー

特定のサーバーに従って構成されたリモートポーラーが実装に含まれている 場合は、まずそのサーバーをアップグレードし、次にリモートポーラーを アップグレードします。リモートポーラーをアップグレードするには、189 ページの「リモートポーラーのアップグレード」を参照してください。

分散型サーバー

分散型サーバー(サテライトおよび中央サーバー)が実装に含まれている場合は、trendcopyを実行するサーバーをアップグレードしてから、他の データベースシステムをアップグレードします。

エラーのロギング

アップグレードの間、OVPI は upgrade.log というログファイルを作成しま す。このファイルは、**\$TREND_log**(UNIX の場合)または **%TREND_LOG%** (Windows の場合)にあります。このファイルにはアップグレード中に行われた すべてのステップが記録されます。

OVPI のアップグレード手順



この項では、1 つのシステムにすべての **OVPI** コンポーネントがインストール されている場合、つまりスタンドアロン構成の場合のアップグレードについて 説明します。

アップグレードウィザードの起動方法を除けば、Windows システムと UNIX シ ステムとで、OVPI のアップグレード手順は同じです。したがって、以下の手順 では、Windows と UNIX の各システムでのウィザードの起動の違いを説明して いますが、アップグレードの手順は共通です。 リモートポーラーのアップグレードの手順は、189ページの「リモートポーラー のアップグレード」を参照してください。

OVPI をアップグレードするには、以下の作業を実行します。

タスク1: ログオンする

- 1 ローカルシステムにログオンします(分散型のアップグレードの場合は、 アップグレードするコンポーネントを含むシステムからアップグレードを開始します)。
 - Windows

管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。

— UNIX

rootとしてログオンします。

- 2 OVPI インストール CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユー ザーも CD をマウントします。手順は、61 ページの表 10 を参照してください。
- **3** Solaris システムのユーザーのみ:以下の作業を行います。
 - a cd_label を表示するには、次のコマンドを入力します。

ls -1 /cdrom

b ディレクトリを変更するには、以下のコマンドを入力します。*cd_label* は CD 名です。

cd /cdrom/cd_label

タスク 2: セットアッププログラムを起動する。

- 1 セットアッププログラムを起動するには、以下の手順に従います。
 - Windows

OVPI インストール **CD** を挿入すると、自動的にセットアッププログラ ムが起動します。自動的に起動しない場合は、**CD** の最上位のフォル ダーから setup.exe をダブルクリックします。

— UNIX

セットアッププログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動しま す。

./setup

[セットアップ]ウィンドウが開きます。



- ▶ Windows のみ: ウィサードのウィンドウが止しく表示されない場合 は、付録A「トラブルシューティング」を参照してください。
- HP 提供のレポートパックに行ったカスタム変更を再作成および再適 用するのに必要な情報が残っていることを確認してください。この情 報が手元にない場合、アップグレードを保留にし、必要な情報を入手 してください。
- 2 [セットアップ]ウィンドウの[アップグレード]セクションから、[OVPI 5.1.1]を選択します。





3 [次へ]をクリックしてアップグレードプロセスを続行します。

[使用許諾条件]ウィンドウが開きます。

≜ アップグレードウィザード	_ 🗆 ×
使用許諾条件 同封の使用許諾条件を注意深くお読みください。	
ご注意:ソフトウェアライセンスのご購入およびお支払、 ソフトウェアのご使用は、以下に示すIPPソフトウェア使 うものとします。本ソフトウェアを使用されると、下記 用許諾条件を受諾されたものと見なされます。下記の使用 諾されない場合、ソフトウェアをご返送頂くとその代金の けることができます。ソフトウェアが他の製品にバンドバ 合、その未使用製品全体をご返送頂かなければ代金の払い ことができない場合があります。	 ▶と同時に、本 申許諾条件に従 リフトウェア使 即許諾条件を受 D払い戻しを受 レされている場 >、戻しを受ける
HPソフトウェア使用許諾条件	_
○ 使用許諾条件に同意します ○ 使用許諾条件に同意しません	
<戻る 次へ>	キャンセル

- 4 以下のいずれかを実行します。
 - 使用許諾条件を拒否し、アップグレードを中断する場合は、[キャンセル]をクリックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックしてアップグレードプロセスを終了します。
- [いいえ]をクリックして[使用許諾条件]ウィンドウに戻ります。
 [使用許諾条件に同意します]オプションをクリックするとアップグレードを続行できます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのアップグレードを続行するには、[使用 許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。

[OVPI 識別子] ウィンドウが開きます。

≜ アップグレードウィザード	
OVPI識別子 現在のOVPIのインストール設定を下に示します。	
現在のOVPIのバージョン: 5.0.0 GA 現在のOVPIのディレクトリ:	
C:VOVPI	
, 現在のtrendtimer.schedファイル:	
C:\OVPI\lib\trendtimer.sched	
現在のOVPIのコンボーネント: DVPIデータベーススキーマ DVPIパフォーマンスマネージャ DVPI Webアクセスサーバー DVPIクライアント	
_ < 戻る (次へ >)	キャンセル

アップグレードウィザードは、システムを検証し、ウィンドウの各オプションが持つ情報を表示します。

- 現在の OVPI のバージョン。現在インストールされている OVPI のバージョンを表示します。
- 現在の OVPI のディレクトリ。OVPI がインストールされているディレクトリを表示します。

- 現在の trendtimer.sched ファイル。trendtimer.sched ファイルの 場所を表示します。
- 現在の OVPI のコンポーネント。システムに現在インストールされている OVPI コンポーネントを表示します。
- **5** [次へ]をクリックして続行します。

タスク 3: アップグレードを終了する

データベーススキーマが、アップグレードするシステムにインストールされて いない場合、[概要]ウィンドウが開きます。

[概要]ウィンドウが開きます。

	_ 🗆 ×
年夏 これまでの選択内容の要約を下に示します。選択内容を変更するには、[戻 る]をクリックします。これらの選択内容でインストールを行うには、[イン ストール]をクリックします。	
<u>ディスク容量</u> ファイルシステム: CA 必要な容量: 224 MB 使用可能な容量: 20,713 MB	<u>*</u>
避択したコンボーネント OVPIデータベーススキーマ:はい OVPIパフォーマンスマネージャ:はい OVPIWebアクセスサーバー:はい OVPIクライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:はい OVPIグライアント:していいろ	×
<戻る アップグレード	キャンセル

- 1 [概要]ウィンドウで、オプションの概要を確認します。
- **2** [**アップグレード**]をクリックします。

[進捗状況]ウィンドウが開き、アップグレードの進捗状況が表示されます。 アップグレードが終了すると、アップグレードが正常終了したことを示す メッセージが[進捗状況]ウィンドウに表示されます。

● アップグレードウィザード インストールの差渉状況 次の操作の処理が終わるまでお待ちください。	
 ゲサービスを停止しています ゲシステムを構成しています ゲリービスを削除しています ゲリートカットを削除しています アプリケーションの設定を更新しています アプリケーションの設定を更新しています ゲショートカットを作成しています ゲータペースを推成しています ゲリービスを作成しています ゲリービスを開始しています 	
インストーラが警告で終了 しました。詳細については、詳細ボタンをクリッ ください。	クして 詳細
	完了

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - アップグレードが正常に終了した場合は、[**完了**]をクリックします。
 - OVPIのアップグレードが正常終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、サポートに連絡してください。サポートへの連絡方法については、3ページの「サポート」を参照してください。
- 4 アップグレードを終了します。
 - UNIX

インストールは終了です。

— Windows

システムをリブートするには、[**今すぐ再起動する**]を選択して[**OK**]をク リックします。アップグレード版の **OVPI** を使用する前に、システムを リブートする*必要があります*。 5 Oracle 9.2.0.4 ユーザーのみ: Oracle 9.2.0.5 パッチセットを適用し、OVPI のすべてのサービスを開始します。65 ページのタスク3を参照し、OVPI の新規インストールにのみ関連する、OVPI とパッチセットのインストール 順序の警告は無視してください。

レポートパックとデータパイプのアップグレード

RNS 8.0 のローカライズされたレポートパックを使用するには、以下の手順に 従います。

- 1 RNS 7.0 にアップグレードします。181 ページの「パッケージのアップグ レード手順」を参照してください。
- **2** RNS 8.0 のローカライズされたレポートパックを抽出します。186 ページの「RNS CD からのパッケージの抽出」を参照してください。
- 3 RNS 8.0 のローカライズされたレポートパック用のレポートとフォームをす べて再配布します。他のすべてのレポートパックのレポートおよびフォーム を、手作業で配布する必要があります。188 ページの「レポートおよび フォームの配布」を参照してください。

次の用途に使用できるアップグレード版レポートパックがあり、パッケージマ ネージャを使用してレポートとフォームを再配布します。Interface Resources、 Device Resources、RMON Ethernet、System Resources、Common Properties です。これらのレポートパックは次の Web サイトからダウンロード できます。

http://support.openview.hp.com/cpe/ovpirp/patch_ovpi_report_solutions.jsp (英語)

この章では、以下の項目について説明します。

- アップグレードに関する基本情報
- OVPI と RNS との互換性の問題
- 新しい名前の2つのパッケージ
- シーケンス問題
- パッケージのアップグレード手順

• アップグレード終了後の作業

アップグレードに関する基本情報

RNS の各リリースに、新しいパッケージ、既存のパッケージの更新版、および 以前のリリースから変更されていないパッケージが混じって同梱されています。 パッケージを初めてインストールする場合、インストールは簡単です。新しい パッケージには前提条件(依存関係とも呼ぶ)があるかも知れませんが、その前 提条件がすでにインストール済みである場合もあります。まだインストールさ れていない場合、パッケージマネージャによって自動的にインストールされま す。

すでにインストール済みのレポートパックをアップグレードする場合、インス トールは複雑です。これは、場合によっては、まず前提条件となるパッケージを アップグレードし、次にレポートパックのアップグレードをする必要があるか らです。レポートパックをアップグレードする前に、前提条件となるパッケージ をアップグレードすることと、レポートパックのアップグレード後に、レポー トパックに関連したオプションモジュール(ロケーションモジュールなど)を アップグレードすることに注意してください。次の項で詳細に説明しますが、レ ポートパックをアップグレードした後で、これらのモジュールのアップグレー ドパッケージをインストールする必要があります。

OVPI と RNS との互換性の問題

RNS のリリースは、特定の OVPI リリースとともに動作するよう設計されてい ます。OVPI 5.1.1 は RNS 7.0 以降で動作します。



RNS の各リリースに、新しい機能とバグ修正を説明したリリースノートが付属 しています。パッケージが変更されているかどうかを確認する場合は、RNS リ リースノートを参照してください。

OVPI 5.0 から OVPI 5.1.1 にアップグレードした後は、以下のいずれかを選択 できます。

- RNS 6.0 をそのまま使用し続ける。ただし、レポートとフォームはローカラ イズされない。
- RNS 7.0 にアップグレードする。ただし、レポートとフォームはローカライズされない。

RNS 8.0 レポートパックを抽出し、次にレポートパックのレポートとフォームを再配布する。

RNS 8.0 英語バージョンにはインストール可能な新しいレポートパックがあり ますが、これらのレポートパック用のレポートとフォームはローカライズされ ていません。

順序の問題

複数のパッケージを同時にアップグレードできます。複数のパッケージを同時に アップグレードする場合、以下の順序で行うことをお勧めします。

- 共有パッケージをアップグレードする
- Interface Reporting など前提条件となるレポートパックをアップグレード する
- 他のすべてのレポートパックをアップグレードする

共有パッケージ

一部のOVPIパッケージは、複数のレポートパックで共有されています。共有 パッケージは、同時に並行してインストールできます。

表1に共有パッケージのリストを示します。このリストからわかるように、共有 パッケージには、先にアップグレードが必要な依存パッケージはありません。こ れは共有パッケージには前提条件となるパッケージがないからか、またはアッ プグレードパスがないからです。

表1 共有パッケージのアップグレードシーケンス

アップグレードする共有パッケージ	先にアップグレードするパッケージ
Common Properties Tables	N/A(依存関係なし)
Thresholds Module	N/A(依存関係なし)
Interface Discovery Datapipe	N/A(アップグレードパスなし)

アップグレードする共有パッケージ	先にアップグレードするパッケージ
NetFlow Preprocessor	N/A(アップグレードパスなし)
Newbridge Preprocessor	N/A(アップグレードパスなし)
Stratacom Preprocessor	N/A(アップグレードパスなし)

Interface Discovery Datapipe は、複数のレポートパックにインタフェースに関 する情報を提供します。Interface Discovery Datapipe は、以下のデータパイプ の前提条件です。

- Interface Reporting ifEntry Datapipe
- ATM ifEntry Datapipe
- Frame Relay CPE Datapipe

上記のデータパイプのいずれかを初めてインストールする場合、パッケージマ ネージャが自動的に Interface Discovery Datapipe をインストールします。

レポートパック

表2にレポートパックのリストを示します。またそのレポートパックをアップ グレードする前に先にアップグレードしておく必要があるパッケージも示しま す。Common Property Tables は必須パッケージであるため、必ず Common Property Tables を最初にアップグレードする必要があります。Thresholds Module はオプションです。このため、Thresholds Module のアップグレード は、Threshold Module を使用している場合にのみ必要です。

Interface Reporting が、アップグレードするレポートパックにとっての前提条 件である場合は、まず Interface Reporting を先にアップグレードしてから、レ ポートパックのアップグレードパッケージをインストールする必要があります。

アップグレードするレポートパック	先にアップグレードするパッケージ
ATM ^a	Common Property Tables Thresholds Module Interface Reporting
Cisco IP Telephony Call Detail	Common Property Tables Thresholds Module
Cisco IP Telephony Statistics	Common Property Tables Thresholds Module
Cisco Ping	Common Property Tables Thresholds Module
Device Resources	Common Property Tables Thresholds Module
Executive Summaries	Common Property Tables Thresholds Module Interface Reporting Device Resources
Frame Relay	Common Property Tables Thresholds Module Interface Reporting
Interface Reporting	Common Property Tables Thresholds Module
IP Access Rate	Common Property Tables Thresholds Module Interface Reporting
IP QoS Statistics	Common Property Tables Thresholds Module Interface Reporting

表 2 レポートパックのアップグレードシーケンス
アップグレードするレポートパック	先にアップグレードするパッケージ
MPLS VPN	Common Property Tables Thresholds Module
NetFlow Global	Common Property Tables Thresholds Module
NetFlow Interface	Common Property Tables Thresholds Module
NNM Event and Availability	Common Property Tables Thresholds Module
Internet Services (OVIS)	Common Property Tables Thresholds Module
RMON Ethernet Statistics	Common Property Tables Thresholds Module
RMON2 Traffic Profiling	Common Property Tables Thresholds Module
Service Assurance	Common Property Tables Thresholds Module
System Resources	Common Property Tables Thresholds Module

a. ATM のアップグレードを実行する前に、Upgrade ATM Checker をインストー ルする必要があります。DPIPE_HOME/tmp にある、 check_ATM_Property_consistency.out という出力ファイルを確認 し、エラーをすべて修正してから、ATM レポートパックをアップグレードしま す。

パッケージのアップグレード手順

以下の手順に従って、レポートパックをアップグレードします。

• OVPI Timer を停止させる

- ポーリングポリシー/グループをエクスポートして既存の設定データを保存 する
- アップグレードパスのないパッケージをアンインストールする
- 新しいパッケージのディレクトリを作成する
- レポートパックをインストールする
- 新しいデータパイプをインストールする
- アップグレード後の作業を実行する

OVPI Timer を停止させる

OVPI Timer がまだ停止していない場合は停止させ、以下の作業を実行してプロ セスが終了するのを待ちます。

- Windows
- a コントロールパネルから、[**管理ツール**]をダブルクリックします。[管理 ツール]ウィンドウが開きます。
- b [サービス]をダブルクリックします。[サービス]ウィンドウが開きます。
- c [OVPI Timer]を右クリックし、メニューから[停止]を選択します。
- HP-UX

/sbin/init.d/ovpi_timer stop と入力します。

— Solaris

/etc/init.d/ovpi_timer stop と入力します。

設定データの保存

データパイプをアンインストールし、同じデータパイプの新しいバージョンを 再インストールする場合、リモートポーラーに割り当てられたポーリングポリ シーは失われます。また汎用ポリシーに別の名前を指定しこの名前を複数のリ モートポーラーに割り当てた場合も、複製したポーリングポリシーはすべて失 われます。これは、新しいデータパイプの再インストールにより汎用ポーリング ポリシーが元に戻ることが原因です。カスタマイズ結果が失われるのを防ぐに は、collection_managerコマンドとgroup_managerコマンドを使用して、 現在有効な設定を取り込みます。



エクスポートしたものを、新しいバージョンにインポート*するべきではありません*。データパイプのバージョン間は互換性がありません。エクスポートしたものは設定が正しく元に戻らず、データ破壊が発生する可能性があります。

collection_manager コマンドと **group_manager** コマンドの詳細は、 『*Performance Insight Reference Guide*』を参照してください。

ポーリングポリシーのエクスポート

お使いの環境にリモートポーラー用のポーリングポリシーが割り当てられてい る場合には、**collection_manager** コマンドを使って、すべてのポーリング ポリシーをファイルにエクスポートしてください。

• UNIX

trendadm ユーザーは、コマンド行から以下を実行します。

```
cd $DPIPE_HOME
./bin/collection_manager -export -file /tmp/
savePollingPolicy.lst
```

• Windows

Administrator として、コマンドウィンドウを起動し、OVPIのインストー ルディレクトリに移動し、コマンド行から以下を実行します。

bin¥collection_manager -export -file ¥temp¥savePollingPolicy.lst

ポーリンググループのエクスポート

お使いの環境に、カスタマイズまたは変更したポーリンググループがある場合 は、group_manager コマンドを使用して、すべてのグループを1つのディレ クトリの個々の.xml ファイルにエクスポートしてください。

• UNIX

trendadm ユーザーは、コマンド行から以下を実行します。

cd \$DPIPE_HOME

```
./bin/group_manager -export_all -outfile /tmp/
savePollingGroups
```

Windows

Administrator として、コマンドウィンドウを起動し、OVPI のインストー ルディレクトリに移動し、コマンド行から以下を実行します。

bin¥group_manager -export_all -outfile
¥temp¥savePollingGroups

カスタムテーブルビューの削除

データテーブルまたはプロパティテーブルにカスタムビューを作成した場合、 そのカスタムビューがレポートパックのアップグレードプロセスに影響を及ぼ し、アップグレードが失敗する場合があります。作成したカスタムビューがアッ プグレードプロセスに影響を及ぼすかどうかは、その作成方法によります。これ らのビューを、SQLを使用して作成した場合、アップグレードは成功しますが、 アップグレードが終了するとカスタムビューが使用できなくなります。これらの ビューを、Datapipe Manager を使用して作成した場合、アップグレードが失敗 することがあります。アップグレードが失敗しないようにするために、レポート パックをアップグレードする前に必ずカスタムビューを削除し、アップグレー ドが完了してからこれらのビューを再作成してください。

カスタムデータテーブルビューを削除するには、以下をコマンド行に入力しま す。<custom view name> はデータテーブルビューの名前です。

datapipe_manager -p delete -T < custom view name>

アップグレードパスのないパッケージのアンインストール

RNS 配布 CD からパッケージを抽出する前に、以下の種類のパッケージをアン インストールできます。

- データパイプ
- プリプロセッサ
- しきい値サブパッケージ

パッケージの抽出の後、これらのパッケージの最新バージョンを再インストー ルします。

これらのパッケージの既存のバージョンをアンインストールするには、以下の 手順に従います。

アンインストールする各パッケージの名前とバージョン番号を書き留めます。

- 2 パッケージマネージャを開始します。
- **3** [OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開いたら、[**アンインストール**]をク リックします。
- 4 [OVPI レポートの配布]ウィンドウが開いたら、[レポートの配布]を無効に します。
- 5 [OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開いたら、アンインストールする各 パッケージをクリックします。
- **6** [概要]ウィンドウが開いたら、[**アンインストール**]をクリックします。
- 7 パッケージマネージャによりアンインストールの完了が通知されたら、[完了]をクリックします。

パッケージディレクトリの作成

アップグレードパッケージに新しいディレクトリを作成するには、以下の手順 に従います。

- 1 DPIPE_HOME/packages ディレクトリの名前を変更します。これにより現 在のレポートパックが保存され、ディレクトリが移動します。
- **2** 空の DPIPE_HOME/packages ディレクトリを新規に作成します。
- UNIX ユーザーのみ: パッケージ エクストラクタを実行する前に、以下の手順に従います。
 - a パッケージ エクストラクタを実行するシステムに、root としてログオ ンします。
 - **b** DISPLAY 環境変数を設定します。

ksh シェルと sh シェルについては、以下のコマンドを入力します。 hostname は、パッケージ エクストラクタを実行するシステムの名前で す。

DISPLAY=hostname:0; export DISPLAY

csh シェルの場合、以下を入力します。

setenv DISPLAY hostname:0

RNS CD からのパッケージの抽出

アップグレードパッケージはすべて **RNS** 配布 **CD** に収録されています。この **CD** には、パッケージディレクトリにパッケージを抽出するためのインストール スクリプト、パッケージ エクストラクタも収録されています。

パッケージを抽出するには、以下の手順に従います。

- RNS 配布 CD を挿入し、パッケージ エクストラクタを実行します。 CD-ROM ディレクトリから、以下のいずれかを実行します。
 - UNIX

以下のコマンドを入力します。

./setup

Windows

ファイル setup.bat をダブルクリックします。

2 作業を続行するかどうかを尋ねる警告メッセージが表示されます。yと入力 します。

レポートパックのアップグレードのメインメニューが開きます。

3 選択フィールドに1を入力し、Enterを押します。

インストールスクリプトが進捗バーを表示します。Packages ディレクトリ へのコピーが終了すると、インストールスクリプトはパッケージマネージャ を開始します。[パッケージマネージャ]の[ようこそ]ウィンドウが開きま す。

レポートパックのインストール

RNS 配布 **CD** からパッケージを抽出する前に、アップグレードパスがないパッ ケージをアンインストールできます。これらのパッケージにはデータパイプとし きい値サブパッケージが含まれており、すべてを一度にアンインストールでき ます。これらのパッケージをアンインストールしたら、レポートパックをアップ グレードすることができます。各レポートパックをアップグレードしたら、各 データパイプの最新バージョンとしきい値サブパッケージの最新バージョンを 再インストールできます。

オプションモジュール

一部のレポートパックはオプションモジュールを含んでいます。オプションモジュールは、メインパッケージをアップグレードしただけではアップグレードされません。表3に、オプションモジュールを含むレポートパックを示します。

表3 オプションモジュールを含むレポートパック

レポートパック	モジュール
Device Resources	DeviceResourceBackplane
Interface Reporting	Interface_Reporting_Device Interface_Reporting_Location Interface_Reporting_Protocol Interface_Reporting_Vlan
IP Telephony Call Detail	IPT_CallDetails_Location
IP Telephony Statistics	Gateway_Statistics_Location
Service Assurance	Service_Assurance_Location Service_Assurance_NRT
System Resources	SR_CPU SR_DISK

オプションモジュールを含むレポートパックをアップグレードする場合、必ず 複数の作業が必要です。なぜなら、メインパッケージがアップグレードされる までは、オプションモジュールのアップグレードパッケージをインストールで きないからです。

オプションモジュールを含むレポートパックのアップグレード

アップグレードするレポートパックにオプションモジュールが含まれている場合、かつ、パッケージマネージャがそれらのモジュールのアップグレードパス を示している場合は、アップグレードを以下のように実行します。

- パッケージマネージャを起動し、レポートバックのアップグレードパッケージをインストールします。
- インストールが終了したら、[**完了**]をクリックします。

- パッケージマネージャを再起動します。各オプションモジュールのアップグレードパッケージを(同時に)インストールします。
- インストールが終了したら、[完了]をクリックします。
- パッケージマネージャには2つの場所にバージョン番号が表示されます。[バー ジョン]列と、アップグレードパッケージの名前です。場合によっては、[バー ジョン]列に表示される数値が、パッケージ名に表示されるバージョン番号と 一致しないことがあります。この不一致が見つかった場合は必ず、アップグレー ドパッケージの名前として表示されている方のバージョン番号を採用してくだ さい。

パッケージマネージャの詳細については、『Performance Insight 管理ガイド』 を参照してください。パッケージのインストールの詳細は、そのパッケージの ユーザーガイドを参照してください。パッケージのユーザーガイドは、以下の Web サイトからダウンロードできます。

http://www.hp.com/managementsoftware(英語)

[**Support**]、[**製品マニュアル(英語)**]の順に選択すると、「Product Manuals search」ページ(英語)が表示されます。OVPIのマニュアルは[1. Product]で [Performance Insight]を選択すると表示されます。また、レポートパックおよ び共有パッケージのユーザーガイドは、[Reporting and Network Solutions] を 選択すると表示されます。

レポートおよびフォームの配布

RNS 8.0 レポートパックを抽出したら、レポートパックのレポートおよび フォームを配布する必要があります。



以下のいずれかの方法を使ってレポートを配布します。

- 配布ウィザード。詳細は、『Performance Insight レポートの作成および表示 ガイド』を参照してください。
- Web アクセスサーバー。詳細は、『Performance Insight レポートの作成お よび表示ガイド』を参照してください。

 deploytool コマンド。詳細は、『Performance Insight Reference Guide』を 参照してください。

以下のいずれかの方法を使ってフォームを配布します。

- パッケージマネージャ。Package Manger の詳細については『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。install.pkg ファイル用の form ディレクティブおよび formdir ディレクティブの詳細については、 『Performance Insight Reference Guide』を参照してください。
- formdeploytool コマンド。詳細は、『Performance Insight Reference Guide』を参照してください。
- 配布ウィザードから実行。詳細は、『Performance Insight レポートの作成お よび表示ガイド』を参照してください。

アップグレード後の作業

以下のタスクを実行します。

- 1 復元の必要のあるポーリングポリシーとグループ定義を再設定します。
 - エクスポートしたものを、新しいバージョンにインポートするべきではありません。データパイプのバージョン間には互換性がありません。インポートに使用すると、設定が正しく元に戻らず、データが破壊されるおそれがあります。
- 2 カスタムデータテーブルビューを削除した場合は、ここでビューを再作成します。
- 3 この時点でサービスパックをインストールしない場合、パッケージアップグレードプロセスを起動する前に停止させた OVPI Timer、OVO Agent プロセス、その他すべてのプロセスを再起動します。

リモートポーラーのアップグレード

リモートポーラーは、ネットワークノードからデータを収集し、リレーショナ ルデータベースにそのデータを格納します。リモートポーラー自体にはデータ ベースはありません。外部のサーバーによって制御され、通常は OVPI グラフィ カルユーザーインタフェースアプリケーションを含んでいません。標準外または 従来の装置のパフォーマンスデータは、データパイプを使用して収集できます。 データパイプの詳細は、『Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

リモートポーラーをアップグレードするには、以下の手順に従います。

- 1 ローカルシステムにログオンします。
 - Windows の場合:

管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。

— UNIX の場合:

rootとしてログオンします。

- 2 OVPI 5.1.1 インストール CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユーザーは CD をマウントする必要があります。この作業の詳細について は、61 ページの表 10 を参照してください。
- **3** Solaris システムの場合のみ:以下の手順に従います。
 - a cd_labelを表示するには、次のコマンドを入力します。

ls -1 /cdrom

b ディレクトリを変更するには、以下のコマンドを入力します。*cd_label* は CD 名です。

cd/cdrom/cd_label

- アップグレードウィザードが自動的に起動する場合、[終了]を選択します。アップグレードウィザードは手動で起動する必要があります。
- 4 以下の*いずれか*を実行してアップグレードウィザードを起動します。
 - Windows の場合:

[スタート]メニューから、[**ファイル名を指定し実行**]を選択し、[名前] ボックスに以下を入力します。*cdrom_drive* は CD-ROM のドライブを 入力してください。

cdrom_drive:¥setup -upgrade

— UNIX の場合:

セットアッププログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動しま す。

./setup -upgrade

[セットアップ]ウィンドウが開きます(171ページを参照)。

5 ウィンドウの[アップグレード]セクションから、[**リモートポーラー**]を選 択します。

[ようこそ]ウィンドウが開きます(172ページを参照)。[次へ]をクリック してアップグレードプロセスを続行します。

- 6 [使用許諾条件]ウィンドウが開きます(172ページを参照)。以下の*いずれ* かを実行します。
 - 使用許諾条件を拒否し、アップグレードを中断する場合は、[キャンセル]をクリックします。

確認のウィンドウが表示されます。

- [**はい**]をクリックしてアップグレードプロセスを終了します。
- [いいえ]をクリックして[使用許諾条件]ウィンドウに戻ります。
 [使用許諾条件に同意します]オプションをクリックしてアップグレードを続けます。
- 使用許諾条件に承諾し、OVPIのアップグレードを続行するには、[使用 許諾条件に同意します]オプションをクリックし、[次へ]をクリックします。
- 7 [OVPI 識別子] ウィンドウが開きます (173 ページを参照)。

アップグレードウィザードは、システムを検証し、ウィンドウの各オプショ ンが持つ情報を表示します。

- 現在の OVPI のバージョン。現在インストールされている OVPI のバー ジョンを表示します。
- 現在の OVPI のディレクトリ。OVPI がインストールされているディレ クトリを表示します。
- 現在の trendtimer.sched ファイル。trendtimer.sched ファイルの 場所を表示します。
- 現在の OVPI のコンポーネント。システムに現在インストールされている OVPI コンポーネントを表示します。

[次へ]をクリックして続行します。

- 8 [リモートデータベースの設定]ウィンドウが開きます(139ページの図3を 参照)。
 - a [リモートデータベースホスト]ボックスにデータベースホストの名前 を入力します。
 - **b** [リモート管理サーバーポート]ボックスにデータベースホストのポート番号を入力します。
 - **c** [**次へ**]をクリックして続行します。
- 9 [概要]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでオプションの要約を確認し、[**アップグレード**]をクリックします。
- 10 [インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールの進捗状況が 表示されます。以下のいずれかを実行します。
 - アップグレードが正常に終了した場合は、[**完了**]をクリックします。
 - OVPIのアップグレードが正常に終了しなかった場合は、[インストールの進捗状況]ウィンドウの下にある[詳細]ボタンをクリックして詳細な情報を調べてから、サポートに連絡してください。
- 11 アップグレードを終了します。
 - UNIX システム: インストールは終了です。
 - Windows システム:システムを再起動してアップグレード版 OVPI の使用を開始するには、[今すぐ再起動する]を選択します。[OK] をクリックします。

OVPI を使用する前に、システムをリブートする必要があります。

最新の OVPI サービスパックの適用

この時点で、OVPI 環境の各システムに、OVPI バージョン 5.1.1 の最新のサー ビスパックをインストールすることを強くお勧めします。サービスパックは、以 下の Web サイトから入手できます。

http://support.openview.hp.com/cpe/ovpi/patch_ovpi.jsp



トラブルシューティング

この付録では、HP OpenView Performance Insight (OVPI) のインストール中に 発生する可能性のあるエラーメッセージおよび諸問題について説明します。

UNIX に関連する問題

この項では、Sybase または OVPI のインストール時に、特定のベンダーのデバ イスに対して必要になる変更作業について説明します。

OVPIの起動 (Solaris の場合)

Solaris で OVPI を起動すると、次の警告メッセージが表示される場合があります。

Illegal mnemonic - could not convert X KEYSYM to a keycode

これは、ハードウェアのキーマッピングの問題であり、OVPIに影響はありません。必要に応じて、xmodmapプログラムを使って現在のキーマッピングを参照し、修正することができます。

現在のキーマッピングを参照し、修正するには、次の手順に従います。

- 1 コマンド行から、以下のように入力します。
 - su to root
- 2 次のコマンドを入力します。

xmodmap -e "keysym KP_Insert = Insert"



この作業はシステムを再起動するたびに実行する必要があります。

Windows に関連する問題

この項では、Windows 環境で OVPI を使用する際に起こる可能性のある問題に ついて説明します。

インストールウィザードのウィンドウの表示の修正

インストール時にインストールまたはアンインストールウィザードのウィンド ウが正しく表示されない場合は、Windows フォントのテキストサイズを変更す る必要があります。

Windows フォントのテキストサイズを変更するには、次の手順に従います。

- Windows のタスクバー上の[スタート]ボタンをクリックし、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。[コントロールパネル]ウィンドウが開きます。
- 2 [画面]アイコンをダブルクリックします。
- **3** [設定]タブを選択します。
- 4 [設定]タブで、[**詳細**]ボタンをクリックします。
- 5 [全般]タブで、[フォント サイズ]リストから[**小さい フォント**]を選択しま す。

手作業による OVPI のアンインストール

何らかの理由で Windows 上での OVPI のアンインストールが失敗した場合は、 以下の手順に従って、手作業で OVPI をアンインストールする必要があります。 OVPI を手作業でアンインストールするには、次の手順に従います。

タスク 1: すべての OVPI サービスを停止する

以下のサービスを停止します。

- OVPI HTTP Server
- OVPI Timer

タスク 2: OVPI HTTP Server を削除する

OVPI HTTP Server を削除するには、次の手順に従います。

- コマンドプロンプトウィンドウを開き、installation_directory¥jrun¥bin ディレクトリに移動します。installation_directoryは、OVPIのインストー ル先ディレクトリです。
- 2 次のコマンドを実行します。

jrunsvc -remove "OVPI HTTP Server"

タスク 3: 以下のレジストリエントリーを削除する

 [HKEY_LOCAL_MACHINE]⇔[SOFTWARE]の順に開き、Macromedia フォルダー、Install Data フォルダーを展開して、次のエントリーを削除し ます。

JRun4

2 [HKEY_LOCAL_MACHINE]⇔[SOFTWARE]⇔[Hewlett-Packard]⇔[HP OpenView]の順に開き、次のエントリーを削除します。

Performance Insight

タスク 4: OVPI Timer サービスを削除する

OVPITimer を削除するには、次の手順に従います。

- コマンドプロンプトウィンドウを開き、installation_directory¥binディレ クトリに移動します。installation_directoryは、OVPIのインストール先 ディレクトリです。
- **2** 次のコマンドを実行して **OVPITimer** を削除します。

trendtimer -r

タスク 5: 特定の環境変数を削除して編集する

- Windows のタスクバー上の[スタート]ボタンをクリックし、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。[コントロールパネル]ウィンドウが開きます。
- [システム]をダブルクリックします。[システムのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [詳細] タブをクリックし、[環境変数] ボタンをクリックします。
- 4 以下の変数を削除します。
 - COLLECT_HOME
 - DPIPE_HOME
 - DPIPE_TMP
 - TREND_LOG
- 5 PATH 環境変数の OVPI に関連するものをすべて削除するよう編集し、完了 したら [**OK**] をクリックします。

タスク 6: システムを再起動する

タスク 7: OVPI ディレクトリを削除する

タスク 8: OVPI プログラムフォルダーを削除する

- **1** [**スタート**]ボタンを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューから [開く All Users] を選択します。

- **3** [プログラム]フォルダーを展開し、[HP OpenView]フォルダーを展開しま す。
- **4** [Performance Insight] を右クリックし、ショートカットメニューから [削除] を選択します。

トラブルシューティング

B

Pre-Upgrade Checker エラーメッセージ



Pre-Upgrade Checkerは、このリリースでは使用されません。

Pre-Upgrade Checker エラーメッセージ

索引

Η

HP-UX OVPI コンポーネントのパッチ, 35 raw パーティションの設定, 49 必要な Java パッチ, 35

HP-UX で必要な **OVPI** コンポーネントのパッ チ,35

J

Java 必要なオペレーティングシステムパッチ HP-UX, 35 Solaris, 35 Windows, 35 表示, 34 Java パッチ(アップグレード), 163

0

OpenView Operations Agent アップグレードの停止,165 Oracle インストール,64 既存のリモートデータベースの使用, 74 推奨パラメータ,70 表領域のガイドライン,72

ハードウェア要件,36 パラメータの変更,92,125 OVPI RNS との互換性, 177 アーキテクチャ(図),12 アップグレード,161 アップグレード手順.169 アンインストール,155 インストールの留意事項 UNIX 固有の,43 構成方法,22 システムの要件,30 セットアッププログラム,60 前提条件のチェックリスト,29 問題,26 概要,11 記憶領域要件,41 起動に関する問題 Solaris での, 193 クライアントアプリケーション Web アクセスサーバー, 14 管理コンソール,15 レポートビューア,14 レポートビルダ,14 互換性のある RNS リリース, 177 コンポーネント,12 Web アクセスサーバー,14

管理サーバー,16 クライアントアプリケーション,14 データベース.13 パフォーマンスマネージャ.13 リモートポーラー,16 コンポーネントのアップグレード順序, 168サービスパック,192 サポートされているオペレーティングシ ステム,11 手作業によるアンインストール Windows, 195 **OVPI HTTP Server** アップグレードの停止,165 **OVPI** Timer アップグレードの停止,165 停止.182 OVPI クライアント インストール.141 インストールの前提条件,141,145 OVPI データベース Oracle インストールの前提条件,117 インストール,43,118 インストールタイプ raw パーティション,44 UNIX ファイルシステム,45 記憶領域要件,40 デフォルトのポート番号,32 OVPIのアンインストール,155 UNIX での, 155 Windows での, 155 手作業による Windows, 195 **OVPI**の構成 分散 例,24

OVPI の構成方法 スタンドアロン,22 分散,22 例,33

R

raw パーティション **UNIX**, 43 設定 HP-UX, 49 Solaris, 46 長所と短所,44 定義,44 raw パーティションの設定 HP-UX, 49 Solaris, 46 RNS OVPI の互換性, 177 共有パッケージ,178 アップグレードシーケンス.178 レポートパック,179 レポートパックとデータパイプのアップ グレード,176 RNS 共有パッケージ アップグレードシーケンス,178 RNS リリース, 177

S

SNMP Security Pack, 28 Solaris OVPIの起動に関する問題, 193 rawパーティションの設定, 46 必要な Java パッチ, 35 SSL 有効にする, 103, 137

Sybase

アドレス指定可能なメモリーの制限,42 記憶領域要件,39 デバイスサイズの制限,41 ハードウェア要件,36 メモリー構成の要件,39

Т

trendtimer.sched ファイル 複数ポーラー用の変更,151

U

UNIX OVPIのアンインストール,155 サポートされているデスクトップ.32 データベースが稼動していることの確認. 167 データベースの起動,167 ファイルシステムと raw パーティション との比較,43 UNIX 固有の検討事項,43 OVPI データベースのインストール,43 raw パーティションの設定 HP-UX, 49 Solaris, 46 UNIXファイルシステム.45 UNIX ファイルシステム OVPI データベースのインストール,45

W

Web アクセスサーバー,14,18 インストール,132 詳細設定,100 インストールの前提条件,132 設定,100 デフォルトのポート番号,32 ブラウザの要件,29 Windows
 OVPI のアンインストール,155
 画面の表示に関する問題,194
 データベースが稼動していることの確認, 166
 データベースの起動,166
 手作業による OVPI のアンインストール, 195
 必要な Java パッチ,35

あ

アカウント、ユーザー, 102, 136 アップグレード **OVPI**, 161 OVPI の手順,169 エラーのロギング,169 オプションモジュールを含むレポート パック,187 コンポーネント順序,168 リモートポーラー.189 レポートパックとデータパイプ.176 アップグレードシーケンス(RNS) レポートパック,179 アップグレードパスのないパッケージ アンインストール.184 アップグレードパスのないパッケージのアン インストール,184 アップグレードパッケージ(RNS) 抽出,186 アップグレードパッケージの抽出(RNS).186 アップグレード用メディア.162 アドレス指定可能なメモリーの制限 Sybase, 42 アンインストールウィザード 起動,156

一般的なネットワーク接続性,27 インストール Oracle, 64 既存のリモートデータベース,74 推奨パラメータ,70 表領域 サイズ設定のガイドライン,72 表領域の作成,68 OVPI クライアント,141 OVPI データベース,118 Web アクセスサーバー, 132 スタンドアロン構成 Oracle, 80 to 106 分散型構成, 112 to 154 リモートポーラー,144 レポートパック,186 インストールに関する問題 NNM 統合,28 SNMP Security Pack, 28 一般的なネットワーク接続性,27 国際化とローカライズ,28 専用システム,27 ポーリングおよび SNMP の接続性.27 レポートパックの更新.27 レポートを利用するクライアントの接続 性.27 インストールのトラブルシューティング,193 UNIX に関連する問題, 193 Windows に関連する問題,194 インストールの留意事項 OVPI の構成方法,22 UNIX 固有の,43 システムの要件.30 セットアッププログラム,60 前提条件のチェックリスト,29 インストールの前提条件,29 ウィザード

アンインストール,156 エクスポート ポーリンググループ,183 ポーリングポリシー,183 エラーのロギング(アップグレード),169 オプションモジュール レポートパック,187 オペレーティングシステム インストールでサポートされている,31 オペレーティングシステム(アップグレード), 162

か

画面の表示に関する問題 Windows, 194 管理コンソール,15 管理サーバー.16 デフォルトのポート番号,33 記憶領域要件 **OVPI**, 41 OVPI データベース,40 Sybase, 39 共有パッケージ (RNS), 178 アップグレードシーケンス,178 クライアント OVPI クライアントを参照 互換性問題 OVPI & RNS, 177 国際化とローカライズ.28 コンポーネント アップグレード順序,168

さ

サービスパック (OVPI), 192

サテライトサーバーシステム,18 システムのアップグレード要件 Java パッチ, 163 OVPI のバージョン, 162 アップグレード用メディア,162 オペレーティングシステム,162 データベースバージョン.163 システムの役割 OVPI コンポーネント別.19 Web アクセスサーバー.18 サテライトサーバー,18 スタンドアロン,17 中央サーバー.18 リモートポーラー,17 システムの要件 HP-UX パッチ,35 Java パッチ,34 Svbase でのアドレス指定可能なメモリー の制限,42 Svbase デバイスサイズの制限.41 サポートされているオペレーティングシ ステム,31 サポートされているデスクトップ (UNIX), 32 サポート対象のデータベース管理システ 4.31データベースのハードウェア,36 デフォルトのポート番号.32 例,33 メモリーおよび記憶領域,38 事前に必要な作業のチェックリスト(アップ グレード),163 スタンドアロン構成 定義,22 スタンドアロンシステム,17 設定データ

保存,182 設定データの保存,182 セットアッププログラム,60

た

チェックリスト アップグレード作業,163 インストールの前提条件.29 中央サーバーシステム.18 追加 ユーザーアカウント,102,136 データベース Sybase を参照 起動 UNIX での, 167 Windows での, 166 実行の確認 UNIX での, 167 Windows での, 166 ハードウェア要件,36 メモリー構成の要件 Sybase, 39 データベース管理システム インストールでサポートされている.31 データベースセグメント 変更,91,124 データベースバージョン(アップグレード), 163デスクトップ(UNIX) インストールでサポートされている,32 デバイスサイズの制限 Sybase, 41 デフォルトのポート番号 例,33 トラブルシューティング

インストール,193 UNIX に関連する問題,193 Windows に関連する問題,194

な ネットワークノードマネージャ (NNM), 28

は

ハードウェア データベースの要件.36 パッケージディレクトリ 作成.185 パッケージディレクトリの作成,185 パッケージのアップグレード 手順,181 パッケージのアップグレード手順,181 パッチ HP-UX, 35 Java, 34 パフォーマンスマネージャ.13 インストール 詳細設定,95 設定,95 表領域 作成 (Oracle), 68 ファイアウォール OVPI ポート,33 インストールに関する問題,27 ファイルシステム UNIX, 45 ブラウザの要件 Web アクセスサーバー,29 分散型構成 インストール, 112 to 154 採用の理由,22

定義,22 例,24 変更 データベースセグメント,91,124 ポート番号 OVPIデータベース,32 Web アクセスサーバー,32 管理サーバー,33 例,33 ポーリングおよび SNMP の接続性,27 ポーリンググループ エクスポート,183 ポーリングポリシー エクスポート,183

ま

メモリー要件,38

や

有効にする SSL, 103, 137 ユーザーアカウント 削除, 103, 137 作成および変更, 102, 136 ユーザーアカウントの削除, 103, 137

6

 リモート Oracle データベース 既存のデータベースの使用,74
 リモートポーラー,16,17 trendtimer.sched ファイルの調整,151 アップグレード,189 インストール,144
 レポートディレクトリ、場所の変更,101,135

- レポートパック インストール,186 オプションモジュール,187 アップグレード,187 レポートパック(RNS),179 アップグレードシーケンス,179 レポートパックとデータパイプ アップグレード,176 レポートパックの更新,27 レポートパッケージのアップグレード OVPI Timer の停止,182 設定データの保存,182 レポートビューア,14
- レポートビルダ,14
- レポートを利用するクライアントの接続性,